SL-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト

http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

S

V

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環　境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

警告ラベル

⚠ 事故のおそれがあります

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

安全のために

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ロールバー周辺には荷物を置かないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。また、ロールバーの機能を妨げるおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車との間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷42 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供には操作させない

ドアやドアウインドウ、バリオルーフは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。

ウインドウから身体を出さない

子供がドアウインドウやリアクォーターウインドウの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷113 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P、N 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

  SL 63 AMG では、ヒルスタートアシスト（▷116 ページ）を活用して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルなどの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。純正でない、または承認されていない製品を使用すると、エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

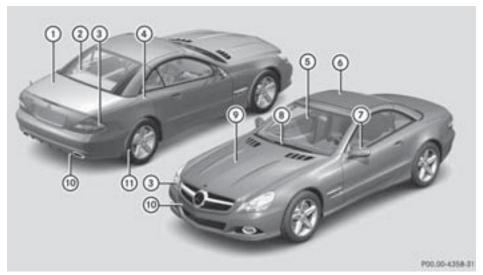
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

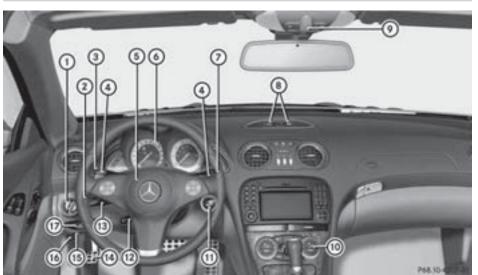
データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」を参照してください。

外観

	名称	ページ
①	トランクルーム	73
	応急用スペアタイヤ	266
	車載工具	265
②	リアデフォッガー	194
③	ヘッドランプ	97
	テールランプ	310
④	燃料給油口	221
⑤	デフロスター	193
	ウインドウウォッシャー	108
⑥	バリオルーフ	197
	ドラフトストップ	204
⑦	ドアミラー	88
⑧	ワイパー	107

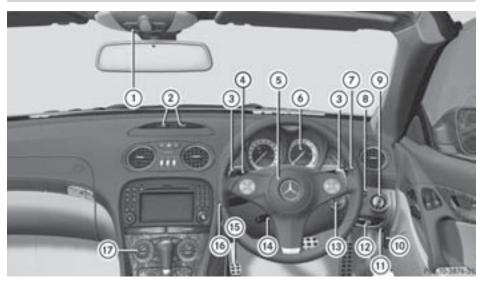
	名称	ページ
⑨	ボンネット	224
	エンジンオイル	227
		347
	ブレーキ液	233
		349
	ウォッシャー液	234
		349
	冷却水	230
		348
	バッテリー	329
		350
⑩	けん引フック	336
⑪	タイヤとホイール	235
		351

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	ランプスイッチ	97
②	ヘッドランプウォッシャースイッチ	102
③	クルーズコントロールレバー	158
	ディストロニックレバー *	162
	可変スピードリミッターレバー	171
④	パドル	124 127
⑤	ホーン	
⑥	メーターパネル	23 129
⑦	音声認識レバー	別冊
⑧	パークトロニックインジケーター	183

	名称	ページ
⑨	ルームミラー上方の操作部	28
⑩	エアコンディショナーコントロールパネル	188
⑪	エンジンスイッチ	77
⑫	ステアリング調整レバー	87
⑬	コンビネーションレバー	
	• ヘッドランプ	100
	• 方向指示	101
	• ワイパー	107
⑭	パーキングブレーキペダル	117
⑮	診断ソケット	
⑯	ボンネットロック解除レバー	225
⑰	パーキングブレーキ解除ハンドル	117

* オプションや仕様により、異なる装備です。

右ハンドル車

	名称	ページ
①	ルームミラー上方の操作部	28
②	パークトロニックインジケーター	183
③	パドル	124 127
④	クルーズコントロールレバー	158
	ディストロニックレバー *	162
	可変スピードリミッターレバー	171
⑤	ホーン	
⑥	メーターパネル	23 129
⑦	音声認識レバー	別冊
⑧	ヘッドランプウォッシャースイッチ	102

	名称	ページ
⑨	ランプスイッチ	97
⑩	ボンネットロック解除レバー	225
⑪	診断ソケット	
⑫	パーキングブレーキ解除ハンドル	117
⑬	エンジンスイッチ	77
⑭	ステアリング調整レバー	87
⑮	パーキングブレーキペダル	117
⑯	コンビネーションレバー	
	• ヘッドランプ	100
	• 方向指示	101
	• ワイパー	107
⑰	エアコンディショナーコントロールパネル	188

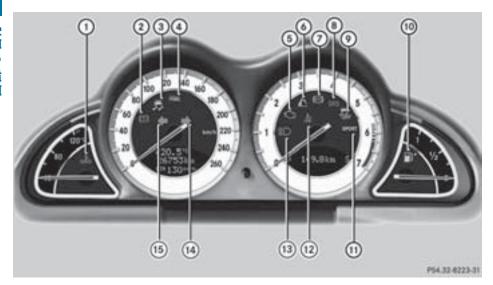
* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	エンジン冷却水温度計	131
②	スピードメーター	129
③	マルチファンクションディスプレイ（左側）	132
	• 外気温度 / 走行速度表示	134
	• オドメーター	134
	• 設定速度表示 / インジケーター（クルーズコントロール / ディストロニック * / 可変スピードリミッター）	158 163 172
	• SBC ホールドインジケーター	174

	名称	ページ
④	リセットボタン / メーターパネル照度調整ボタン	130
⑤	タコメーター	129
⑥	マルチファンクションディスプレイ）（右側）	132
	• トリップメーター	134
	• 走行モード表示	120
	• シフトポジション表示	120
	• ギアレンジ表示	123
	• ギア表示	125
⑦	燃料計	130

* オプションや仕様により、異なる装備です。

	名称	ページ
①	冷却水量・冷却水温度警告灯	291
②	ブレーキ警告灯	248 290
③	ABS / ESP® 表示灯	49
④	車間距離警告灯 *	167
⑤	エンジン警告灯	291
⑥	ロールバー警告灯	41
⑦	ABS 警告灯	48
⑧	SRS 警告灯	33

	名称	ページ
⑨	ESP® オフ表示灯	52 54
⑩	燃料残量警告灯	130
⑪	スポーツハンドリングモード表示灯（SL 63 AMG）	53
⑫	シートベルト警告灯	95
⑬	ハイビーム表示灯	100
⑭	方向指示表示灯（右）	101
⑮	方向指示表示灯（左）	101

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ（左側）	132
②	マルチファンクションディスプレイ（右側）	132
③	COMAND システム	別冊
④	通話開始 / 終了スイッチ（電話） 設定スイッチ / 音量スイッチ	132

	名称	ページ
⑤	表示切り替えスイッチ スクロールスイッチ	132

センターコンソール

SL 350 / 550 Grand Edition

	名称	ページ
①	ドアロックスイッチ（施錠）	72
②	非常点滅灯スイッチ	101
③	ドアロックスイッチ（解錠）	72
④	助手席エアバッグオフ表示灯	44
⑤	サイド送風口 / 中央送風口 / 上部中央送風口開閉ダイヤル	191 192
⑥	COMAND システム	別冊
⑦	カップホルダー	213
⑧	灰皿 ライター	214 215

	名称	ページ
⑨	キーレスゴースイッチ	78
⑩	セレクターレバー	113 119 124 126
⑪	パークトロニックオフスイッチ	186
⑫	ドアミラー調整スイッチ	89
⑬	サスペンションモード選択スイッチ *	181
⑭	けん引防止機能解除スイッチ	59
⑮	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	89

※ 右ハンドル車には、右側のカップホルダー⑦は装備されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

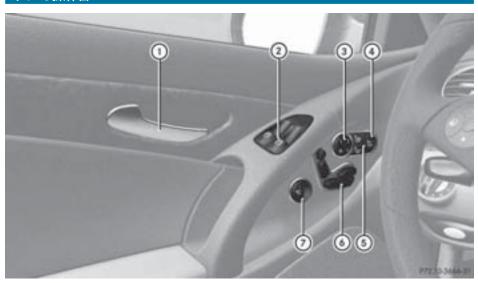
	名称	ページ
⑯	バリオルーフスイッチ	201
	ロールバースイッチ	41
⑰	室内センサー解除スイッチ	61
⑱	車高レベル選択スイッチ *	180
⑲	ESP® オフスイッチ	51
⑳	車間距離調整ダイヤル *	166
㉑	車間距離警告音スイッチ *	168
㉒	走行モード選択スイッチ	121

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームミラー上方の操作部

	名称	ページ
①	読書灯（左側）スイッチ	105
②	温度センサー	
③	読書灯（右側）スイッチ	105

	名称	ページ
④	ルームランプスイッチ	105
⑤	ルームミラー	88
⑥	点灯モード選択スイッチ	105

ドアの操作部

運転席側ドア

	名称	ページ
①	ドアレバー	71 72
②	ドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチ	110
③	メモリースイッチ ポジションスイッチ	92
④	エアスカーフスイッチ	83

	名称	ページ
⑤	シートヒータースイッチ シートベンチレータースイッチ *	85 86 84
⑥	シート調整スイッチ	80
⑦	トランクスイッチ	76

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやシートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグは、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷80 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷93 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷36 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具ならびに設備を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ けがのおそれがあります

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。また、イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ けがのおそれがあります

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された、以下の要素に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転
- 車両への衝撃度

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき
- 助手席側のシートベルトテンショナーは、助手席に乗車していて、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーが作動すると、次に事故が発生した場合に乗員保護機能が得られません。そのため、作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。

! シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。

! シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

i シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

i ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

ベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

エアバッグ

⚠ けがのおそれがあります

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、ペットや荷物を置かないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。ヘッドソラックスサイドバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。

- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- ドアと乗員の間に荷物などを置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。

  ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **けがのおそれがあります**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- ドア内張り

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

! 助手席に重い荷物などを乗せないでください。事故などのときに、助手席エアバッグおよび助手席側のヘッドソラックスサイドバッグが作動するおそれがあります。

i エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席 エアバッグ	ステアリング パッド部
助手席 エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
ヘッドソラックスサイドバッグ	ドア内張り

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部および胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席エアバッグ① / 助手席エアバッグ②は、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグは、助手席に乗員がいないと判断したときや、助手席エアバッグオフ表示灯（▷44 ページ）が点灯しているときは作動しません。

ヘッドソラックスサイドバッグ

ドア（付近）部分に横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のヘッドソラックスサイドバッグ①が作動し、頭部および胸部への衝撃を分散・軽減します。

ヘッドソラックスサイドバッグは、運転席 / 助手席エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したとき
- ヘッドソラックスサイドバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき
- 助手席側のヘッドソラックスサイドバッグは、乗員検知機能が助手席に乗員がいると判断したとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

ヘッドソラックスサイドバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

深い穴や溝に落ちたとき

ロールバー

ロールバーは、車が大きく傾いたときや衝突時、横転時などに瞬時に自動で上がって乗員を保護する装置です。

ロールバーは手動でも操作できます。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> - ロールバーの作動する範囲に身体を入れたり、荷物などを置かないでください。ロールバーが上下したときにけがをしたり、荷物を損傷するおそれがあります。
> - たとえロールバーが作動しても、シートベルトやチャイルドセーフティシートを使用していないと、事故のときに致命的なけがをするおそれがあります。

! 外気温度が約－ 5℃以下のときは、ロールバーを手動で上げて走行してください。ロールバーの油圧システムを損傷するおそれがあります。

! シート後方にペットなどを乗せるときは、バリオルーフを閉じ、ロールバーを上げてください。ロールバーが下がっていると、万一のときに、ロールバーが瞬時に上がってペットなどがけがをするおそれがあります。

ロールバー警告灯

イグニッション位置を **1** にすると数秒間点灯します。また、イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ けがのおそれがあります

警告灯が数秒後 / エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯または点滅するとき、またはマルチファンクションディスプレイに "ﾛｰﾙﾊﾞｰｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるときは、ロールバーが故障しています。車が大きく傾いたときや衝突時、横転時などにロールバーが自動的に上がらないため、致命的なけがをするおそれがあります。このときは手動でロールバーを上げ、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ロールバーの手動操作

イグニッション位置が **2** のときにロールバーを手動で操作することができます。

ロールバーを上げる

▶ ルーフスイッチ③を後方に開き、上昇スイッチ①を押します。

ロールバーを下げる

▶ ルーフスイッチ③を後方に開き、下降スイッチ②を押します。

スイッチから指を放すとロールバーはその位置で停止します。

ℹ ロールバーを上げた状態のときは、バリオルーフを開閉すると、ロールバーは自動的に下がり、操作終了時に再び上がります。

自動的に上がったロールバーを下げる

車が大きく傾いたときや衝突時、横転時などでロールバーが自動的に上がったときは、以下の方法でロールバーを下げます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ロールバーが上がり切るまで上昇スイッチ①を押し続けます。

▶ 下降スイッチ②を押し続けます。

子供を乗せるとき

シートベルトは身長 150cm 以上の乗員が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

- チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急な進路変更
  - ◇ 事故
- 重い荷物やかたい荷物は、確実に固定しない限り車内に積まないでください。

チャイルドセーフティシート

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や急ハンドル時または事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートに装着してください。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の状態を確認してください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートがセンサー付き純正チャイルドセーフティシートであり、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること

  または
  - ◇ 助手席の乗員の体重が一定以下であり、シートベルトのプレートをバックルに差し込んだときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していること
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品に交換してください。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側サンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 10 kg 以下 または 約 13 kg 以下	新生児～ 9 カ月位 または 18 カ月位
デュオ プラス	9 ～ 18kg	8 カ月～ 4 歳位
キッド	15 ～ 36kg	3 歳半～ 12 歳位

※純正チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

ⓘ 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

助手席乗員検知機能

助手席に乗車している乗員の体重が一定以下であるとき、または助手席に乗員がいないと判断したときに、シートベルトのプレートがバックルに差し込まれているときは、助手席エアバッグの機能が解除されます。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグの機能が解除されているときは、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯します。

助手席エアバッグオフ表示灯①は以下のときに点灯します。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（チャイルドセーフティシート検知システム）

または

- 一定以下の体重の乗員が助手席に乗車して、シートベルトのプレートをバックルに差し込み、イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（助手席乗員検知機能）

⚠ けがのおそれがあります

チャイルドセーフティシート検知システムに関する警告

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
  - ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
  - ◇ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

助手席乗員検知機能に関する警告

- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させるときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- チャイルドセーフティシートを装着して子供を乗車させたときに助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
  - ◇ 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。
  - ◇ チャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着するタイプのみを使用して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。

ℹ 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯して、助手席エアバッグの機能が解除されても、ヘッドソラックスサイドバッグとシートベルトテンショナーの機能は解除されません。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードや IC カードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれがあります。また、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを検知できずに、助手席エアバッグが作動するおそれがあります。
- チャイルドセーフティシート検知システムや助手席乗員検知機能がチャイルドセーフティシートや乗員を検知していないときに、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

  点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムや助手席乗員検知機能が故障しています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- SBC（センソトロニック·ブレーキ·コントロール）

ℹ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保しようとする装置です。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。

! 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS が作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷277 ページ）をご覧ください。

ℹ ABS は走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

ℹ ABS に異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなることがあります。

- ESP®
- BAS

ℹ ABS に異常があると、ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ バッテリー電圧が低下すると ABS の機能が一時的に解除されます。電圧が回復すると、待機状態になります。

ABS 警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴー操作でのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、ESP®、BAS は作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、メーターパネルの ABS / ESP® 表示灯が点滅します。

ABS が作動しても、ブレーキペダルに振動が発生することはありません。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 事故のおそれがあります

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には大きな制動力を確保できず、制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ⓘ バッテリー電圧が低下すると BAS の機能が一時的に解除されます。電圧が回復すると待機状態になります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは（▷277 ページ）をご覧ください。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々の車輪に独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ABS / ESP® 表示灯が点滅したときは、ESP® が作動しています。

ABS / ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴー操作でのエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP® の機能の解除

! 前輪または後輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP® が作動して、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷277、278 ページ）をご覧ください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ABS / ESP® 表示灯や ESP® オフ表示灯、ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

i ABS が故障したときは、ESP® の機能も解除されます。

i ABS 警告灯が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯が点滅したままになります）。

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムは ESP® の機能の一部です。

滑りやすい路面などでタイヤが空転したときに、個々の車輪にブレーキを効かせて、駆動力を確保しようとします。

i ESP® オフスイッチまたは ESP®/ スポーツハンドリングモードスイッチで ESP® の機能を解除したときも、トラクションコントロールシステムの機能は解除されません。

⚠ **事故のおそれがあります**

- トラクションコントロールシステムは駆動力を確保し操縦安定性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。トラクションコントロールシステムが適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- トラクションコントロールシステム作動時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

ESP® の機能の設定 / 解除（SL 63 AMG を除く車種）

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ 事故のおそれがあります

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ⓘ ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ABS / ESP® 表示灯が点滅しますが、ESP® は作動しません。

ESP® の機能を解除する

▶ ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯が点灯します。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯が消灯します。

ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーによるエンジン始動操作直後に点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 事故のおそれがあります

エンジンがかかっているときにESP® オフ表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

スポーツハンドリングモード、ESP® の機能の設定 / 解除（SL 63 AMG）

スポーツハンドリングモードの設定 / 解除

次のような状況では、スポーツハンドリングモードにしたほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

上記以外では、サーキットなどでスポーツ走行を行なうときに使用することができます。

⚠ 事故のおそれがあります

スポーツハンドリングモードにする必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。スポーツハンドリングモードでは ESP® の作動内容が制限されるため、車が不安定な状況になったときは、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

スポーツハンドリングモードにしたときは以下のような状態になります。

- ESP® の作動内容が制限されるため、車両操縦性と走行安定性の確保は限られたものになります。
- 駆動輪が空転した場合、限られた程度までのみエンジンの出力制御による駆動力の確保が行なわれます。また、トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- 急ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ⓘ スポーツハンドリングモードにしているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯が点滅しますが、ESP® は制限された内容で作動し、車両操縦性や走行安定性の確保は限られたものになります。

スポーツハンドリングモードにする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "SPORT handling mode" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイの表示を "SPORT handling mode" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングの [⊟] [⊟] または [△] [▽] スイッチを押します。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルのスポーツハンドリングモード表示灯が消灯します。

ℹ スポーツハンドリングモードにしてエンジンを停止しても、次にエンジンを始動したとき、常に ESP® は待機状態になります。

ESP® の設定 / 解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

以下のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を高めることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ℹ ESP® の機能を解除しているときにタイヤが空転したり横滑りをしても、ABS / ESP® 表示灯は点滅せず、ESP® も作動しません。

ESP® の機能を解除する

▶ メーターパネルの ESP® オフ表示灯（▷24 ページ）が点灯するまで、ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに "OFF" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイの表示を "ESP-OFF" から他の表示に切り替えるときは、ステアリングの または スイッチを押します。

ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯が点灯したままのときは、ESP® の機能が解除されているか、故障により機能していません。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® を待機状態にする

▶ ESP® / スポーツハンドリングモードスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯が消灯し、マルチファンクションディスプレイに数秒間 " ON" と表示されます。

SBC®

SBC（センソトロニック・ブレーキ・コントロール）は、運転者のブレーキペダル操作をセンサーで感知し、あらかじめ蓄圧されたブレーキ液を各車輪ごとに供給することにより、ブレーキ応答性を高め、運転状況に応じて最適な制動力を発揮させるためのブレーキ制御システムです。

⚠ 事故のおそれがあります

- SBC はブレーキ操作を補助するシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。SBC が作動しても、制動距離の短縮や制動力の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- SBC 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

SBC は以下のときに待機状態になります。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠したとき
- ドアを開いたとき
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき
- セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- パーキングブレーキを解除したとき

SBC は以下のときに解除されます。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してから約 20 秒経過したとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 2 分経過したとき

SBC の特徴

SBC の操作は、通常のブレーキと同じですが、以下のような特徴があります。

- ブレーキペダルとブレーキ液圧回路が分離しているため、ABS が作動しても、ペダルに脈動は伝わりません。
- エンジン始動後、最初にブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルの踏みしろが大きくなったり、踏み応えが弱くなることがありますが、ブレーキペダルから足を放すと、通常の踏みしろに戻ります。
- ブレーキペダルに脈動が感じられたり、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。この音は SBC ポンプから発生しているもので異常ではありません。
- 通常、SBC はブレーキペダルとブレーキ液圧回路が分離していますが、SBC に故障が発生すると、エマージェンシーモードとして、ブレーキペダルとブレーキ液圧回路を接続して、前輪ブレーキのみを作動させます。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯したときは、SBC またはブレーキシステムに異常があります。マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されとたときは、メッセージに従ってください（▷279、280 ページ）。

SBC が作動しないときは自走をできるだけ避けて、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。やむを得ず自走するときやけん引するときは、以下の注意に従ってください。

【エマージェンシーモード】

バッテリーの電圧低下などでシステムに十分な電力が供給されなかったり、電気システムなどが故障したことにより SBC が作動しないときに、ブレーキペダルを踏んで発生した油圧で直接前輪ブレーキのみを作動させるモードです。マルチファンクションディスプレイに SBC などに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

【ブレーキペダルの踏み込み】

エマージェンシーモードでは、ブレーキペダルを通常時より深く（奥に）強く踏み込んでください。また、ブレーキペダルを踏むのに非常に大きな力が必要になり、制動距離も長くなります。

⚠ けがのおそれがあります

SBC の点検・修理やブレーキパッドの交換などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。SBC にはブレーキ液を自動的に蓄圧する機能があるため、システムを解除してから作業しないと、ブレーキ液が漏れたり、ブレーキが自動的に作動してけがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

走行するとき

- 急な下り坂では、ブレーキの保護のためティップシフトでギアレンジを 1 または 2、3 にして走行してください。
- 大きな負荷のかかる走行をした後は、すぐに停車せず、しばらく走行を続けてブレーキシステムを冷やしてください。

⚠ 事故のおそれがあります

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

- 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回強めに踏んでください。

- 水たまりの通過後や雪の上を走行した後は、ブレーキディスクの乾燥のため、エンジンを停止する前にブレーキペダルを強く踏み込んでください。
- ブレーキに関連する部品は車両に適合した純正部品を使用してください。走行安全性に影響を与えるおそれがあります。

盗難防止システム

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

- ドアが開けられたとき
- トランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき
- グローブボックスやアームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが開けられたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠した後、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランク、グローブボックスを解錠して開いたときや、バッテリーの接続が断たれたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

ドアロックスイッチ（施錠）の表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れます。

または

▶ キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、トランクハンドルを引きます。

ℹ ドアやトランクなどが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

ℹ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

ℹ システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

けん引防止機能を待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れます。

または

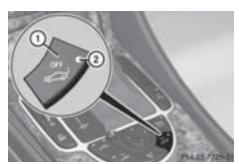
▶ キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、トランクハンドルを引きます。

けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ けん引防止機能解除スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯し、その後消灯して、けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

次に車が解錠されるかドアを開いて閉じるまで、けん引防止機能が解除されたままになります。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

室内センサーを待機状態にする

▶ 誤作動を防止するために、室内センサーを待機状態にする前に以下のことを確認してください。

- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが完全に閉じていること
- バリオルーフが完全に閉じていること

ⓘ バリオルーフが完全に開いているときも、室内センサーを待機状態にすることができます。詳しくは（▷151 ページ）をご覧ください。

- アームレストのカバーが完全に閉じていること
- ルームミラーやルーフトリムにマスコットなどをかけていないこと

▶ トランクが閉じていることを確認します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

ⓘ イグニッション位置を **0** か **1** にして運転席ドアを開いたときに、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾝﾀｺﾝｿｰﾙ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ !" と表示されたときは、アームレストのカバーが完全に閉じていません。このときはアームレストのカバーを閉じてください。室内センサーが作動しなくなります。

ⓘ センターコンソールのアームレストの上に物を置かないでください。また、アームレスト内の小物入れに金属製の物を収納したり、金属製の物をアームレストの周囲に置かないでください。室内センサーが誤作動するおそれがあります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

警報が作動したときの停止方法

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れます。

または

▶ キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押します。

または

▶ キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲（▷67 ページ）にあるときは、トランクハンドルを引きます。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき

▶ イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 室内センサー解除スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が数秒間点滅し、その後消灯して、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

キー

車両には 2 本のキーが付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 事故のおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差しているときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ℹ キーの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると、SBC（▷55 ページ）が待機状態になります。

リモコン機能

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ トランクオープナーボタン
④ 解錠ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- 以下の各部の解錠 / 施錠
  - ◇ドア
  - ◇トランク
  - ◇燃料給油フラップ
  - ◇グローブボックス
  - ◇アームレストの小物入れ
  - ◇シート後方の小物入れ
- トランクを開く
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフの開閉

操作時に表示灯 ① が 1 回点滅します。

解錠する

▶ 解錠ボタン ④ を押します。

以下の各部が解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

- ドア
- トランク
- 燃料給油フラップ
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- シート後方の小物入れ

また、盗難防止警報システム（▷57 ページ）が解除されます。

施錠する

▶ 施錠ボタン ② を押します。

以下の各部が施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

- ドア
- トランク
- 燃料給油フラップ
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- シート後方の小物入れ

また、盗難防止警報システム（▷57 ページ）が待機状態になります。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン ③ を押し続けます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン④と施錠ボタン②を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯①が2回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン④を1回押すと、以下の各部が解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

  ◇運転席ドア

  ◇燃料給油フラップ

  ◇グローブボックス

  ◇アームレストの小物入れ

  ◇シート後方の小物入れ

  また、盗難防止警報システム（▷57ページ）が解除されます。

- 続けて約40秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドアとトランクが解錠されます。

元の設定に戻すには、再度、解錠ボタン④と施錠ボタン②を同時に約6秒間押し続けます。キーの表示灯①が2回点滅し、元の設定に戻ります。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

i バッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

i リモコン操作ですべてのドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフを開閉することができます（▷203ページ）。

i 解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

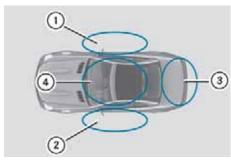
ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作により車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押したとき
- 約40秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷148ページ）をご覧ください。

キーレスゴー

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことできます。

ⓘ エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、キーレスゴー操作を行なうことはできません。

ⓘ エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲にあるとき

- 左右ドアのドアハンドルに触れることで車の解錠ができます。
- 左右ドアのキーレスゴースイッチを押すことで車の施錠ができます。

キーがトランク側アンテナの検知範囲にあるとき

- トランクハンドルを引くことで、トランクを解錠して開くことができます。
- トランクのキーレスゴースイッチを押して、車を施錠することができます。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷78 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷114 ページ）。

⚠ けがのおそれがあります

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、それ以外の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときやトランクを開閉するとき、エンジンを始動するときなどは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内にあるときや、キーの位置によってはトランク内にキーがあるときも、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動するなど、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などでキーレスゴーによる操作を行なうと、キーレスゴーが作動しなかったり、誤作動することがあります。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドルを引いてからキーレスゴーでの操作を行なってください。

i キーレスゴーの作動範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動できます。

i バッテリーあがりを起こしたときは、キーの電池が正常でもキーレスゴーによる操作はできません。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルに触れます。

以下の各部が解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

- ドア
- トランク
- 燃料給油フラップ
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- シート後方の小物入れ

また、盗難防止警報システム（▷57 ページ）が解除されます。

解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

解錠時の設定の切り替え

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

運転席のドアハンドルに触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルに触れます。

以下の各部が解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

- 運転席ドア
- 燃料給油フラップ
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- シート後方の小物入れ

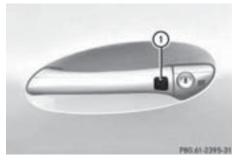
また、盗難防止警報システム（▷57 ページ）が解除されます。

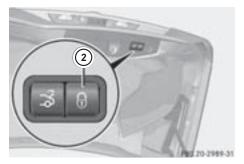
初期設定に戻す

▶ 表示灯 ① が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ② と解錠ボタン ③ を同時に押し続けます。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

! キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

施錠する

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ ① を押します。

または

▶ トランクのキーレスゴースイッチ ② を押します。

トランクが閉じます。

以下の各部が施錠され、非常点滅灯が 3 回点滅します。

- ドア
- トランク
- 燃料給油フラップ
- グローブボックス
- アームレストの小物入れ
- シート後方の小物入れ

また、盗難防止警報システム（▷57 ページ）が待機状態になります。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内やトランク内にあるときは、ドアハンドルやトランクのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｶﾞ ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ" と表示されることがあります。

ただし、キーが左右側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内やトランク内にあるときは、ドアハンドルのキーレスゴースイッチで施錠できます。

トランクを解錠して開く

▶ トランクハンドルを引きます。

トランクのみが解錠されて開きます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

ドア

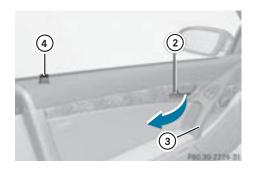
車外からのドアの開閉

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ④ が上がって解錠され、ドアも開きます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! ドアウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウとリアサイドウインドウが少し下降し、閉じると上昇します。

ただし、ドアウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアサイドウインドウは下降しません。

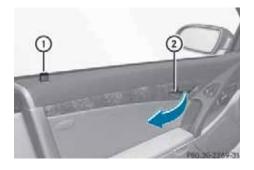
このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアやウインドウ、シール部を損傷するおそれがあります。

ℹ 助手席のドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷275 ページ）。

シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは施錠されていても自動的に解錠されます。

車内からの解錠 / 施錠

ドアごとの解錠 / 施錠

解錠する

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ロックノブ ① が上がって解錠され、ドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を下方に押し込みます。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアロックスイッチ

車内から、すべてのドアとトランクをスイッチ操作で解錠 / 施錠することができます。

⚠ **事故のおそれがあります**

子供だけを残して車から離れないでください。ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引いてドアを開くと、事故やけがをするおそれがあります。

解錠する

▶ 解錠スイッチ ② を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ ① を押します。

次のようなときはドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作により施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチで施錠すると、助手席ドアとトランクが施錠されます。

ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップやグローブボックス、アームレストの小物入れやシート後方の小物入れは施錠されません。

車を解錠したときは SBC の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については (▷150 ページ) をご覧ください。

車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

車速感応ドアロックにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、自動的に解錠されます。

トランク

⚠ 中毒のおそれがあります

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

トランクに乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

強風のときにトランクを開くと、強い風にあおられ、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ⓘ バリオルーフがトランク内に収納されているときは、トランクを開閉すると、収納されたルーフも上下します。

ⓘ トランクを開いているときに、身体などがトランクに接触したときは、トランクの動きが停止します。

ⓘ トランクを閉じているときに、身体やトランクルームに積んだ荷物などがトランクに接触したときは、トランクの動きが停止し、自動で開きます。

ⓘ 走行中は、トランクを自動で開閉することはできません。

ⓘ トランクを開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、以下の操作をしてください。トランクが停止します。

- トランククローザースイッチを押す
- トランクのキーレスゴースイッチを押す
- 運転席ドアのトランクスイッチを操作する
- キーのトランクオープナーボタンを押す
- トランクハンドルを引く

クロージングサポーター

ロックがかみ合う位置までトランクが閉じると、クロージングサポーターが作動し、トランクが自動で閉じます。

⚠ けがのおそれがあります

- クロージングサポーターが作動しているときに、身体などが挟まれないように注意してください。

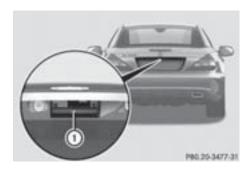
  万一、身体などが挟まれそうになったときは、トランクのハンドルを引いてください。クロージングサポーターの作動が停止し、トランクが開きます。
- トランクのヒンジ部分に手や指を触れないでください。クロージングサポーターが作動してヒンジが自動的に動き、手や指が挟まれてけがをするおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。走行中にトランクが開くと、事故を起こすおそれがあります。

車外からのトランクの開閉

⚠ **けがのおそれがあります**

車外からトランクを開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにトランククローザースイッチを押すか、トランクのハンドルを引いてください。トランクの動きが停止します。

トランクを開く

トランクは車が解錠されているときのみ開くことができます。

トランクの解錠は停車しているときのみ可能です。

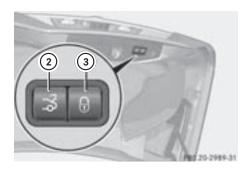
▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

トランクが自動で開きます。

または

▶ トランクが自動で開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタンを押し続けます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランククローザースイッチ ② を押します。

トランクが自動で閉じます。

トランクを閉じて車を施錠する

▶ キーレスゴースイッチ ③ を押します。

トランクが自動で閉じて、車が施錠されます。

ℹ キーがトランク内にあるとき、トランクを開いた状態でリモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠した後に、トランククローザースイッチやキーレスゴースイッチを押すと、トランクは閉じなかったり、一度閉じた後に自動的に開きます。このときは、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。

ℹ ドアが完全に閉じていないときは、キーレスゴースイッチでトランクを閉じることはできません。このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

車内からのトランクの開閉

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまでトランクスイッチ ① を引きます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランクスイッチ ① を押し続けます。

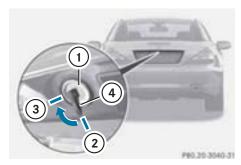
押している間、トランクが閉じます。

スイッチから指を放すと、その位置で停止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

トランクスイッチでトランクを閉じているときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにトランクスイッチから手を放してください。トランクの動きが停止します。

ℹ トランクが開いているときは、トランクスイッチの表示灯②が点灯します。

トランクの独立施錠

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、エマージェンシーキー以外ではトランクを開くことはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷305 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ④ を独立施錠位置 ③ にまわします。

▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキー ④ を抜きます。

❗ トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

ℹ 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

- ▶ トランクのキーシリンダー ① にエマージェンシーキー ④（▷305 ページ）を差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキー ④ を独立施錠解除位置 ② にまわします。
- ▶ キーシリンダー ① からエマージェンシーキー ④ を抜きます。

トランクランプ

トランクルーム内の手前右側にトランクランプがあります。

トランクを開くと点灯し、閉じると消灯します。

ⓘ トランクを開いたままでもトランクランプは約10分後に消灯します。

トランクに荷物を積むとき

荷物を積むとき、積み方によっては車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 重い物は車の中心近く（トランクの前方）に置いてください。
- 重い物は重量が均等になるように積み、一部に偏らないように積んでください。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

イグニッション位置

⚠ 事故のおそれがあります

ごく短時間でも、車から離れるときは車内にキーを置いたままにしないでください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーによるイグニッション位置の選択

エンジンスイッチに差し込んだキーをまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

車両の操作

キーの位置	イグニッション位置
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：イグニッション位置が 1 になります。
②	2：イグニッション位置が 2 になります。
③	3：エンジンが始動します。

! 車のバッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

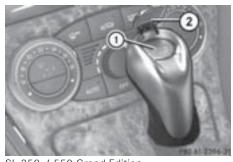
! エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

i セレクターレバーが P に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに ⓪ の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。

i キーの発信部が覆われていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

i 異なる車両のキーを差し込んだときは、イグニッション位置の選択やエンジンの始動はできません。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

SL 350 / 550 Grand Edition

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに、セレクターレバー先端のキーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

SL 350/550 Grand Edition はセレクターレバーのカバー ② を開いてからキーレスゴースイッチ ① を押します。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	0 から 1 になります。
さらに 1 回押す	1 から 2 になります。
さらに 1 回押す	2 から 0 になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

ⓘ キーレスゴースイッチを押していないときは、イグニッション位置は **0** になります。

ⓘ キーレスゴースイッチでエンジンを始動したときは、再度キーレスゴースイッチを押すと、エンジンが停止します。

ⓘ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " キー ヲ ケンチ デキマセン " と表示されます。

ⓘ キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **1** か **2** にしたときも、エンジンスイッチにキーを差し込むと、イグニッション位置は **0** になります。

ⓘ キーレスゴースイッチでエンジンを始動したときは、セレクターレバーが **P** に入っている状態でエンジンスイッチにキーを差し込むと、エンジンが停止します。

タッチスタート機能

イグニッション位置を **3** にしたり、ブレーキペダルを踏んだままキーレスゴースイッチを押すと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

シート

⚠ 事故のおそれがあります

運転席シートの調整は、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

シートを調整するときは、身体や物などが挟まれないように注意してください。

シートを調整するときは、エアバッグに関する注意もお読みください (▷35 ページ)。

⚠ けがのおそれがあります

乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

⚠ けがのおそれがあります

ヘッドレストは、ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。事故などのときに、重大なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 長時間、シートに液体が付着したままにしないでください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、毛布やコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

i ヘッドレストを取り外すことはできません。

シートの調整

シート調整スイッチ（左側シート）
① ヘッドレストの高さ
② シートの高さ
③ シートクッションの角度
④ シートクッションの長さ
⑤ シートの前後位置
⑥ バックレストの角度

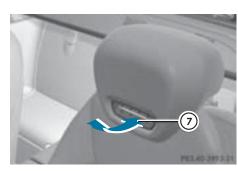
シートを調整する

▶ シート調整スイッチを ① ～ ⑥ の方向に動かして調整します。

i シートを後方に移動しているとき、バックレストが後方に当たりそうになるとバックレストが自動的に起きます。

i バックレストの角度を後方に傾けているとき、バックレストが後方に当たりそうになるとシートが自動的に前方に移動します。

i シートの前後位置や高さ、バックレストの角度などを調整すると、他の部分も連動して動くことがあります。

i シートのメモリー機能については（▷92 ページ）をご覧ください。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレスト下部を矢印 ⑦ の方向に動かします。

バックレストを倒す

シート後方のスペースへの荷物の積みおろしや、小物入れの開閉などを容易にするため、バックレストを前方に倒して、シートを前方に移動することができます。

バックレストを前方に倒す

▶ ドアを開いた状態で、バックレストスイッチの前部 ① を押します。

バックレストが前方に倒れ、シートが前方に移動します。

バックレストを元の位置に戻す

▶ バックレストスイッチの後部 ② を押します。

シートが元の位置に戻ります。

⚠ **けがのおそれがあります**

バックレストを倒し、シートを前方に移動するときは、乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、バックレストスイッチやシート調整スイッチ、シートポジションスイッチを操作してください。バックレストはその位置で停止します。

! シートの足元やシートの後方に物を置いていないことを確認してください。移動するシートと物が接触して、シートや物を損傷するおそれがあります。

ℹ バックレストを倒したとき、シート位置によっては、シートが前後に移動したり、ヘッドレストが上下に動くことがあります。

ℹ バックレストやシートが前後に移動しているときに障害物に当たると、動きが停止して、少し後方または前方に移動することがあります。

ℹ バックレストを前方に倒し、シートを前方に移動してからシート調整スイッチを操作すると、スイッチの後部を押してもバックレストが元の位置に戻らなくなることがあります。そのときはシート調整スイッチでシートを調整してください。

ランバーサポート *

腰部のサポートを調整することができます。

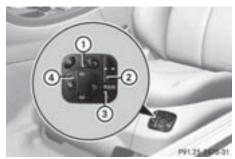
調整ダイヤルはシート下部のドア側にあります。

サポートを調整する

▶ 調整ダイヤル ① を **0** から **5** の位置に合わせます。

ダイヤルの数字が大きくなると、サポートも強くなります。

ⓘ 調整ダイヤルをまわしても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

マルチコントロールシートバック *

背中を正しく支えるようにバックレストの位置や形状を調整することができます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

スイッチはシート下部のドア側にあります。

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整することができます。

▶ スイッチ ④ の [△] または [▽] を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチ ④ の [+] または [−] を押して、サポートの強さを調整します。

ショルダーサポートの強さを調整する

▶ スイッチ ① の [+] または [−] を押します。

バックレスト横方向のサポートの強さを調整する

▶ スイッチ ② を左右に操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ スイッチを押しても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

マッサージ機能

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長距離走行などの疲労を軽減します。

マッサージ機能を作動させる

▶ スイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

マッサージ機能を停止する

▶ 再度、スイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ マッサージ機能は約 8 分後に自動的に停止し、表示灯が消灯します。

エアスカーフ

左ドアのスイッチ

ヘッドレストの送風口から、乗員の頭部と頸部周辺に暖気を送風します。

送風の強さを 3 段階に調整できます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

⚠ **火傷のおそれがあります**

皮膚の弱い方は送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。火傷をするおそれがあります。

送風口の周囲は大変熱くなりますので触らないでください。火傷をするおそれがあります。

エアスカーフを強で使用する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯を 3 個点灯させます。

エアスカーフを中で使用する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯を 2 個点灯させます。

エアスカーフを弱で使用する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯を 1 個点灯させます。

ℹ 表示灯が点灯してから送風が開始されるまで約 10 秒かかります。

エアスカーフを停止する

▶ エアスカーフスイッチ①を押して、表示灯を消灯させます。

ℹ 表示灯が消灯してから送風が停止するまで約 7 秒かかります。

❗ エアスカーフを使用するときは送風口を覆わないでください。過熱や火災、故障の原因になります。

ℹ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、エアスカーフが停止することがあります。

シートベンチレーター *

左ドアのスイッチ
※右ドアのスイッチは、表示灯の位置、およびシートベンチレータースイッチの絵柄が左右反対になります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

スイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ①を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

ℹ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。このときはスイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再度自動的に作動して、表示灯が点灯します。

ℹ リモコン操作でバリオルーフを開く（▷203 ページ）と、運転席のシートベンチレーターが強で約 5 分間作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートヒーター

⚠ 火傷のおそれがあります

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服を着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再度自動的に作動して、表示灯が点灯します。

シートベンチレーター非装備車

左ドアのスイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを強で作動させる

▶ シートヒータースイッチ（強）② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

シートヒーターを強で作動させたときは、約 8 分後に自動的に弱に切り替わり、シートヒータースイッチ（弱）の表示灯が点灯します。

シートヒーターを弱で作動させる

▶ シートヒータースイッチ（弱）① を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

シートヒーターを弱で作動させたときは、約 30 分後に自動的に停止します。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ（強）②、またはシートヒータースイッチ（弱）① を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

シートベンチレーター装備車

左ドアのスイッチ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

表示灯の点灯数	作動内容
2	シートヒーターが強で作動します。 約 8 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 30 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

ステアリング

⚠ けがのおそれがあります

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってステアリング調整レバーを操作すると、ステアリングが動き、けがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリング位置の調整

① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

ℹ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（▷92 ページ）させることができます。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、セレクターレバーのキーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて **2** にするか、イグニッション位置を **0** にしてから **1** の位置にする。

この機能の設定と解除については（▷152 ページ）をご覧ください。

けがのおそれがあります

子供だけを車内に残して車から離れないでください。イージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体を挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーをいずれかの方向に操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷92 ページ）を押す

ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

イージーエントリー機能を設定しているときは、事故などのとき、イグニッション位置に関係なく運転席ドアを開くとステアリングが上方に移動します。これにより、車外への脱出や乗員の救出を容易にします。

ミラー

事故のおそれがあります

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの調整

ルームミラーを調整する

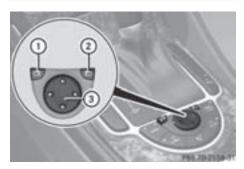
▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ルームミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずドアミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

ドアミラー

事故のおそれがあります

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

角度の調整

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整する側のドアミラー選択ボタン ① または ② を押します。

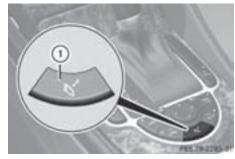
▶ 調整スイッチ ③ を操作してドアミラーの角度を調整します。

! ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ドアミラーが変色するおそれがあります。

i ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低いときに、リアデフォッガー（▷194 ページ）を作動させると自動的に温められ、凍結を防ぎます。

i ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷92 ページ）。

i より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

ドアミラーの格納 / 展開

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作することができます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ ① を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを完全に展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

走行速度が約 50km/h 以上のときは、格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納することはできません。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。

格納されたドアミラーは、ドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については (▷152 ページ) をご覧ください。

ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、ドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ドアを開かなくても、格納されたドアミラーの位置が少し動くことがあります。その場合は、ドアミラー格納 / 展開スイッチを押して、展開してください。

ドアミラーのリセット

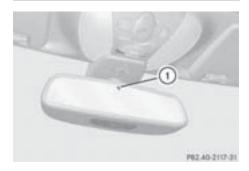
バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納機能が正常に作動しなくなることがあります。

このようなときは、バッテリーの接続後にドアミラーのリセットを行なってください。

ドアミラーをリセットする

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ①を押します。

自動防眩機能

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席ドアミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

⚠ **けがのおそれがあります**

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! ドラフトストップ (▷204 ページ) を使用しているときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しない場合があります。十分注意して走行してください。

! ルームミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。

i セレクターレバーが R に入っているときやルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

助手席側ドアミラーが選択されているときに、セレクターレバーを R に入れると、助手席側ドアミラーが自動的に下向きになり、車両後方下部の視界を確保して後退を容易にすることができます。

イグニッション位置が **2** のときに作動します。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーを R から他の位置に入れて約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタンを押したとき

ドアミラーの角度を記憶させる

▶ 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

左ハンドル車

または

▶ 停車して、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン ② を押します。

▶ 調整スイッチ ① で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ ③ を押し、約 3 秒以内に調整スイッチをいずれかの方向に押します。このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ ① で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

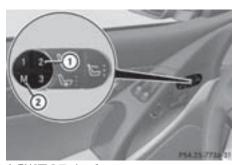
メモリー機能

シート位置のメモリー機能

⚠ **けがのおそれがあります**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動きだし、身体を挟まれるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車しているときに行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

左側ドアのスイッチ

シート位置をポジションスイッチに記憶させることができます。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置（▷87 ページ）、ドアミラーの角度（▷89 ページ）を調整します。

ⓘ ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ メモリースイッチ ② を押します。

▶ 3 秒以内にポジションスイッチ ① の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置が記憶されます。

他のポジションスイッチにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ 呼び出したいポジションスイッチ ① の 1 ～ 3 のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

ⓘ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートなどの動きが停止します。

! バックレストを大きく後ろに傾けた位置にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されません。事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更や急ブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷42 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。

⚠ けがのおそれがあります

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートベルトを正しく着用していて、バックレストができるだけ垂直に近い位置になっていることを確認してください。

⚠ けがのおそれがあります

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
- シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル③の解除ボタン④を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

コンフォートフィット機能

コンフォートフィット機能は、シートベルトを引き込む力を自動的に調整して、シートベルト装着時の快適性を高めます。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴーでのエンジン始動操作直後に点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに乗員がシートベルトを着用していないか、シートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは、警告灯は点灯に変わり警告音も鳴り止みますが、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ⓘ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

正しい運転姿勢

⚠ **けがのおそれがあります**

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シート③とヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- バックレストはできるだけ垂直にして、正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める
- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

- ▶ 以下のことに注意して、ステアリング ① を調整します。
  - ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
  - 足を自由に動かせる
  - メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる
- ▶ 以下のことに注意して、シートベルト ② を着用します。
  - シートベルトが身体に密着している
  - 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
  - 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている
- ▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。
- ▶ メモリー機能で、シートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車

	位置	作動内容
1	←P	左側のパーキングランプが点灯
2	P→	右側のパーキングランプが点灯
3	0	すべてのランプが消灯
4	Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
5	車幅灯	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯し、車幅灯表示灯が点灯
6	ヘッドランプ	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯
7	フロントフォグ	フロントフォグランプが点灯
8	リアフォグ	リアフォグランプが点灯

! ランプスイッチを [車幅灯] の位置にしたまま、キーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** の位置にして、運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ライト ヲ ケシテ クダサイ！ " と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ランプスイッチを [車幅灯] の位置にします。

ヘッドランプ

ヘッドランプを点灯する

▶ ランプスイッチを [ヘッドランプ] の位置にします。

- イグニッション位置が **1** のときは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは、上記に加えてヘッドランプも点灯します。

ヘッドランプの自動点灯機能

周囲が暗いときに、ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯できます。

ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯する

▶ ランプスイッチを [Auto] の位置にします。

- イグニッション位置が **1** か **2** のときは、周囲が暗くなると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯し、車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。
- エンジンがかかっているときは、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

i ヘッドランプが点灯しているときにイグニッション位置を **1** にすると、ヘッドランプが消灯します。

さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ランプの点灯 / 消灯に関する全責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。

  ◇ 霧の中を走行するとき

  ◇ 対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを [Auto] から [ヘッドランプ] の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

ℹ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が作動しなくなります。

ℹ ランプスイッチが Auto の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** のときで、ランプスイッチの位置が [車幅灯] または [ヘッドランプ] のときに、ランプスイッチを 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 [フロントフォグ] が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置が **2** のときで、ランプスイッチの位置が [車幅灯] または [ヘッドランプ] のときに、ランプスイッチ ① を 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯 [フロントフォグ] とリアフォグランプ表示灯 [リアフォグ] が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

ランプスイッチが Auto の位置のときは、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを [ヘッドランプ] の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

❗ フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

イグニッション位置が **0** のとき、またはエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを [P右] または [P左] の位置にします。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。

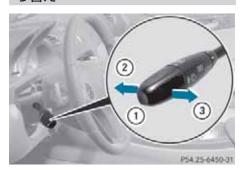
この機能の設定と解除については （▷148 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

ℹ エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ランプは消灯します。

ℹ この機能は、エンジンを停止してから約 60 秒経過すると作動しなくなります。約 60 秒以内ならドアやトランクを開くたびにランプが点灯します。

ヘッドランプ下向き / 上向きの切り替え

ヘッドランプを上向きにする

▶ ランプスイッチを [≣D] または [Auto] の位置にして、ヘッドランプを点灯させます。

▶ コンビネーションスイッチを ② の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

ヘッドランプを下向きにする

▶ ヘッドランプが点灯しているときに、コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

パッシングする

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときに、コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間ヘッドランプが上向きで点灯します。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと ① の位置に戻ります。

方向指示

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進の位置に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ コンビネーションスイッチを①または②の方向に軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

ℹ 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、非常点滅灯スイッチ①と、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

ℹ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示灯の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ⓘ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ⓘ 非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときや、エンジンスイッチからキーを抜いているときも使用できます。

ヘッドランプウォッシャー

左ハンドル車

※ 右ハンドル車のヘッドランプウォッシャースイッチは、ランプスイッチの左側にあります。

イグニッション位置が **2** のときに作動します。

ヘッドランプウォッシャーを作動させる

▶ ヘッドランプウォッシャースイッチ ① を押します。

▶ ウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

ⓘ エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 15 回噴射すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを噴射させた回数はリセットされます。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者などにウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ヘッドランプウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

インテリジェントライトシステム

インテリジェントライトシステムは以下のものから構成されます。

- アクティブライトシステム
- コーナリングランプ
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

インテリジェントライトシステムは、周囲が暗いときに作動します。

この機能の設定と解除については（▷147 ページ）をご覧ください。

アクティブライトシステム

ヘッドランプが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

ℹ ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ℹ 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

コーナリングランプ

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、コーナリングランプが点灯します。

- エンジンがかかっているとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

コーナリングランプの点灯

▶ 走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させるか、走行速度が約 70km/h 以下のときにステアリングを操作します。

方向指示灯を点滅させた側、またはステアリングを操作した側のコーナリングランプが点灯します。

コーナリングランプの消灯

コーナリングランプは以下のときに消灯します。

- 走行速度が約 40km/h または約 70km/h 以上になったとき
- 方向指示灯が消灯したとき
- ステアリングを直進位置に戻したとき

ℹ 方向指示灯を点滅させたとき、セレクターレバーが R に入っているときは、コーナリングランプは点灯しません。

ステアリングを操作したとき、セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した側と逆側のコーナリングランプが点灯します。

点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングランプが点灯します。

コーナリングランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングランプが点灯することがあります。

点灯したコーナリングランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

以下のときは、ヘッドランプの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約 110km/h 以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約 1km 走行したとき
- 走行速度が約 130km/h を超えたとき

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度を遵守してください。

ヘッドランプの照度は、走行速度が約 80km/h 以上になったときに上がります。

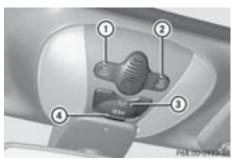
フォグランプ強化機能

ヘッドランプが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。

走行速度が約 70km/h 以下のときにリアのフォグランプを点灯すると作動します。

走行速度が約 100km/h を超えると、フォグランプ強化機能は停止します。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度を遵守してください。

ルームランプ

① 読書灯（左側）スイッチ
② 読書灯（右側）スイッチ
③ ルームランプスイッチ
④ 点灯モード選択スイッチ

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ ④ を左にスライドさせます。

周囲が暗いときに以下の操作をするとルームランプが点灯 / 消灯します。

- ドアを開くとルームランプが点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については （▷149 ページ）をご覧ください。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ ④ を右にスライドさせます。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠する

ルームランプの点灯 / 消灯

ルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ ルームランプスイッチ ③ を押します。

ルームランプが点灯 / 消灯します。

読書灯

読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ ① または ② を押します。

読書灯が点灯 / 消灯します。

乗降用ランプ

ドアの下部にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプが自動点灯モード(▷105 ページ)になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯します。

- イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを開いたままにすると約 5 分後に消灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

フットウェルランプ

ダッシュボード下にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプの点灯モードに関係なく、周囲が暗いときに以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- イグニッション位置を **2** にすると低い照度で点灯します。

  イグニッション位置を **0** か **1** にするか、エンジンスイッチからキーを抜くと約 7 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠するとただちに消灯します。

周囲が暗いときにドアを開くと、ルームランプが自動点灯モードのときは明るく点灯し、常時消灯モードのときは低い照度で点灯します。

ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

- イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを開いたままにすると約 5 分後に消灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

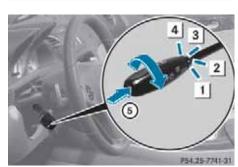
ドアレバーランプ

① ドアレバーランプ

車幅灯が点灯したときに点灯し、ドアレバー周辺を照らします。

車幅灯が消灯したときは、約 5 分後に消灯します。

ワイパー

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。
>
> ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

	位置	作動内容
①	**0**	停止
②	**I**	AUTO モード レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
③	**II**	低速モード
④	**III**	高速モード
⑤		ウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを作動させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマークを **I** ～ **III** に合わせます。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ⑤ の方向に軽く押します。

ワイパーが 1 回だけ作動します。（ウォッシャー液は噴射しません）

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0**（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが **II** ～ **III** の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! フロントウインドウが濡れていないときも、コンビネーションスイッチを **I** の位置にすると、ワイパーが 1 回作動します。

! 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

i ワイパーが AUTO モードのとき、停車時にドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- セレクターレバーが **P** または **N** に入っている場合は、ドアを閉じてセレクターレバーを **D** または **R** に入れたとき
- セレクターレバーが **D** または **R** に入っている場合は、ドアを閉じたとき

i コンビネーションスイッチが **II**、**III** の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

i ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

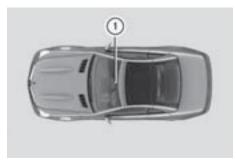
ウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印 ⑤ の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

i エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約 15 回噴射すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

レインセンサー

① レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサー ① があります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正常に機能しなくなります。

パワーウインドウ

ドアウインドウ / リアクォーターウインドウの開閉

⚠ けがのおそれがあります

- ドアウインドウやリアクォーターウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウやリアクォーターウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウやリアクォーターウインドウを開いてください。
- 子供が車内からドアやドアウインドウ、リアクォーターウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。短時間でも、車内に子供を残したまま車から離れないでください。
- チャイルドセーフティシートを着用していても、子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

運転席ドアのスイッチ (左ハンドル車)
① ドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチ（運転席側）
② ドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチ（助手席側）

スイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、運転席側と助手席側のドアウインドウ / リアクォーターウインドウスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、操作することができます。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウやリアクォーターウインドウを開閉することができます。約 5 分以内にドアを開くと、ドアウインドウやリアクォーターウインドウの開閉はできなくなります。

ⓘ 運転席ドアのスイッチで助手席のドアウインドウを開閉しているときは、開閉中のドアウインドウを助手席のスイッチで操作することはできません。

バリオルーフが開いているとき

ドアウインドウとリアクォーターウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけドアウインドウとリアクォーターウインドウが同時に開きます。

スイッチから指を放すと、ドアウインドウはその位置で停止し、リアクォーターウインドウは停止せずに全開します。

または

▶ スイッチをいっぱいまで押します。

ドアウインドウとリアクォーターウインドウが同時に自動で開きます。

途中でスイッチを操作すると、ドアウインドウはその位置で停止し、リアクォーターウインドウは停止せずに全開します。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

ドアウインドウが閉じます。

スイッチから指を放すと、その位置で停止します。

または

▶ スイッチをいっぱいまで引きます。

ドアウインドウが自動で閉じます。

途中でスイッチを操作すると、その位置で停止します。

リアクォーターウインドウを閉じる

▶ ドアウインドウが全閉しているときに、スイッチを引きます。

リアクォーターウインドウが閉じます。

スイッチから指を放すと、その位置で停止します。

バリオルーフが閉じているとき

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけドアウインドウが開きます。

スイッチから指を放すと、その位置で停止します。

または

▶ スイッチをいっぱいまで押します。

ドアウインドウが自動で開きます。

途中でスイッチを操作すると、その位置で停止します。

リアクォーターウインドウを開く

▶ ドアウインドウが全開しているときに、スイッチを押します。

リアクォーターウインドウが自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

ドアウインドウが閉じます。

スイッチから指を放すと、その位置で停止します。

または

▶ スイッチをいっぱいまで引きます。

ドアウインドウが自動で閉じます。

途中でスイッチを操作すると、その位置で停止します。

リアクォーターウインドウを閉じる

▶ ドアウインドウが全閉しているときに、スイッチを引きます。

リアクォーターウインドウが閉じます。

スイッチから指を放すと、その位置で停止します。

挟み込み防止機能

ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。

⚠ けがのおそれがあります

挟み込み防止機能が作動しない状態でウインドウを閉じるときは十分注意してください。ウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、スイッチから指を放すと、その位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、より強い力で閉じます。

上記の状態でドアウインドウが閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから指を放すと、その位置から少し開きます。さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してから約 3 秒以内に、再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなります。

また、このときにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、挟み込み防止機能も作動しません。

ウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで一時的に電力が断たれたときは、ウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。

このときは、スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま 2 秒以上保持してください。この操作を他のウインドウでも行なってください。再び、ウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 事故のおそれがあります

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 中毒のおそれがあります

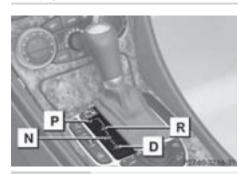
車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときはアクセルペダルを踏まないでください。

i ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチを停止しておくと始動性が良くなります。

セレクターレバー

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 セレクターレバーが P に入っているときにのみ、キーを抜くことができます。セレクターレバーが P に入っているときは、セレクターレバーがロックされます。
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、セレクターレバーを R に入れないでください。

N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

エンジンスイッチに差し込んだキーによるエンジンの始動

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

セレクターレバーのキーレスゴースイッチによるエンジンの始動

ⓘ キーレスゴースイッチにより、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーのキーレスゴースイッチ ① を押します(▷78 ページ)。

SL 350/550 Grand Edition は、セレクターレバーのカバー ② を開いてから、キーレスゴースイッチ ① を押します (▷78 ページ)。

⚠ **事故のおそれがあります**

キーが車内にあるときは、キーレスゴースイッチによりエンジンを始動できます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、"ｷｰｦ ｹﾝﾁﾃﾞｷﾏｾﾝ" が断続的に約 30 秒間表示されます。この警告はドアを開閉して走行を開始するたびに行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! キーがドア付近の車外にあるときもエンジンを始動できる場合があります。車両の盗難に注意してください。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴースイッチでエンジンを始動 / 停止することはできません。

i キーレスゴー操作でエンジンを始動したときは、エンジンスイッチにキーを差し込むと以下のようになります。

- セレクターレバーが P に入っているとき

  エンジンが停止してイグニッション位置が 0 になります。

- セレクターレバーが P 以外に入っているとき

  エンジンはかかったままになります。ただし、この状態でキーをまわすことはできません。

i エンジンがかかっていて、セレクターレバーが D か R に入っているときにセレクターレバーのキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

タッチスタート

エンジンスイッチを 3 の位置までまわすか、ブレーキペダルを踏みながらキーレスゴースイッチを押すと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! SL 63 AMG では、エンジンオイルの油温が約 20℃以下のときは、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。エンジン保護のため、エンジンが冷えているときは、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込むような運転は避けてください。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷150 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを D に入れます。

⚠ 事故のおそれがあります

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ⓘ ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

ⓘ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト（SL 63 AMG）

ヒルスタートアシストは、坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

⚠ 事故のおそれがあります

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートは解除され、車が動き出すおそれがあります。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ セレクターレバーが D または R に入っていることを確認します。

▶ ブレーキペダルから足を放して、アクセルペダルをゆっくり踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

ⓘ 以下のときは、ヒルスタートアシストは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障して解除されているとき

ⓘ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

駐車

⚠ **事故のおそれがあります**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

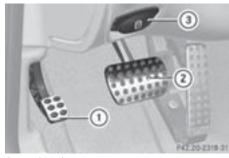
⚠ **火災のおそれがあります**

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやバリオルーフを閉じて、車を施錠してください。

確実に駐車するために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- シフトポジションが P になっていて、エンジンスイッチからキーが抜かれているか、イグニッション位置が **0** になっていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道方向に向いていること

パーキングブレーキ

左ハンドル車

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル ② を踏み、左足でパーキングブレーキペダル ① をいっぱいまで踏み込みます。

エンジンがかかっているときは、メーターパネルのブレーキ警告灯 (!) が点灯します。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル ② をいっぱいまで踏みながら、解除ハンドル ③ を手前に引きます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

! 急な坂道に駐車するときは、後輪の下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

i 輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片や石を使用してください。

i パーキングブレーキを解除しないで走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンを停止するとき

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンスイッチに差し込んだキーによる操作

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを **0** の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

セレクターレバーのキーレスゴースイッチによる操作

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンが停止するまで、セレクターレバーのキーレスゴースイッチ ① を押します（▷78 ページ）。

SL 350/550 Grand Edition は、セレクターレバーのカバー ② を開いてから、キーレスゴースイッチ ① を押します（▷78 ページ）。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

i キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

オートマチックトランスミッション

⚠ **事故のおそれがあります**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

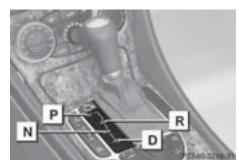
停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷121 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

シフトポジションの選択

▶ セレクターレバーを動かして、シフトポジションを選択します。

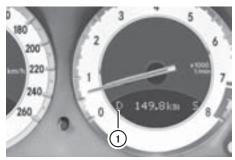
! イグニッション位置が **2** の状態で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを P から動かすことはできません。

ℹ シフトポジションを選択するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

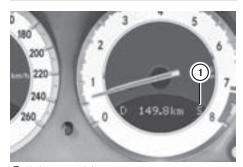
シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P に入れないでください。 セレクターレバーが P に入っているときにのみ、キーを抜くことができます。セレクターレバーが P に入っているときは、セレクターレバーがロックされます。

R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、セレクターレバーを R に入れないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブに入っている状態）

現在選択しているシフトポジションが、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示 ① に表示されます。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

マルチファンクションディスプレイに、選択した走行モード ① が表示されます。

走行モードを選択する（SL 350 / SL 550）

SL 350 / SL550

▶ 走行モード選択スイッチ ② を押します。

C モード→ S モード→ M モード→ C モードと切り替わります。

走行モードを選択する（SL 63 AMG）

SL 63 AMG

▶ 走行モード選択ダイヤル ③ をまわします。

選択した走行モードの文字が点灯します。

レーススタート（RS）を選択するときは（▷177 ページ）をご覧ください。

走行モード	作動内容
C モード	快適性と経済性を重視したモードです。 アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、S モードより穏やかに発進します。 セレクターレバーを R に入れたときは、S モードより穏やかに後退します。 早めのシフトアップが行なわれるため、駆動輪が空転しにくくなり、滑りやすい路面における走行安定性が向上します。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。 トランスミッションがスポーティな設定になり、C モードより遅めにシフトアップが行なわれます。
S+ モード（SL 63 AMG）	S モードよりも、さらにスポーティな走行用のモードです。 シフトアップ / シフトダウンが素早く行なわれます。

走行モード	作動内容
M モード	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは（▷125 ページ）をご覧ください。
レーススタート（RS） (SL 63 AMG)	グリップ力の高い路面状況において、停車状態から最適な加速力で発進することができます。 詳しくは（▷177 ページ）をご覧ください。

走行モードが C モードのときは、以下のようになります。

- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

! 走行モードの選択は、セレクターレバーが P、N、D のいずれかに入っているときに行なってください。

i エンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは C モードに設定されます。

i 車種や仕様により、エンジンやトランスミッションが暖まっていないときは、走行モードに関わらず、変速特性が自動的に選択されます。

i SL 63 AMG は、通常の走行ではレーススタート（RS）を選択することはできません。詳しくは（▷177 ページ）をご覧ください。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードが C モードか S モード、S+* モードのときにティップシフトにできます。

⚠ 事故のおそれがあります

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ティップシフトにしたときは、マルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ① に、選択したギアレンジが表示されます。

ギアレンジ	
P	1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。
6	1 速～ 6 速の範囲で自動的に変速します。
5	1 速～ 5 速の範囲で自動的に変速します。
4	1 速～ 4 速の範囲で自動的に変速します。
3	1 速～ 3 速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1 速～ 2 速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

ⓘ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

ⓘ 加速時にタコメーターの指針がエンジンの許容回転数を超えてレッドゾーンに入るようなときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

ⓘ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。

＊ オプションや仕様により、異なる装備です。

セレクターレバーによる操作

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときにセレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトになり、マルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ① に選択したギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ② 側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作します。

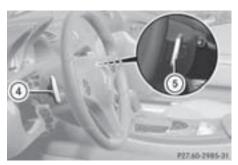
ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを ③ 側に操作して保持します。

マルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ℹ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

ℹ ティップシフトにしていないときに、セレクターレバーを ③ 側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D に入っているときに左側のパドル ④ を引きます。

ティップシフトになり、マルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ① に選択したギアレンジが表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル ④ を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル ⑤ を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル ⑤ を引いて保持します。

マルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ① に "D" が表示されます。

ⓘ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

ⓘ ティップシフトにしていないときに、右側のパドル ⑤ を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

マニュアルギアシフト

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

ⓘ マニュアルギアシフトでは、ESP®の機能を解除しないで走行することをお勧めします。

ⓘ エンジンが暖まっていないときは、選択したギアに変速しないことがあります。

マニュアルギアシフトの選択

① ギア表示
② 走行モード表示

マニュアルギアシフトを選択すると、ギア表示 ① には選択されているギアが表示されます。

ⓘ マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、オートマチックギアシフトになります。

ⓘ マニュアルギアシフトではギア表示 ① に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ * / ダウンに応じてギア表示 ① に表示される数字も変わります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マニュアルギアシフトを選択する（SL 63 AMG を除く車種）

③ 走行モード選択スイッチ

▶ 走行モード選択スイッチ ③ または ④ を押して、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ② に "M" を表示させせます。

マニュアルギアシフトを選択する（SL 63 AMG）

⑤ 走行モード選択ダイヤル（SL 63 AMG）

▶ 走行モード選択ダイヤル ⑤ をまわして、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示 ② に "M" を表示させせます。

このときは、走行モード選択ダイヤルの "M" が点灯します。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ ③ または ④ を押すか、走行モード選択ダイヤル ⑤ をまわして、S モードか C モード、S+ モード * を選択します。

セレクターレバーによるシフト操作

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを ① の方向に操作します。

シフトアップする

▶ セレクターレバーを ② の方向に操作します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パドルによるシフト操作

シフトダウンする

▶ 左側のパドル ① を引きます。

シフトアップする

▶ 右側のパドル ② を引きます。

ℹ シフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ℹ SL 350 / SL 550 では、加速時にエンジンの許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。

ℹ シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、ギアシフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

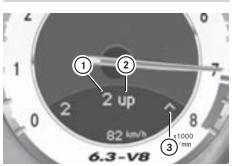
ℹ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

ℹ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ℹ SL 350 / SL 550 では、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことができます。また、キックダウンしているときは、シフト操作はできません。

ℹ SL 63 AMG では、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことはできません。

ℹ セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

シフトアップマーク（SL 63 AMG）

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示 ① と "up" マーク ② が表示されます。

また、シフトアップマーク ③ も表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

ダブルクラッチ機能

ダブルクラッチ機能は、選択している走行モードに関わらず、シフトダウン操作時に作動します。

ダブルクラッチ機能が作動することにより、ギアシフト操作がスムーズに行なわれ、スポーティな運転スタイルに役立ちます。

ダブルクラッチ機能作動時のエンジン音は、走行モードにより異なります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

停車する

▶ 一時的に停車するときは、セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

▶ やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

! 急な上り坂などではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

! 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷23 ページ）をご覧ください。

⚠ 事故のおそれがあります

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にしてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ランプが点灯したとき

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にすると km/h 表示に比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示の切り替えについては（▷145 ページ）をご覧ください。

i 1mph は約 1.6km/h です。

i マイル表示を選択すると、トリップメーターなどの表示もマイル表示になります。

外気温度表示

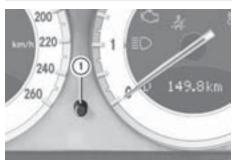
外気温度を表示します。

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調整できます。

ボタン①を時計回りにまわすと明るくなり、反時計回りにまわすと暗くなります。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 80 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

マルチファンクションディスプレイが表示されると、白色に点灯します（点灯しないときは警告灯が故障しています）。

イグニッション位置を **2** にしたとき、またはキーレスゴー操作でのエンジン始動操作直後に黄色に点灯し、エンジン始動後に白色に点灯します。

エンジン始動後も黄色に点灯しているとき、またはエンジンがかかっているときに黄色に点灯したときは燃料の残量が少なくなっています。

警告灯が点灯したときの残量は約 10 リットル（SL 63 AMG は約 14 リットル）です。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

エンジン冷却水温度計

エンジンの冷却水温度を表示します。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まで オーバーヒートを起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷281 ページ）が表示されない限り、故障ではありません。

ℹ 万一、オーバーヒートが起きたときは、冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯します。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示・設定するシステムです。

マルチファンクションディスプレイは、メーターパネル内にあります。

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

⚠ **事故のおそれがあります**

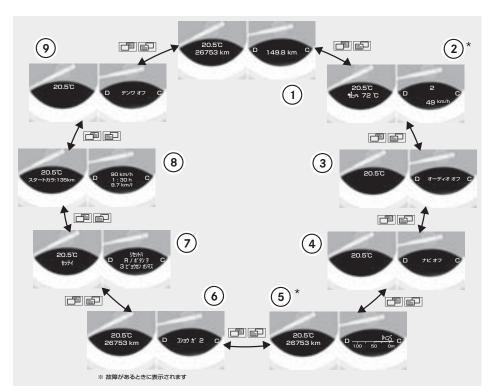
マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
① ②	マルチファンクションディスプレイ
③	**設定スイッチ / 音量スイッチ** [+] [−] • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での数値や設定の変更および機能のオン / オフ • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 • SL 63 AMG では、レースタイマーの操作 **通話開始 / 終了スイッチ（電話）** 電話の受信 / 保留 / 切断
④	**表示切り替えスイッチ** メイン画面の選択 **スクロールスイッチ** • 選択したメイン画面内の各画面の切り替え • オーディオ画面表示中のオーディオの選曲、ラジオ / テレビの選局、DVD ビデオのチャプター選択

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メイン画面一覧

①	車両情報	134
②	AMG 表示 *	135
③	オーディオ	139
④	ナビ	141
⑤	車間距離表示 *	142

⑥	故障表示	142
⑦	各種設定	143
⑧	トリップコンピューター	153
⑨	電話	154

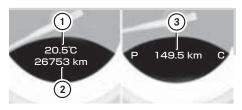
* オプションや仕様により、異なる装備です。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

「車両情報」には以下の画面があります。

- 車両情報メイン画面（外気温度 / 走行速度表示、オドメーター、トリップメーター）
- タイヤ空気圧警告システム画面 *（▷239 ページ）
- 走行速度 / 外気温度表示画面
- メンテナンスインジケーター画面（▷253 ページ）

車両情報メイン画面（外気温度 / 走行速度表示、オドメーター、トリップメーター）

① 外気温度 / 走行速度表示
② オドメーター
③ トリップメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

外気温度 / 走行速度表示

外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報メイン画面の表示設定画面 "（▷146 ページ）で行ないます。

⚠ **事故のおそれがあります**

温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ℹ 温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

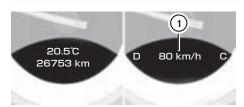
トリップメーター

リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷130 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示

走行速度 / 外気温度表示 ① は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の " メータークラスタ " の " 車両情報メイン画面の表示設定画面 "（▷146 ページ）で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、車両情報メイン画面を表示させせます（▷134 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

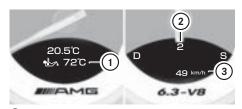
ℹ 走行速度の表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷145 ページ）。

ℹ 車両情報メイン画面の表示（▷146 ページ）を走行速度に切り替えると、外気温度は右画面に表示されます。

AMG 表示 *

「AMG 表示」には以下の画面があります。

- 油温表示画面
- 走行モード / サスペンションモード表示画面
- レースタイマー画面
- 計測結果表示画面（全ラップ）
- 計測結果表示画面（ラップ別）

油温表示画面

① 油温表示
② ギア表示
③ 走行速度表示

油温表示画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、油温表示画面を表示させせます。

油温表示 ① は、エンジンオイルの油温を表示します。

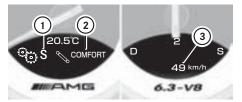
イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

❗ 油温表示の温度が点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約 80℃未満になっています）。このときは必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア表示 ② は、トランスミッションの実際のギア位置を表示します。

ℹ ギア表示②と走行速度表示③は、走行モード / サスペンションモード表示画面、レースタイマー画面でも表示されます。

走行モード / サスペンションモード表示画面

① 走行モード表示
② サスペンションモード表示
③ 走行速度表示

現在の走行モードとサスペンションモードを確認することができます。

走行モード表示 ① は、設定している走行モード（C、S、S +、M モード）を表示します。

サスペンションモード表示 ② は、設定しているサスペンションモード（スポーツ / コンフォート）を表示します。

詳しくは（▷121、181 ページ）をご覧ください。

ℹ イグニッション位置が **1** のときは表示されません。また、エンジンが停止しているときは、サスペンションモードは正しく表示されません。

走行モード / サスペンションモード表示画面を表示させる

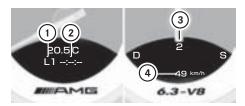
▶ [画面] または [画面] を押して、油温表示画面を表示させせます（▷135 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、走行モード / サスペンションモード表示画面を表示させせます。

または

▶ AMG セッティングスイッチ（▷181 ページ）を押します。

現在の走行モードとサスペンションモードが表示されます。

レースタイマー画面

① ラップ表示
② 計測タイム
③ ギア表示
④ 走行速度表示

レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示することができます。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

レースタイマー画面を表示させているときは、[+] または [−] を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

レースタイマー画面を表示させる

▶ [□] または [□] を押して、油温表示画面を表示させせます（▷135 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、レースタイマー画面を表示させせます。

タイム計測を開始する

▶ [＋] を押します。

タイム計測が開始されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に [－] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

ℹ スプリットタイムを表示しているときに再度 [－] を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録されます。

タイム計測を停止する

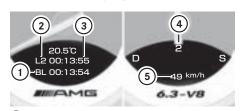
▶ タイム計測中に [＋] を押します。

タイム計測が停止します。

ℹ タイム計測を停止しているときに [＋] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ℹ タイム計測中に、停車してイグニッション位置を **1** にすると、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動して [＋] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ラップタイムを記録する

① 最速ラップタイム
② ラップ数
③ 計測タイム
④ ギア表示
⑤ 走行速度表示

最大 9 件までの計測タイムをラップタイムとして記録することができます。

▶ タイム計測中に [－] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

▶ スプリットタイムが表示されている間に、再度 [－] を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

ℹ ラップタイムが記録されているときは、計測タイム③の下に最速ラップタイム①が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測中に [+] を押します。

タイム計測が停止します。

▶ タイム計測停止中に [−] を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:00:00 に戻ります。

ℹ ラップタイムが 9 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測をしているときは、[+] を押します。

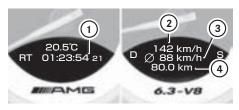
タイム計測が停止します。

▶ タイム計測が停止しているときにリセットボタン（▷130 ページ）を 2 回押します。

記録したすべてのラップタイムが消去され、表示が 00:00:00 に戻ります。

ℹ 記録したラップタイムを個別に消去することはできません。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）
① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの平均速度
④ 計測した全ラップの総走行距離

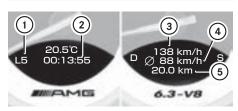
2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、油温表示画面を表示させせます（▷135 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

ℹ タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）
① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの平均速度
⑤ 表示されているラップの走行距離

ラップタイムが記録されているときは、ラップごとの計測結果を表示することができます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

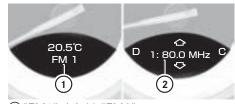
▶ または を押して、油温表示画面を表示させます（▷135 ページ）。

▶ または を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

ℹ 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。

ℹ タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

オーディオ

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または "TI"
② プリセット番号 /
ラジオ局名または受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ または を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ または を押します。

次または前のプリセット番号の放送局に移動します。

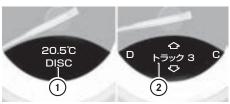
ラジオ局を自動選局する

▶ または を押して保持します。

受信周波数が移動して、次に受信できる周波数で停止します。

ℹ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

音楽を選曲する

① 音楽ソース表示
("DISC" / "M.CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX")
② トラック番号 / トラック名

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ [⧉] または [⧉] を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

音楽を選曲する

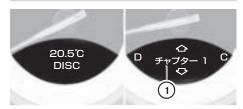
ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェースのいずれかを再生しているときは選曲を行なうことができます。

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次の曲または前の曲が選曲されます。

ℹ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ℹ 外部入力を再生しているときは、トラック番号 / トラック名 ② は表示されず、外部入力機器の操作はできません。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [⧉] または [⧉] を押して、オーディオのメイン画面を表示させせます。

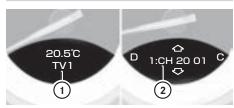
チャプターを選択する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

テレビ局を選局する

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [⊟] または [⊟] を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次または前のプリセット番号のテレビ局に移動します。

テレビ局を自動選局する

▶ [⇧] または [⇩] を押して保持します。

受信チャンネルが移動して、次に受信できるチャンネルで停止します。

ⓘ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ナビ

COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビのメイン画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、ナビのメイン画面を表示させます。

ルート案内を行なっていないとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向や交差点（分岐点）または通過点までの距離が表示されます。

ⓘ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車間距離表示 *

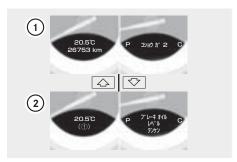
先行車と自車とのおおよその車間距離やディストロニックの設定作動内容を表示します。

車間距離表示画面を表示させる

▶ または を押して、車間距離表示画面を表示させせます。

詳しくは（▷162 ページ）をご覧ください。

ℹ 車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示させることができます。

故障表示

故障表示画面

①	故障件数画面（この例では、2 件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの や 、またはリセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを手動で確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ またはを押して、故障件数画面 ① を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ またはを押して、故障メッセージ画面 ② を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面 ① に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

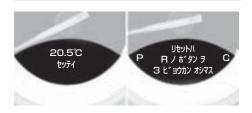
! 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷269 ページ～）をご覧ください。

各種設定

「各種設定」には以下の画面があります。

- 各種設定メイン画面
- 設定グループ選択画面
- 各種設定項目の初期化画面
- 各種設定項目の初期化完了画面

! 走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ またはを押して、各種設定メイン画面を表示させます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中にを押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[△] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ [△] または [▽] を押して、設定項目画面を選択します。

▶ [+] または [−] を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

各種設定項目の初期化

各グループ内のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [◧] または [◨] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷143 ページ）。

▶ リセットボタン（▷130 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

初期化画面が約 5 秒間表示されます。

初期化画面

▶ 初期化画面が表示されている間に、再度リセットボタンを押します。

初期化が実行され、下記の初期化完了画面が表示されます。

初期化完了画面

または

▶ 各項目の設定を維持したい場合は、リセットボタンを押さずにいます。

約 5 秒後に各種設定メイン画面に切り替わります。

ℹ 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。

ℹ 走行中に初期化を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メータークラスタ

「メータークラスタ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- 速度・距離単位設定画面
- ディスプレイ言語設定画面
- 車両情報メイン画面の表示設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [前画面ボタン] または [次画面ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷143 ページ)。

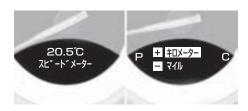
▶ [戻るボタン] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" メータークラスタ " を選択します。

▶ [戻るボタン] を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面が表示されます。

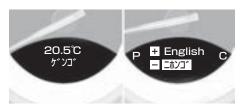
速度・距離単位設定画面

スピードメーターの単位と、マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｷﾛﾒｰﾀｰ	表示が km/h、km になります。
ﾏｲﾙ	表示が mph、マイル/MI になります。

! 1 マイル(mph)は約 1.6km(km/h)です。スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずキロメーター表示を選択してください。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。

車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面（▷134 ページ）に表示される項目の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	左側マルチファンクションディスプレイ上段の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	左側マルチファンクションディスプレイ上段の表示が外気温度になります。

ライト

「ライト」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ヘッドランプ点灯モード設定画面
- インテリジェントライトシステム設定画面
- ロケイターライティング設定画面
- 車外ランプ消灯遅延機能設定画面
- ルームランプ消灯遅延機能設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷143 ページ）。

▶ [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" ライト " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

ライトの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

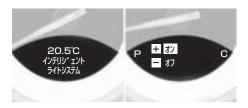
表示	設定内容
ﾏﾆｭｱﾙ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ﾂﾈﾆ ｵﾝ	常時点灯モードです。 ランプスイッチを [0] か [AUTO] の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

! 設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ !" と表示されます。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ℹ 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

インテリジェントライトシステム設定画面

インテリジェントライトシステムの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	インテリジェントライトシステムが作動します。
ｵﾌ	インテリジェントライトシステムは作動しません。

詳しくは（▷103 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷66 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
ｵﾌ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷100 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷105 ページ）をご覧ください。

シャリョウ

「シャリョウ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面
- 車速感応ドアロック設定画面
- 室内センサー設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [▭] または [▭] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷143 ページ）。

▶ [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ [+] または [−] を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
ｵﾌ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷170 ページ）で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	車速感応ドアロックが作動します。
ｵﾌ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷73 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

室内センサー設定画面

バリオルーフを開いた状態で車を施錠したときの室内センサーの設定ができます。

バリオルーフを開いた状態でも室内センサーを待機状態することができますが、車内に落ち葉や虫などが入ることにより、システムが誤作動することがあります。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	バリオルーフを開いた状態で車を施錠しても、室内センサーが待機状態になります。
ｵﾌ	バリオルーフを開いた状態で車を施錠したときは、室内センサーは待機状態になりません。

詳しくは（▷60 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- イージーエントリー設定画面
- 施錠時のドアミラー格納設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [▭] または [▭] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷143 ページ）。

▶ [⌂] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または − を押して、" コンフォート " を選択します。

▶ [⌂] を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリーの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリーは作動しません。

詳しくは（▷87 ページ）をご覧ください。

⚠ けがのおそれがあります

- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開くとイージーエントリーが作動し、けがをするおそれがあります。
- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

施錠時のドアミラー格納設定画面

車の施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

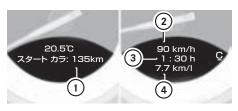
表示	設定内容
オン	施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷90 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の画面があります。

- エンジン始動時からの情報表示画面
- リセット時からの情報表示画面
- 走行可能距離画面

エンジン始動時からの情報表示画面

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの平均速度（km/h）
③ エンジン始動時からの経過時間（h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。

約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

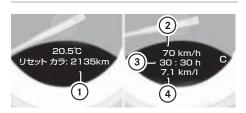
エンジン始動時からの情報表示画面を表示させる

▶ [◧] または [◨] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

エンジン始動時からの情報表示画面は手動でリセットすることもできます。

エンジン始動時からの情報表示画面を手動でリセットする

▶ エンジン始動時からの情報表示画面が表示されているときに、リセットボタン（▷130 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示画面

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの平均速度（km/h）
③ リセット時からの経過時間（h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報表示画面を表示させる

▶ [◧] または [◨] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

▶ [⇧] を押して、リセット時からの情報表示画面を表示させます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両の操作

リセットする

▶ リセット時からの情報表示画面が表示されているときに、リセットボタン（▷130 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ℹ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

イグニッション位置が **2** のときに表示することができます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます（▷153 ページ）。

▶ [▽] を押して、走行可能距離画面を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth® により携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。

⚠ **事故のおそれがあります**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ℹ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話画面を表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [ ] または [ ] を押して、電話画面を表示させます。

マルチファンクションディスプレイに " デンワ マチウケ " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [ ] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [ ] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [ ] を押します。

ℹ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ℹ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

▶ [ ] または [ ] を押して、電話画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ℹ [△] または [▽] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[△] または [▽] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ [発信] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前も表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ℹ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [▲] または [▼] を押して電話番号を選択してから、[発信] を押すと発信されます。

ℹ ステアリングの [終話] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [◀] または [▶] を押して、電話画面を表示させます。

▶ COMAND ディスプレイに " デンワマチウケ " と表示されているときに、[発信] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [▲] または [▼] を押して、発信先を選択します。

▶ [発信] を押します。

走行装備

走行装備には以下のものがあります。

- クルーズコントロール

  設定速度を自動的に維持して走行できます。

- ディストロニック *

  設定した先行車との車間距離を維持しながら、速度を調整して走行できます。

- 可変スピードリミッター

  設定速度を超えないように走行できます。

- SBC ホールド

  車の停車状態を保ち、坂道での発信を容易にします。

- レーススタート *

  停車状態から最大限の加速力で発進できます。

- ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）*

  走行状況に合わせて、車高やサスペンション特性を自動的に制御したり、手動で調整できます。

- パークトロニック

  車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおよその距離を知らせます。

ABS、BAS、アダプティブブレーキランプ、ESP®、SBC については、走行安全装備（▷46 ページ～）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は 30km/h 以上です。

⚠ 事故のおそれがあります

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷274 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

クルーズコントロールを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

可変スピードリミッター（▷170 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ② が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

▶ レバーの表示灯 ② が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押して、表示灯を消灯させます。

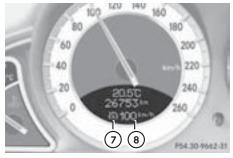
▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを ① または ④ の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ クルーズコントロールインジケーター
⑧ 設定速度

▶ アクセルペダルから足を放します。

設定した速度を維持するように走行します。

左側のマルチファンクションディスプレイに設定速度が、右側のマルチファンクションディスプレイに "ｸﾙｰｽﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ" と数秒間表示されます。

また、数秒後に左側のマルチファンクションディスプレイに、クルーズコントロールインジケーター ⑦ と設定速度 ⑧ が表示されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

! 速度が記憶されていないときにレバーを操作したときは、走行状況により、高めの速度に設定されることがあります。必要に応じて、設定速度を変更してください。

ℹ クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

ℹ 約 30km/h 以下の速度で走行しているときや ESP® の機能を解除しているとき、スポーツハンドリングモード * を設定しているときは、クルーズコントロールを設定することはできません。このときは、設定速度 ⑧ に "- - -km/h" が数秒間表示されます。

ℹ クルーズコントロールの設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ 上り坂では設定速度を維持できないことがありますが、平坦な路面になると設定速度に戻ります。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に上げて保持すると加速します。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に下げて保持すると減速します。

▶ 希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ レバーを ① か ④ の方向にごく短時間操作すると、1km/h 単位で速度の設定ができます。

ℹ レバーを ④ の方向に下げて減速しているときには、自動的にブレーキを効かせたり、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

ℹ クルーズコントロールは以下のとき自動的に解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したとき
- ESP® の機能を解除したとき
- セレクターレバーを N に入れたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ" と数秒間表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

クルーズコントロールはセレクターレバーを N に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ディストロニック *

ディストロニックは、設定した速度を自動的に維持して走行するクルーズコントロール機能に、センサーによる車間距離感知機能と車間距離警報、自動ブレーキ機能を組み合わせたシステムです。

先行車を感知すると、設定した車間距離を維持するように、速度を調整しながら走行します。

設定できる速度は 30km/h から 180km/h の間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ 前方に車両がいないときは、ディストロニックはクルーズコントロール（▷157 ページ）と同じ働きをします。

ℹ ディストロニックが自動的にブレーキを効かせたときは、ブレーキランプも点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ディストロニックは先行車への追突を回避するような自動操縦システムではありません。
- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保、適切なブレーキ操作など、ディストロニック使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ディストロニックによるブレーキは最大制動力の約 20%程度のため、運転者はこのシステムだけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 積雪路や凍結路など滑りやすい路面では、ディストロニックを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- ディストロニックは、以下のようなものには反応しません。

  ディストロニックを使用しているときも、常に周囲の状況に注意を払ってください。

  ◇ 歩行者

  ◇ 停車中の車両

  ◇ 対向車

  ◇ 道路を横切る車両

  ◇ オートバイなど横幅の狭い車両

  ◇ 異なる車線を走行している車両
- 以下のような場合はディストロニックを使用しないでください。急加速して先行車との車間距離を維持できず、事故を起こすおそれがあります。

  ◇ 急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路を走行するとき

  ◇ ETC ゲートを通過するとき

  ◇ 走行速度の速い車線に車線変更するとき

  ◇ 交通量の多い道路や、工事中区間など頻繁に車線変更を行なう区間を走行するとき
- みぞれやひょう、霧や豪雨、吹雪などの悪天候のときや視界が悪いとき、ディストロニックセンサーが汚れているときは、ディストロニックを使用しないでください。先行車との車間距離を正確に計測できず、事故を起こすおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにディストロニックに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷271、272、274 ページ）をご覧ください。

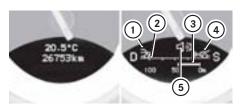
! ディストロニックは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

車間距離表示画面

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 先行車と自車との設定した車間距離
④ 自車
⑤ 車間距離警告音マーク

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示させると（▷142 ページ）、先行車との距離などを表示することができます。

ℹ 車間距離表示画面は、ディストロニックを解除しているときも表示させることができます。

ℹ 道路や交通の状況により、先行車との距離を正確に表示できないことがあります。

ディストロニックを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ ディストロニックと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ ディストロニックを解除する

可変スピードリミッター（▷170 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときに、ディストロニックを操作できます。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ② が消灯し、ディストロニックを操作できる状態に切り替わります。

ディストロニックは以下のときに設定できます。

- エンジンを始動してから約 2 分間経過したとき
- 走行速度が約 30km/h 以上、約 180km/h 以下のとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- パーキングブレーキを効かせていないとき
- ESP® が待機状態のとき
- セレクターレバーが D に入っているとき

▶ レバーの表示灯 ② が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを ① または ④ の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ④ の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

▶ アクセルペダルから足を放します。

設定した速度を維持するように走行します。

先行車がいるときは、設定した車間距離（▷166 ページ）を維持するように、速度を調整しながら走行します。

⑦ ディストロニックインジケーター
⑧ 設定速度

左側のマルチファンクションディスプレイに、ディストロニックインジケーター ⑦ と設定速度 ⑧ が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面を表示していないときは、右側のマルチファンクションディスプレイに車間距離表示画面が数秒間表示されます。

車間距離表示画面を表示させるには（▷142 ページ）をご覧ください。

ディストロニックの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

ディストロニックの設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

事故のおそれがあります

記憶されている速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

設定速度を変更する

▶ レバーを ① の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度と車間距離に到達するために車が加速します。

設定速度を下げているときに、自動的にブレーキを効かせたり、シフトダウンすることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。

アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

ディストロニック作動中にアクセルペダルを踏んで速度を上げると、マルチファンクションディスプレイに "DTR ﾊﾟｯｼﾌﾞ " と表示され、ディストロニックによる速度調整が一時的に解除されます。

ディストロニックを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に押します（▷162 ページ）。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します（▷162 ページ）。

レバーの表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

ディストロニックが解除されると、マルチファンクションディスプレイに "DTR ｵﾌ " と数秒間表示されます。

ℹ ディストロニックは以下のとき自動的に解除されます。

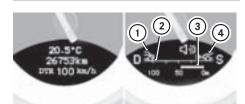
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したとき
- ESP® の機能を解除したとき
- セレクターレバーを N に入れたとき
- パーキングブレーキを効かせたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "DTR ｵﾌ" と数秒間表示されます。

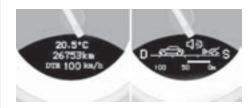
⚠ **事故のおそれがあります**

- 以下のようなときはディストロニックを解除してください。
  - ◇急な下り坂や急カーブ、曲がりくねった道路にさしかかったとき
  - ◇設定速度よりも低い速度で走行している先行車への追従走行から、車線を変更するとき
  - ◇合流車線や分岐車線を走行するとき

  これらの場合にディストロニックを作動させていると、設定した速度までシステムが自動的に加速・減速を行ない、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はセレクターレバーを N に入れてディストロニックを解除しないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

先行車を感知したとき

① 先行車（先行車を感知した場合）
② 先行車と自車とのおよその車間距離
③ 先行車と自車との設定した車間距離
④ 自車

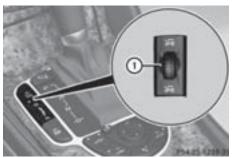
前方に走行している車を感知すると、車間距離表示画面に先行車 ① が表示されます。

自車の走行速度より遅い速度で走行しているときは、車間距離が詰まるにつれ、先行車の表示が左から右へ移動します。

速度に応じた設定車間距離に達すると、先行車への追従走行を開始します。

車間距離の設定

先行車との車間距離を 1 秒から 2 秒の範囲で設定することができます。

車間距離の 1 秒間とは、ある速度のとき 1 秒間で走行する距離のことで、約 100km/h で走行しているときの 1 秒の車間距離は約 28m になります。

設定した車間距離は車間距離表示画面に表示されます。

SL 63 AMG を除く車種

車間距離を長くする

▶ ダイヤル ① を [icon] の方向にまわします。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル ① を [icon] の方向にまわします。

※ 車種や仕様により、車間距離調整ダイヤルの位置や形状が異なることがあります。

走行速度と車間距離の関係

走行速度（km/h）	設定できる車間距離（m）
40	11 ～ 22
60	17 ～ 33
80	22 ～ 44
100	28 ～ 56

※車間距離はおよその距離です。

⚠ 事故のおそれがあります

車間距離を設定するときは、先行車との安全が確保できる距離に設定してください。先行車が急ブレーキを効かせたときなどに、事故を起こすおそれがあります。

車間距離警告

約 30km/h 以上の速度で走行しているとき、先行車を感知すると以下のような警告を行ない、運転者にブレーキ操作を促します。

- 先行車との車間距離が短くなると、車間距離警告灯が赤色に点灯します。

- 急激に先行車に接近しているときや他車が割り込んできたとき、前方に静止している障害物があるときなどは、車間距離警告灯が赤色に点灯し、車間距離警告音が鳴ります。

  このようなときは、必ずブレーキ操作を行ない、減速するか、回避操作を行なってください。

ℹ 道路幅の狭い道やカーブなどを走行しているときは、車道脇に設置された静止物やガードレールのリフレクターなどを感知して、車間距離警告が行われることがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

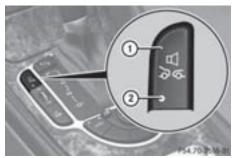
- 車間距離警告が行なわれたときは、大幅な減速が必要になります。ブレーキペダルを踏んで減速するか、回避操作を行なってください。前車や前方の障害物に衝突するおそれがあります。
- 車間距離警告が頻繁に行なわれるようなときは、ディストロニックを使用しないでください。
- 周囲の状況によっては、先行車がいても車間距離警告が行なわれなかったり、先行車がいないときに車間距離警告が行なわれることがあります。運転者は車間距離警告だけに頼らず、常に先行車との車間距離や周囲の状況を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。

車間距離警告灯

① 車間距離警告灯
② 設定速度

イグニッション位置を **2** にするか、キーレスゴーでのエンジン始動操作直後に車間距離警告灯 ① が点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

走行中は、先行車を感知すると、車間距離警告灯 ① が白色に点灯します。

車間距離警告音の設定

SL 63 AMG を除く車種
① 車間距離警告音スイッチ
② 表示灯

※ 車種や仕様により、車間距離警告音スイッチの位置や形状が異なることがあります。

車間距離警告音を解除することができます。

車間距離警告音を解除する

▶ 車間距離警告音スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面から、車間距離警告音マーク（▷162 ページ）が消えます。

車間距離警告音を待機状態にする

▶ 再度、車間距離警告音スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイの車間距離表示画面に、車間距離警告音マーク（▷162 ページ）が表示されます。

! 車間距離警告音を解除すると、急激に先行車に接近しているときなどでも、車間距離警告灯（▷167 ページ）による警告しか行なわれません。

車間距離警告音を待機状態にして走行してください。

i ディストロニックを解除しているときでも、先行車との車間距離は測定されています。先行車に近付きすぎると、車間距離警告灯と車間距離警告音による警告を行ないます。

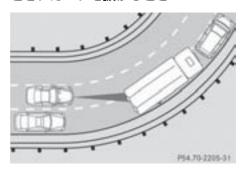
ただし、車間距離警告音を解除しているときは、車間距離警告音は鳴りません。

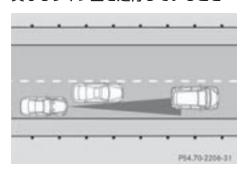
i 道路や交通の状況により、ディストロニックが先行車との距離を正確に認識できない場合があります。

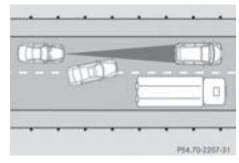
ディストロニックを使用して走行するときの注意

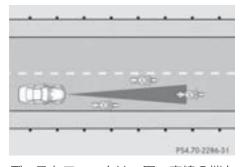
ディストロニックを使用するときに、特に注意が必要な道路と交通の状況を、以下に記載しています。

このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニックが解除されます。

カーブを走行するときやカーブに入るとき、カーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニックが先行車を感知できなかったり、感知が早すぎることがあります。その結果、車が加速したり、ブレーキを効かせることがあります。

異なるライン上を走行しているとき

ディストロニックは、同一車線でも異なるライン上を走行している先行車を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

先行車との間に割り込みがあったとき

前方に割り込んできた車がディストロニックの感知範囲内に入らないことがあります。その結果、割り込んできた車に接近しすぎることがあります。

先行車の横幅が狭いとき

ディストロニックは、同一車線の端を走行している横幅の狭い先行車（オートバイなど）を感知できないことがあります。その結果、先行車に接近しすぎることがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は 30km/h から 250km/h までの間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 設定できる速度は予告なく変更されることがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷274 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして減速してください。

⚠ 事故のおそれがあります

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ⓘ ウィンタータイヤ装着時など、タイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定できるウィンタータイヤスピードリミッターが装備されています。詳しくは（▷150 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

ⓘ 車の最高速度以上に設定しても、最高速度以上の速度で走行することはできません。

ⓘ 車種や仕様により、設定できる速度が異なる場合があります。

ⓘ 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールまたはディストロニック * を切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロール（▷157 ページ）、ディストロニック *（▷160 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯 ② が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯 ② が消灯しているときは、クルーズコントロール、またはディストロニック * の操作ができる状態です。レバーを ⑤ の方向に押すと表示灯 ② が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ レバーの表示灯 ② が点灯していることを確認してください。

消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に操作します。

▶ レバーを ① か ④ の方向に操作します。

- 走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときで、走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときで、走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

⑦ スピードリミッターインジケーター
⑧ 設定速度

可変スピードリミッターが設定されます。

左側のマルチファンクションディスプレイには設定速度が、右側のマルチファンクションディスプレイには "ﾘﾐｯﾄ" と数秒間表示されます。

また、数秒後に左側のマルチファンクションディスプレイにスピードリミッターインジケーター ⑦ と設定速度 ⑧ が表示されます。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。

前回の設定速度が走行速度より低いときは、前回の設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

! 速度が記憶されていないときにレバーを操作したときは、走行状況により、高めの速度に設定されることがあります。必要に応じて、設定速度を変更してください。

ℹ 可変スピードリミッターの設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。

設定速度を変更する

▶ レバーを ① の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ③ の方向に操作します。

設定速度が 1km/h 単位で上がります。

または

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

設定速度が 10km/h 単位で下がります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に押します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯 ② が消灯し、クルーズコントロールまたはディストロニック * の操作ができる状態に切り替わります。

⚠ **事故のおそれがあります**

可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除されません。

ℹ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき。

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき。

SBC® ホールド

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。

ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面において、停車した状態を維持できます。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、車が停止した状態を維持できません。SBC ホールドを使用しないでください。
- SBC ホールド使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずSBCホールドを解除してパーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れてください。
- SBCホールドはパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- SBCホールドが作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がペダルなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。
- SBCホールドは、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

SBCホールドの作動条件

SBCホールドは、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき
- 運転席ドアが閉じているとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットのロックが解除されていないとき
- セレクターレバーが D 、 N 、 R のいずれかに入っているとき

SBCホールドを作動させる

▶ SBCホールドの作動の条件を確認します。

▶ ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

① SBCホールドインジケーター

マルチファンクションディスプレイにSBCホールドインジケーター①が表示されます。

表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

SBCホールドが作動し、ブレーキペダルから足を放しても停車したままになります。

⚠ 事故のおそれがあります

SBC ホールドが作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引などで車を動かすときは、SBC ホールドを解除してください。

⚠ 事故のおそれがあります

以下のときは、SBC ホールドが解除され、車が動き出すおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）があるとき
- エンジンルームの電気系システムやヒューズなどが変更されたとき
- バッテリーの接続が断たれたとき

SBC ホールドを解除する

次のいずれかの操作をすると、SBC ホールドは解除され、マルチファンクションディスプレイの SBC ホールドインジケーター ① が消灯します。

- セレクターレバーが D、R に入っているときに、アクセルペダルを踏んだとき
- セレクターレバーを P に入れたとき
- ブレーキペダルを再度踏んだとき

! SBC ホールドを解除したときは、車の動きに十分注意してください。

! セレクターレバーを P に入れて SBC ホールドを解除した場合は、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

i セレクターレバーが N に入っているときにアクセルペダルを踏んでも、SBC ホールドは解除されません。

i SBC ホールドが作動して停車しているときにパーキングブレーキを効かせても、SBC ホールドは解除されません。

i イグニッション位置を **0** か **1** にしたときは、SBC ホールドを解除するまではエンジンを始動することはできません。

SBC ホールド作動時の警告

SBC ホールドが作動しているときにブレーキペダルを深く踏み込まずに以下の操作をすると、警告が行なわれます。

- イグニッション位置を **0** か **1** にしたとき
- 運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに運転席ドアを開くか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外したとき

警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " セレクタ レバー P ニ シテクダサイ " と警告メッセージが表示されます。

▶ セレクターレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

SBC ホールドが解除され、警告メッセージも消えます。

! ブレーキペダルを深く踏むことでも、警告メッセージは消えてホーンも鳴り止みますが、セレクターレバーの位置によっては車が動き出すおそれがあります。

SBC ホールドが作動しているときに以下の操作をすると、警告が行なわれて、さらにホーンが鳴ります。

- エンジンを停止して、運転席の乗員が運転席ドアを開いたとき
- ボンネットのロックを解除したとき

ホーンが鳴っているときでも、SBC ホールドは作動しています。

この状態で車を施錠しようとしたときは、ホーンの音量が上がります。

i SBC ホールドが作動しているときにエンジンを停止したときは、SBC ホールドを解除するまで、エンジンを始動することはできません。

! SBC ホールドが作動しているときに、システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）が発生したときは、マルチファンクションディスプレイに "ｽｸﾞ ﾆﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ !" と警告メッセージが表示されます。

このときはブレーキペダルをしっかりと踏んでください。さらにセレクターレバーを P に入れて SBC ホールドを解除し、パーキングブレーキを効かせて確実に停車するとともにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

レーススタート（SL 63 AMG）

グリップ力の高い路面状況において、停車状態から最適な加速力で発進できる機能です。

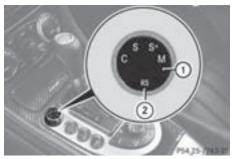
> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> - レーススタートは、スポーツハンドリングモードのときにのみ使用できます。ただし、スポーツハンドリングモードのときは、車が横滑りをしたりタイヤが空転した場合、限られた程度までしか、車両操縦性や走行安定性が確保されません。
> - レーススタートは、公道以外のサーキットなどでのみ使用してください。また、常に路面や天候の状態に合わせて運転してください。
> - レーススタートを使用するときは、可変スピードリミッターを解除してください。可変スピードリミッターの設定速度によっては、レーススタートを作動させたときにエンジンが停止するおそれがあります。

レーススタートの作動条件

レーススタートは、以下の状態のときに使用できます。

- 運転席ドアが閉じている
- エンジンがかかっていて、油温が約80℃以上になっている（▷135 ページ）
- パーキングブレーキが解除されている
- スポーツハンドリングモードを設定している（▷53 ページ）
- ステアリングが直進状態になっている
- ブレーキペダルを確実に踏んだ状態で、車が完全に停止している（ブレーキペダルは左足で踏んでください）
- セレクターレバーが D に入っている

レーススタートを使用する

▶ ブレーキペダルを左足で踏み、そのまま保持します。

① 走行モード選択ダイヤル
② レーススタート表示灯

▶ レーススタート表示灯②が点灯するまで、走行モード選択ダイヤル①を時計回りにまわします。

マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

ℹ 左側のパドルを引くと、レーススタートは解除されます。

ℹ レーススタートの作動条件（▷177 ページ）に合わない操作を行なうと、レーススタートは解除されます。

▶ 右側のパドルを引きます。

マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

▶ 右足でアクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数が約 4,000 回転まで上がります。

▶ マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されたら、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んだまま、左足をブレーキペダルから放します。

最適な加速力で発進します。また、左側のマルチファンクションディスプレイには "RACE START"、右側には " ｻﾄﾞｩ " と表示されます。

ℹ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでから、約 5 秒間ブレーキペダルから足を放さなかったときは、レーススタートは解除されます。

レーススタートは、走行速度が約 50km/h になると自動的に解除され、走行モードが S+ モードに設定されます。また、スポーツハンドリングモードは設定されたままになります。

ℹ レーススタートの作動中にアクセルペダルをゆるめるか、レーススタートの作動条件（▷177 ページ）に合わない操作を行なうと、レーススタートは解除されます。

ℹ 短時間のうちにレーススタートを繰り返して使用したときは、レーススタートが使用できなくなることがあります。ある程度の距離を走行すると、再度使用できるようになります。

ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）*

車高の自動調整

走行安定性と燃料消費率を向上させるため、走行速度に応じて車高を自動的に調整し、最適なサスペンション制御を確保します。

速度が上がると車高が自動的に低くなり、速度が下がると車高は元の高さに戻ります。

SL 63 AMG は、レベル 0 またはレベル 1 のときにエンジンを停止すると、フロント部で最大約 15mm、リア部で最大約 10mm 車高が低くなります。

⚠ **けがのおそれがあります**

SL 63 AMG は、整備などでエンジンを停止するときに、ホイールハウスの近くや車の下に人がいたり物がないことを確認してください。身体や物が挟まれるおそれがあります。また、車体の下方に十分な空間があることを確認してください。

! SL 63 AMG は、駐車するときに車の下や周りに縁石や突起物などがないことを確認してください。エンジンを停止して車高が低くなったときに接触し、車を損傷するおそれがあります。

! 必要なとき以外は、車高レベルをレベル 1 またはレベル 2 にしないでください。燃料を余計に消費し、車両操縦性に影響を与えます。

! エンジンルーム内の温度が極端に上がると、車高が自動的に上下することがありますが、走行を開始すると、車高は正常に戻ります。

! スノーチェーンを装着して走行するときは、必ず車高をレベル 1 に設定してください。

! マルチファンクションディスプレイに ABC に関する警告メッセージが表示されたときは（▷270、271 ページ）をご覧ください。

ℹ エンジンを停止しても、選択した車高レベルは記憶されます。

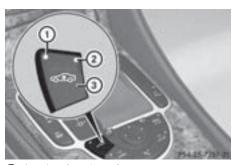
ℹ 車高の調整量は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

車高の調整

⚠ **けがのおそれがあります**

車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。身体が挟まれるおそれがあります。

スノーチェーンを装着して走行するときや悪路を走行するときなどは、車高を上げることができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

① 表示灯（レベル 1）
② 表示灯 （レベル 2）
③ 車高レベル選択スイッチ

車高レベルを選択する

▶ エンジンがかかっていることを確認します。

▶ 車高レベル選択スイッチ ③ を押します。

スイッチを押すごとに表示灯 ① または ② が点灯し、車高レベルが以下のように設定されます。

車高レベル	路面状況	車高上昇量	作動内容	表示灯の点灯数
レベル 0	通常走行時	なし	速度が上がると車高が最大で約 15mm 低くなり、速度が下がると車高が元に戻ります。	なし
レベル 1	スノーチェーンを装着して走行するときなど	約 25mm	速度が上がると車高が最大で約 25mm 低くなり、速度が下がると車高が元に戻ります。	1 個
レベル 2	非常に凹凸のある悪路を走行するときなど	約 50mm	速度が上がると車高が最大で約 50mm 低くなり、速度が下がると車高が元に戻ります。	2 個

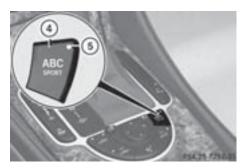
※ 上記の数値は本国仕様のものであり、日本仕様とは異なる場合があります。

サスペンション制御

運転スタイルや路面状況、荷物の積載状況によってサスペンションを自動制御します。

また、運転スタイルに合わせて、サスペンションモードを選択することができます。

エンジンがかかっているときに選択することができます。

サスペンションモードの選択（SL 63 AMG を除く車種）

▶ サスペンションモード選択スイッチ ④ を押します。

スイッチを押すごとに表示灯 ⑤ が点灯 / 消灯して、サスペンションモードが変更されます。

表示灯の状態	作動内容
消灯	通常走行用のコンフォートモードです。
点灯	スポーティな走行用のスポーツモードです。

ℹ エンジンを停止しても、選択したモードは記憶されます。

サスペンションモードの選択（SL 63 AMG）

▶ サスペンションモード選択スイッチ ⑥ を押します。

スイッチを押すごとにスイッチの照明が点灯 / 消灯して、サスペンションモードが変更されます。

スイッチの照明	作動内容
消灯	通常走行用のコンフォートモードです。
赤く点灯	スポーティな走行用のスポーツモードです。

ℹ エンジンを停止しても、選択したモードは記憶されます。

AMG セッティングスイッチ（SL 63 AMG）

AMG セッティングスイッチを押すことで、あらかじめ記憶させたオートマチックトランスミッションの走行モード（▷121 ページ）とサスペンションモードを呼び出すことができます。

走行モードとサスペンションモードを記憶させる

▶ 記憶させたいサスペンションモードと走行モードを選択します。

▶ 確認音が鳴るまで、AMG セッティングスイッチ ⑦ を押し続けます。

走行モードとサスペンションモードを呼び出す

▶ AMG セッティングスイッチ ⑦ を押します。

記憶させたサスペンションモードと走行モードに設定されます。

マルチファンクションディスプレイが、走行モード / サスペンションモード表示画面になります（▷136 ページ）。

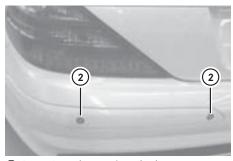
パークトロニック

パークトロニックは、フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 後退操作を行なうときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

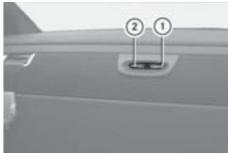
パークトロニックセンサー

① センサー（フロントバンパー）

① センサー（リアバンパー）

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは正しく作動しないことがあります。このときは赤色インジケーターが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。センサーを損傷しないよう注意して、定期的に清掃（▷259 ページ）をしてください。

インジケーター

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター

フロントのインジケーターはダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター

リアのインジケーターはシート後方の図の位置にあります。

フロント、リアともに右側インジケーター ② は車の右側を、左側インジケーター ① は車の左側を感知した状況を表示します。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチ（▷186 ページ）の表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントのインジケーター外周部の作動表示灯が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアのインジケーター外周部の作動表示灯が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じて表示灯が点灯し、警告音も鳴ります。

i パークトロニックは、速度が約 18km/h 以下のときに作動します。速度が約 18km/h 以上になると作動を停止します。

パークトロニックの作動

フロントのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

フロントのセンサー感知範囲（▷185 ページ）に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

リアのセンサー感知範囲に障害物が入ったとき

リアのセンサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯して、断続的に警告音が鳴ります。

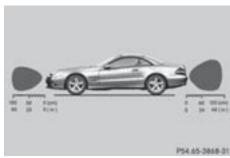
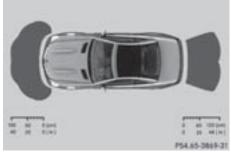
障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていき、警告音の間隔が短くなります。

障害物との距離がセンサーの最短感知 距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音の間隔がさらに短くなります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなくなり、パークトロニックが正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

側方から見た感知範囲

上方から見た感知範囲

フロント バンパー側	センサー感知範囲
中央	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リア バンパー側	センサー感知範囲
中央	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車の中央でバンパーから約 20cm以内、コーナーでバンパーから約15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

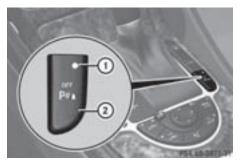
! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると､超音波が乱され､パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① 表示灯
② パークトロニックオフスイッチ

パークトロニックの機能を解除できます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯 ① が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i パークトロニックオフスイッチで機能を解除しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ **けがのおそれがあります**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **事故のおそれがあります**

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇って事故を起こすおそれがあります。

! 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

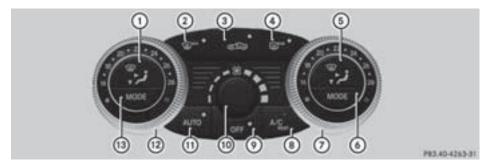
! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減るおそれがあります。

コントロールパネル

①	送風口インジケーター（左側）
②	デフロスタースイッチ
③	内気循環スイッチ
④	リアデフォッガースイッチ
⑤	送風口インジケーター（右側）
⑥	送風口選択スイッチ（右側）
⑦	送風温度調整ダイヤル（右側）
⑧	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑨	オフスイッチ
⑩	送風量調整ダイヤル
⑪	AUTO スイッチ
⑫	送風温度調整ダイヤル（左側）
⑬	送風口選択スイッチ（左側）

通常の使いかた

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ⑪を押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯し、送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ ⑨ を押します。

オフスイッチの表示灯が消灯し、以前の設定でエアコンディショナーが作動します。

ℹ 送風温度調整ダイヤルなどを操作してもエアコンディショナーは作動します。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに AUTO スイッチを押すと、AUTO モードが解除されます。このとき送風量は "3" の設定になり、中央送風口とサイド送風口などから送風されます。

送風温度の調整

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ⑦ または⑫ を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル ⑦ または⑫ を反時計回りにまわします。

ⓘ 送風温度は左右別々に設定できます。

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが開いていると、設定温度を維持できません。

ⓘ 一度に大幅に設定温度を変更しても、希望する温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

エアコンディショナーの停止

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ⑨ を押します。

エアコンディショナーが停止し、スイッチの表示灯が点灯します。

! ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

エアコンディショナーを AUTO モードで作動させたときは、自動的に AC モードに設定されます。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードに設定する

▶ 再度 AC スイッチを押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

環　境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

⚠ 事故のおそれがあります

ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなります。

ⓘ 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチの表示灯が点灯するときは、エアコンディショナーが故障しているため、除湿 / 冷房された空気は送風されません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

送風口の選択

送風口の組み合わせを手動で選択することができます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ ⑥ または ⑬ を押して、送風口インジケーター ⑤ または ① に選択する送風口マークを点灯させます。

送風口マーク	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、中央送風口、上部中央送風口
	サイド送風口、中央送風口、上部中央送風口
	サイド送風口、中央送風口、上部中央送風口、足元送風口
	サイド送風口、足元送風口
	フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口、中央送風口、上部中央送風口、足元送風口

ⓘ 送風口は左右別々に選択できます。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風口選択スイッチを押すと、押した席側の送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風量の調整

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル⑩を時計回りにまわします。

送風量インジケーターの点灯数が増えます。

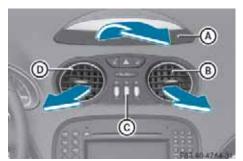
送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル⑩を反時計回りにまわします。

送風量インジケーターの点灯数が減ります。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに送風量調整ダイヤルをまわすと、送風量調整の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

送風口の調整

中央送風口の調整

Ⓐ 上部中央送風口
Ⓑ 中央送風口（右側）
Ⓒ 開閉ダイヤル
Ⓓ 中央送風口（左側）

中央送風口を開く

▶ 中央送風口の開閉ダイヤルⒸを上側にまわします。

徐々に中央送風口ⒷⒹが開き、送風量が上がります。

中央送風口を閉じる

▶ 中央送風口の開閉ダイヤルⒸを下側にまわします。

徐々に中央送風口ⒷⒹが閉じ、送風量が下がります。

いっぱいまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

中央送風口の風向きを調整する

▶ 中央送風口ⒷまたはⒹのノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

上部中央送風口の調整

上部中央送風口を開く

▶ 中央送風口の開閉ダイヤルⒸを停止するまで上側にまわします。

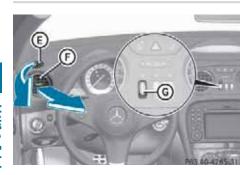
上部中央送風口Ⓐが開きます。

上部中央送風口を閉じる

▶ 中央送風口の開閉ダイヤルⒸを、停止するまで上側にまわしている状態から少し下側にまわします。

上部中央送風口Ⓐが閉じます。

さらに下側にまわしても、上部中央送風口は閉じたままになります。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

サイド送風口の調整

サイド送風口を開く

▶ サイド送風口の開閉ダイヤルⒼを上側にまわします。

上側にまわすと徐々にドアウインドウ送風口Ⓔとサイド送風口Ⓕが開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ サイド送風口の開閉ダイヤルⒼを下側にまわします。

下側にまわすと徐々にドアウインドウ送風口Ⓔとサイド送風口Ⓕが閉じ、送風量が下がります。

いっぱいまで下側にまわすと、サイド送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、完全にドアウインドウ送風口を閉じることはできません。

サイド送風口の風向きを調整する

▶ サイド送風口Ⓕのノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

グローブボックス内送風口

クローブボックス内に送風することができます。

! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス内の送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

左ハンドル車
Ⓗ ダイヤル
Ⓘ 送風口

▶ 送風するときは、ダイヤルⒽを上方にまわして ◘ が見えるようにします。

送風口Ⓘが開きます。

▶ 送風を停止するときは、ダイヤルⒽを下方にまわして ◘ が見えるようにします。

送風口Ⓘが閉じます。

ⓘ 送風温度や送風量は、エアコンディショナーの設定により自動的に調整されます。

エアスカーフ送風口

⚠ **火傷のおそれがあります**

エアスカーフを作動させているときは、エアスカーフ送風口Ⓙが過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。エアスカーフを調整してください。また、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。必要に応じて、エアスカーフを調整してください。

エアスカーフの操作については（▷83ページ）をご覧ください。

デフロスターモード

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- AC モードに設定されます。
- 送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口、ドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ⓘ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ⓘ 送風量や送風温度は、外気温度により自動的に調整されます。

ⓘ デフロスターモードに設定しているときに、AUTO スイッチを押したり、送風温度調整ダイヤルや送風量調整ダイヤルを操作すると、デフロスターモードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーの送風量や送風温度、送風口の選択が元の設定に戻ります。

ただし、デフロスターモードに設定する前に AC モードを解除していたときは AC モードに、内気循環モードにしていたときは外気導入モードになります。

ウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択スイッチ ⑥ または ⑬ を押して、送風口インジケーター ⑤ または ① に または 、 のマークを表示させます。

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

⚠ **事故のおそれがあります**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、走行前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ ④ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ ④ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、数分後に自動的に停止します。

ⓘ バリオルーフが完全に閉じていないときは、リアデフォッガーは作動しません。スイッチの表示灯は、点灯した後すぐに消灯します。

ⓘ リアデフォッガーは、バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を始めます。

ⓘ 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しないことがあります。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウを開閉することができます。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 外気温度が低いときや、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じているときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。
>
> ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ ③ をそのまま約 2 秒以上押し続けると、開いているドアウインドウやリアクォーターウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すと、ドアウインドウやリアクォーターウインドウはそのときの位置で停止します。

内気循環モードに設定していても、一定時間が経過すると自動的に外気導入に切り替わります。

外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ ③ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ ③ をそのまま約 2 秒以上押し続けると、ドアウインドウは前回開いていた位置まで開きます。

スイッチから手を放すと、ドアウインドウはそのときの位置で停止します。

リアクォーターウインドウは、前回開いていた場合は自動で全開します。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 内気循環スイッチでドアウインドウやリアクォーターウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。身体などが挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。

⚠ けがのおそれがあります

内気循環スイッチでドアウインドウを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけたり物を置かないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体などが引き込まれるおそれがあります。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ℹ AC モードを解除するかデフロスターモードにしたとき、または AUTO モードに設定したときは、外気導入モードになります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやリアクォーターウインドウを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアクォーターウインドウを内気循環モードの解除操作と連動して開くことはできません。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ 送風温度調整ダイヤル ⑦ または⑫で好みの温度に設定します。

設定温度や外気温度により、送風口の組み合わせは自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 余熱ヒーター・ベンチレーションを使用してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ℹ エンジン冷却水の温度が低いときは、暖気の送風は行なわれません。

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

バリオルーフ

安全のため、バリオルーフを開閉するときは、必ず停車してください。

⚠ 事故やけがのおそれがあります

- バリオルーフを開閉するときは、ルーフやトランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウなど、作動する部分に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。また、それらが作動する範囲に障害物がないことも確認してください。
- 走行中は、必ずバリオルーフを完全に閉じた状態にするか、トランク内に確実に収納してください。走行中にバリオルーフが動くと、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 身体や物が挟まれそうになったときは、ルーフスイッチまたはキーのボタンから手を放してください。ルーフの作動が停止します。
- バリオルーフの開閉操作を途中で停止しないでください。けがをしたり、ルーフを損傷するおそれがあります。

  開閉操作を途中で停止すると、以下の時間が経過した後に油圧装置の圧力が低下し、ルーフが倒れ込みます。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは約 7 分

  ◇イグニッション位置を **2** 以外にしたときは約 10 秒

  このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞ ﾘﾏｽ !" と表示されます。

! バリオルーフ開閉時にルーフや荷物を損傷させないため、以下の点に注意してください。

- バリオルーフを開閉するとき、ルーフは上方に、トランクは後方に動きます。上方および後方、バリオルーフの作動範囲に十分な空間があることを確認してください。
- 荷物をラゲッジカバーより高く積み上げないでください。
- ラゲッジカバーの上に物を置かないでください。
- ラゲッジカバーが荷物に押し上げられないようにしてください。
- ロールバー後方のスペースに物を置かないでください。
- 気温が約－15℃以下のときはルーフを開閉しないでください。
- ルーフが汚れていたり濡れていないことを確認してください。

! バリオルーフ開閉中に運転席ドアのトランクスイッチやトランクのハンドルを操作しないでください。

! バリオルーフが開いているとき、ロールバー後方のスペースに腰掛けたり重い物を置かないでください。

! 車を離れるときは、盗難を避けるため、必ずバリオルーフを閉じ、ドアとウインドウ、トランクなどが閉じていること、各部が施錠されていることを確認してください。

! 車を離れるときは、必ずバリオルーフを閉じてください。降雨などにより、車内の電気装備を損傷するおそれがあります。

! トランクが完全に閉じていないときにバリオルーフを開閉しようとすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷275 ページ）。

ラゲッジカバー

! ルーフ開閉時にルーフや荷物を損傷させないため、以下の点に注意してください。

- ラゲッジカバーの上に物を置かないでください。
- 荷物をラゲッジカバーより高く積み上げないでください。
- 荷物がラゲッジカバーを押し上げていないことを確認してください。

i フックがホルダーに正しく固定されていないときにバリオルーフを開閉しようとすると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞ ﾃｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。

ラゲッジカバーの開閉

ラゲッジカバーを閉じる

▶ ハンドル ③ を持ってラゲッジカバー ① を矢印の方向に引き出します。

▶ ラゲッジカバー ① の両端のフックをホルダー ② にかけます。

この状態のときに、バリオルーフの開閉ができます。

ラゲッジカバーを開く

▶ ハンドル ③ を持って、ラゲッジカバーのフックをホルダー ② から外します。

▶ ハンドル ③ を持って、ラゲッジカバーを矢印と反対の方向に押します。

この状態のときには、バリオルーフを開閉することはできません。

ラゲッジカバーの脱着

バリオルーフを閉じているときは、ラゲッジカバーを取り外すことができます。

ラゲッジカバーを取り外す

- ▶ ラゲッジカバー ① を閉じます。
- ▶ ファスナー ② を外します。
- ▶ ラゲッジカバー ① をホルダー ③ から外します。
- ▶ ハンドル ④ を持って、ラゲッジカバーを矢印と反対の方向に押します。

⚠ けがのおそれがあります

ラゲッジカバーが完全に開いた状態でのみ、ロックレバーを下げてください。身体が挟まれるおそれがあります。

- ▶ 左右のロックレバー ⑤ を矢印の方向に下げます。
- ▶ フック ⑥ を外し、フックを上方に持ち上げます。

- ▶ ラゲッジカバー ⑦ を、注意して矢印の方向に動かします。
- ▶ ラゲッジカバーの前端部 ⑧ を、トレイ ⑨ の前方にたたんで収納します。
- ▶ ラゲッジカバー ⑦ を上方に引き上げて、トランクから取り外します。

ラゲッジカバーを取り付ける

! 必ずラゲッジカバーの前端部をトレイの上に載せてから取り付けを行なってください。ラゲッジカバーを損傷するおそれがあります。

▶ ラゲッジカバーを、注意しながらトランク内に入れます。

▶ ラゲッジカバー ① の取り付け部 ② を、左右のガイドレール ③ に差し込みます。

▶ ラゲッジカバー ① を、矢印の方向に動かします。

▶ ロックレバーのフック ⑥ （▷199 ページ）を下げ、ガイドレールの凸部にかけます。

▶ 両側のロックレバー ⑤（▷199 ページ）を上げ、ラゲッジカバーを固定します。

▶ ハンドルを持って、ラゲッジカバー ① を後方に引き出しします。

▶ ラゲッジカバー ① の両端のフックをホルダーにかけます。

▶ ファスナーを閉じます。

バリオルーフの開閉（バリオルーフスイッチによる操作）

! バッテリーあがりを防ぐため、バリオルーフを操作するときはできるだけエンジンをかけてください。

! バリオルーフを開閉する前に以下の点を確認してください。

- トランク内のラゲッジカバーが引き出され、両端のフックがホルダーにかかっていること
- トランクが正しく閉じていること
- ロールバー後方のスペースの上に物が置かれていないこと

! バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも動きます。ロールバーが上がった状態のときはロールバーも動きます。

! バリオルーフスイッチの操作中に、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは（▷284、285 ページ）をご覧ください。

バリオルーフを開く

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ バリオルーフスイッチを矢印 ② の方向に引いて、すべての作動が終了するまで保持します。

- マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ !" と表示されます。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じているときは少し開きます。
- トランクが後方に開きます。
- リアクォーターウインドウが開きます。
- ルーフが後方に移動し、トランク内に収納されます。
- トランクが閉じます。
- ドアウインドウが閉じます。
- マルチファンクションディスプレイの "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ !" の表示が消えます。

! ルーフが濡れているときに開くと、車内やトランクに水が入ることがあります。開く前にルーフ上の水を拭き取ってください。

! 以下のときはルーフがトランクに正しく収納されていません。

- マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ !" と表示されているとき。
- 発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ " と表示され、警告音が約 10 秒ほど鳴ったとき。

このときは、停車してバリオルーフスイッチを矢印の方向に引き、バリオルーフを完全に開いてください。

バリオルーフを閉じる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ バリオルーフスイッチを矢印 ① の方向に押して、すべての作動が終了するまで保持します。

- マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されます。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じているときは少し開きます。
- トランクが後方に開きます。
- ルーフが前方に移動します。
- ルーフがウインドウフレームにロックされます。
- トランクが閉じます。
- ドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。
- マルチファンクションディスプレイの "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" の表示が消えます。

! シートやシート後方のスペースには、ルーフが閉じてきたときに干渉するおそれのある物を置かないでください。また、サンバイザーをフックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり、損傷するおそれがあります。

ルーフが確実に閉じていないとき

以下のときはルーフがウインドウフレームに正しくロックされていません。

- マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ!" と表示されるとき。
- 発進時や走行中に、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ " と表示され、警告音が約 10 秒ほど鳴ったとき。

このときは、以下の手順でルーフを確実に閉じてください。

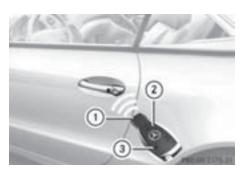
▶ 道路や交通状況に注意して、ただちに停車します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ バリオルーフスイッチを矢印 ① の方向（▷201 ページ）に押し、バリオルーフを完全に閉じます。

バリオルーフの開閉（キーによる操作）

⚠ **けがのおそれがあります**

リモコン操作でバリオルーフやドアウインドウ、リアクォーターウインドウを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンまたは解錠ボタンから指を放してください。作動中のバリオルーフやウィンドウはその位置で停止します。

リモコン操作でバリオルーフとドアウインドウ、リアクォーターウインドウを開閉できます。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! バリオルーフを開閉する前に以下の点を確認してください。

- トランクが正しく閉じていること
- ロールバーの後方に物が置かれていないこと

! バリオルーフの動きに連動して、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも動きます。ロールバーが上がった状態のときはロールバーも動きます。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

i 操作はドアハンドルの近くから行なってください。

※ 車種や仕様により、ドアハンドルの受光部が運転席側だけの場合があります。

バリオルーフを開く

▶ キーの発信部 ① をドアハンドルの受光部に向けて解錠ボタン ③ を押し続けます。

バリオルーフが開いているときはドアウインドウが開きます。

バリオルーフが閉じているときは、バリオルーフとリアクォータウインドウが開き、ドアウインドウが閉じた状態になります。

解錠ボタン ③ から手を放すと、作動中のドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフはその位置で停止します。

i リモコン操作でバリオルーフを開くと、運転席のシートベンチレーター * が強で約 5 分間作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バリオルーフを閉じる

▶ キーの発信部 ① をドアハンドルの受光部に向けて施錠ボタン ② を押し続けます。

バリオルーフが閉じているときはドアウインドウとリアクォーターウインドウが閉じます。

バリオルーフが開いているときはバリオルーフが閉じ、ドアウインドウとリアクォーターウインドウも閉じます。

施錠ボタン ② から手を放すと、作動中のドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフはその位置で停止します。

ドラフトストップ

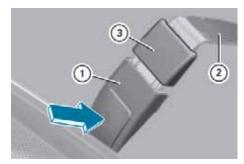
ドラフトストップは、バリオルーフを開いて走行するときに生じる風を整流するための装備です。車内への風の巻き込みを減少させます。

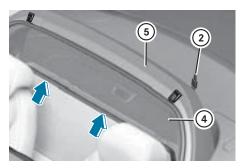
使用しないときはトランク内などに保管してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

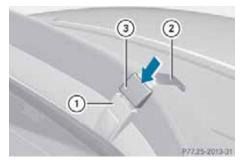
- ドラフトストップは必要なときだけ使用するようにしてください。以下の場合は、ドラフトストップを使用しないでください。
  - ◇ 後方視界が十分に確保できない場合
  - ◇ 周囲が暗い場合
- バリオルーフを閉じて走行するときは、ドラフトストップを使用しないでください。後方視界の妨げになるおそれがあります。
- ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、ルームミラーと運転席側ドアミラーの自動防眩機能は作動しません。

ドラフトストップを装着する

▶ 収納バッグからドラフトストップを取り出します。

▶ ドラフトストップのバックル ① のボタンを押して、ストラップ ② のフック ③ を外します。

▶ ロールバースイッチ（▷41 ページ）でロールバーが少し上がった状態にします。

▶ ドラフトストップ ④ を折りたたんだままロールバー ⑤ に合わせ、矢印の方向にスライドさせます。

このとき、ストラップ ② を挟まないように注意してください。

▶ ロールバー左右のガイド部 ⑥ に、ドラフトストップのアーム ⑦ をはめ込みます。

▶ ストラップ ② をロールバー ⑤ の下側から通し、フック ③ をバックル ① に差し込みます。

▶ ストラップ ② がゆるい場合は、ストラップの下部を引いてからベルクロテープでとめて、ストラップを締め付けます。

▶ ロールバースイッチでロールバー ⑤ を完全に下げます。

▶ ドラフトストップ ④ の上部を引き起こします。

ドラフトストップを取り外す

▶ ドラフトストップ ④ の上部を折りたたみます。

▶ ロールバースイッチでロールバー ⑤ が少し上がった状態にします。

▶ バックル ① のボタンを押してストラップ ② のフック ③ を外します。

▶ ドラフトストップ ④ を、装着したときと逆の方向にスライドさせながら、取り外します。

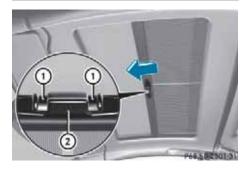
▶ ロールバースイッチでロールバー ⑤ が完全に上がった状態、あるいは完全に下がった状態にします。

▶ フック ③ をバックル ① に差し込み、ドラフトストップを収納します。

! ヘッドレストは常に適切な位置に調整してください。車が大きく傾いたときなどは自動的にロールバーが立ち上がるため、ヘッドレストが適切な位置に調整されていない場合、ロールバーに装着したドラフトストップによって乗員がけがをするおそれがあります。

! ドラフトストップを装着したときは、必ずロールバーを完全に下げた状態で走行してください。正しい使い方をしていない場合、風圧などでドラフトストップやロールバーを損傷したり、乗員がけがをするおそれがあります。

! ロールバーにドラフトストップ以外のものを装着しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに、装着したものが前方に飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。

サンシェード（パノラミックバリオルーフ装備車）

サンシェードを開く

▶ グリップ ② の両側のボタン ① を押しながら、後方に開きます。

サンシェードを閉じる

▶ グリップ ② に手をかけて前方に閉じます。

途中の位置で停止することもできます。

荷物の積み方 / 小物入れ

小物入れ

⚠ **けがのおそれがあります**

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。また、シートポケットには重い物を収納しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

左ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ボタン ① を押します。

カバー ② が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックします。

ⓘ グローブボックス内に送風することができます。

グローブボックスと小物入れの独立施錠

車が解錠された状態でも、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れを独立して施錠することができます。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して、携帯してください。

左ハンドル車

▶ キーシリンダーにエマージェンシーキー（▷303 ページ）を差し込んで、独立施錠位置 ② にまわします。

グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが施錠されます。

独立施錠を解除する

▶ キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで、連動位置 ① にまわします。

リモコン操作またはキーレスゴー操作での施錠 / 解錠に連動して、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れが施錠 / 解錠します。

ℹ リモコン操作またはキーレスゴー操作でグローブボックスが解錠されないときは、エマージェンシーキーで解錠することができます（▷306 ページ）。

アームレスト内の小物入れ

アームレスト内には小物入れがあります。

小物入れを開く

▶ レバー ② を引きながら、アームレストのカバー ① を開きます。

小物入れを閉じる

▶ アームレストのカバー ① を下げてロックします。

ℹ 車が解錠された状態でも、独立して施錠することができます（▷207 ページ）。

ℹ 小物入れにはランプがあります。車幅灯に連動して点灯 / 消灯します。

ℹ アームレスト内の小物入れには、メディアインターフェース・外部入力用ケーブルを接続する端子が装備されています。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

運転席シート下部の小物入れ

左ハンドル車

運転席シート下部の小物入れを開く

▶ ノブ ① を引いて、カバー ② を前方に開きます。

運転席シート下部の小物入れを閉じる

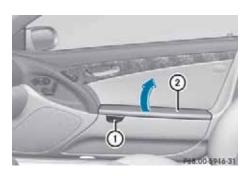
▶ カバー ② を後方に押してロックします。

! 重い荷物は収納しないでください。

i 助手席シート下部の小物入れには救急セットが収納されています。

ドアポケット

⚠ **けがのおそれがあります**

シートベルトを着用するときは、ドアポケットのカバーを閉じてください。シートベルトを正しく着用できないおそれがあります。

ドアポケットを開く

▶ ボタン ① を押してカバー ② を開きます。

ドアポケットがシート側に少し出てきます。

ドアポケットを閉じる

▶ カバー ② を下げてロックします。

シート後方の小物入れ

左右のシート後方に小物入れがあります。

シート後方の小物入れを開く

▶ ボタン ① を押してカバーを開きます。

シート後方の小物入れを閉じる

▶ カバー ② を下げてロックします。

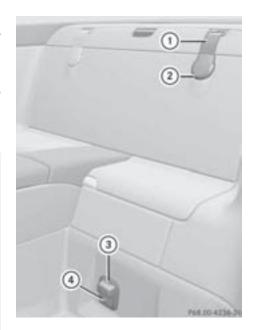
ⓘ 車が解錠された状態でも、独立して施錠することができます（▷207ページ）。

ラゲッジストラップ *

シート後方のスペースに荷物を積むときに荷物を固定できます。

⚠ **けがのおそれがあります**

- シート後方のスペースに荷物を積むときは、必ずラゲッジストラップで荷物を固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。
- シート後方のスペースには乗車しないでください。
- ラゲッジストラップは、重量の軽い荷物のみを固定することができます。重量の重い荷物を積むときはトランクに収納してください。

! 大きな荷物などを、無理にシート後方のスペースに積み込まないでください。事故やけがにつながるおそれがあります。

ラゲッジストラップを使用する

▶ プレート②を持ってホルダーから外し、ストラップ①を引き出します。

▶ 確実に荷物にストラップ①をかけ、プレート②をキャッチ③に差し込みます。

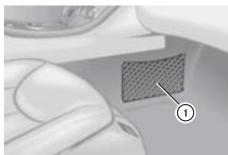
ストラップを外す

▶ プレート②をしっかり持ちながらキャッチ③のロック解除ボタン④を押してロックを外します。

▶ プレート②をホルダーに戻します。

! プレートをキャッチから外すときは、ストラップをしっかり保持してください。ストラップが巻き取られる際に、プレートが身体や物に当たるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

収納ネット

左ハンドル車
① 収納ネット

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

! 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

収納スペース

イージーパック

トランクルームに収納されたルーフは、トランクの開閉に連動して自動的に上昇 / 下降します。

トランクがいっぱいに開いていて、ラゲッジカバー（▷198 ページ）がセットされているとき、収納されたバリオルーフをスイッチで上昇 / 下降させることができます。

⚠ **けがのおそれがあります**

収納されたルーフを上下させるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは再度イージーパックスイッチを押してください。ルーフの動きが停止します。

収納されたルーフを上げるとき

▶ イージーパックスイッチ ③ を押します。

ルーフ ① が上昇し、スイッチの表示灯が明るく点灯します。

ラゲッジカバー ② をフックから外して、荷物の出し入れを行ないます。

収納されたルーフを下げるとき

▶ ラゲッジカバー ② をセットします。

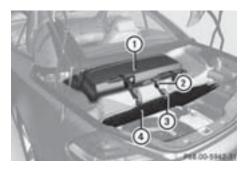
▶ イージーパックスイッチ ③ を押します。

ルーフ ① が下降し、スイッチの表示灯が元の明るさに戻ります。

! ルーフが完全に下がっていないときは、トランクを閉じないでください。ルーフやトランク、バリオルーフ開閉機構などを損傷するおそれがあります。

i ルーフが上がった状態でトランククローザースイッチまたはトランクのキーレスゴースイッチを押すと、ルーフが下がってからトランクが閉じます。

i ロールバー（▷40 ページ）が途中まで上がった状態のときにイージーパックスイッチを押すと、ロールバーが自動的にいっぱいまで上がった後、ルーフが上がります。

トランクマット下の収納スペース

トランクマット下には車載工具、応急用スペアタイヤ *、ジャッキなどが収納されています。

収納されている物を取り出すとき

▶ ラゲッジカバー ① を開きます（▷198 ページ）。

▶ ストラップ ③ を持ち、トランクマット ④ を起こします。

▶ トランクマット ④ の裏側からフック ② を引き出します。

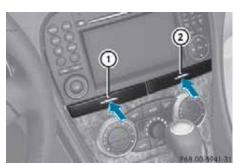
▶ フック ② をラゲッジカバー ① のハンドルにかけます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内装備

カップホルダー

⚠ **火傷のおそれがあります**

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が放り出されて、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

左ハンドル車

カップホルダーを使用する

▶ カバー ① または ② を押します。

カップホルダーがポップアップします。

ℹ 右ハンドル車には、右側のカップホルダーは装備されません。

左ハンドル車

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー ② を矢印の方向に押して収納します。

❗ カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

サンバイザー

① 照明
② フック
③ カードホルダー
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック ② から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

! バリオルーフを閉じるときは、必ずサンバイザーをフックに戻してください。フックから外した状態でバリオルーフを閉じると、バリオルーフとサンバイザーが当たり、損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

⚠ **事故のおそれがあります**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

ℹ サンバイザーをフックから外すと照明は点灯しません。

灰皿

⚠ **火災のおそれがあります**

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

! 灰を落とすときは、灰皿が取り付けられていることを確認してください。灰皿の収納部を損傷するおそれがあります。

灰皿を開く

▶ カバー ① の下部を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー ① を下方に押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ ノブ ② を矢印の方向にスライドします。

灰皿が少し上がります。

▶ 灰皿を取り外します。

⚠ **事故のおそれがあります**

灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を押してロックさせます。

ライター

⚠ **火傷や火災のおそれがあります**

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 子供を乗せるときは、ライターを抜き取るなどして、子供が火傷をしたり、火災が発生しないように注意してください。

ライターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ カバー ① の下部を軽く押します。

▶ ライター ② を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

! 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電力 180W 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

12V 電源ソケット

トランクルーム右側、トランクランプの下側に電源ソケットを装備しています。電気製品などの電源として使用します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

12V 電源ソケットを使用する

▶ カバー ① を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

! 必ず DC12V、最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

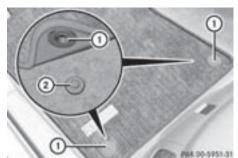
時計

時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

フロアマット *

⚠ **事故のおそれがあります**

- 運転席側のフロアマットを取り付けるときは、フロアマットとペダルとの間が十分開いていることを確認し、フロアマットを正しく固定してください。
- 必ず純正のフロアマットを使用して、正しく固定してください。
- 走行する前に、運転席側のフロアマットが正しく固定されていることを確認してください。フロアマットが正しく固定されていないと、マットがずれてペダル操作の妨げになり、事故を起こすおそれがあります。
- フロアマットを 2 枚以上重ねて使用しないでください。

① フロアマットの凹部
② フロアの凸部

フロアマットを取り付ける

▶ シートをもっとも後ろの位置に動かします。

▶ フロアマット裏側の凹部 ① をフロアの凸部 ② に押し込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアマットを引いて、取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ 事故のおそれがあります

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも、同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3、2、1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードを C モードにして走行してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ SL 63 AMG は、以下の注意事項を守ってください。

- 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

リアディファレンシャルロック装備車（SL 63 AMG パフォーマンスパッケージ）

リアディファレンシャルロック装備車には、セルフロッキング式のディファレンシャルがリアアクスルに装備されています。

リアアクスルのディファレンシャルを保護するために、リアアクスルのディファレンシャルオイルは、新車時から約 3,000km 走行後を目安に、以降は約 60,000km ごとに交換してください。

これにより、より長い期間リアアクスルのディファレンシャルを正常な状態に保つことができます。オイル交換についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料の給油

⚠ 火災や爆発のおそれがあります

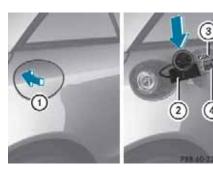
給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。

⚠ 爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 健康を害するおそれがあります

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧ラベル

※ 車種や仕様により、使用燃料表示 ③ の貼付位置が異なることがあります。

燃料給油フラップは、リモコン操作やキーレスゴー操作による解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には給油口の位置を示す ⛽▸ が表示されています。

給油口を開いて給油する

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の部分を押します。

▶ キャップを反時計回りに少しまわしてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップ ① の裏側にあるホルダー ② に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に停止した時点で給油を停止してください。

給油口を閉じる

▶ キャップを補給口に合わせて、時計回りにいっぱいまでまわします。

▶ 燃料給油フラップ ① を押します。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、使用燃料表示③およびタイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷238 ページ）をご覧ください。

ℹ リモコン操作やキーレスゴー操作で燃料給油フラップが解錠されないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

❗ 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 燃料に軽油を使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。

- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、燃料供給システムを損傷するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

エンジンルーム

ボンネット

 事故のおそれがあります

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

 火傷のおそれがあります

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ **けがのおそれがあります**

エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

 けがのおそれがあります

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまでキーレスゴースイッチを押し、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください (▷107 ページ)。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くかイグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します(▷107 ページ)。

左ハンドル車

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に押しながらボンネットを開きます。

ボンネットを閉じる

⚠ **事故のおそれがあります**

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **けがのおそれがあります**

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットやエンジンルーム内の部品などが損傷したり変形するおそれがあります。

▶ ボンネットを引き下げ、グリル上部から約 20cm ～ 30cm の位置で手を放して閉じます。

▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

ボンネットを垂直に開く

垂直位置まで開く

▶ ボンネットを少し下げながら、向かって右側のヒンジにあるロック解除レバー①を矢印の方向に押してロックを解除し、ボンネットを開きます。

垂直位置から閉じる

▶ 向かって右側のヒンジにあるロック解除レバーを押して、ロックを解除し、ボンネットを閉じます。

エンジンルーム

⚠ けがのおそれがあります

- イグニッションシステムやキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線には、高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高い場合にはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

SL 350

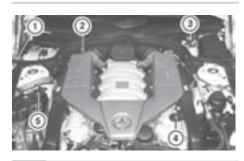
左ハンドル車

①	ウォッシャー液リザーブタンク
②	エンジンオイルレベルゲージ
③	ブレーキ液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

※ 右ハンドル車の ③ は左右対称の位置にあります。

SL 550

①	ウォッシャー液リザーブタンク
②	エンジンオイルレベルゲージ
③	ブレーキ液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

SL 63 AMG

①	ウォッシャー液リザーブタンク
②	エンジンオイルレベルゲージ
③	ブレーキ液リザーブタンク
④	エンジンオイルフィラーキャップ
⑤	冷却水リザーブタンク

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

i 慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイル量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

! 運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

SL 550

i 車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限 ② と下限 ③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルレベルゲージを元の位置に差し込みます。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷282 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、エンジンにより約 1.5 ～ 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

SL 550

⚠ **火傷のおそれがあります**

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ④ を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

! エンジンオイルを補給しすぎないようにしてください。エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときはエンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして取り付けます。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイルの交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイルは、エンジンオイルレベルゲージの上限（max）を超えて補給しないでください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。エンジンオイル量が多すぎるときは、オイルを抜いてください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **火傷のおそれがあります**

冷却水の温度が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ **火傷のおそれがあります**

不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

車が水平な場所に停車していて、冷却水が十分に冷えているときにのみ、冷却水の量を点検してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルの冷却水温度計で冷却水の温度が冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク ② 内のバー ③ の上面に達していれば適量です。

ℹ 水温が高いときは、液面が約 15mm ほど高くなります。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

冷却水量・冷却水温度警告灯

イグニッション位置を **2** にすると赤色に点灯し、エンジン始動後は白色に点灯します（点灯しないときは警告灯が故障しています）。

エンジンがかかっているときに赤色に点灯したときは、冷却水量が減少しているか、冷却システムに異常があります。

冷却水が不足している場合は補給方法に従いリザーブタンクに補給してください。頻繁に点灯する場合は冷却システムの漏れが考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

走行中に赤色に点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約 120℃以上になり、オーバーヒートしています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却してください。

詳しくは、オーバーヒートしたとき（▷232 ページ）をご覧ください。

! 冷却水量が正常なときに、冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯するときは、エンジンファンが故障している可能性があります。エンジンファンが故障している場合はオーバーヒートなどのおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

- ▶ 冷却水が冷えていることを確認します。
- ▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1 回転までまわして、圧力を抜きます。
- ▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。
- ▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

  通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

  車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます（▷349 ページ）。
- ▶ キャップ ① を確実に閉じます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させせます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- 冷却水温度警告灯が点灯し、警告音が鳴る。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ 火災のおそれがあります

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 火傷のおそれがあります

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷281 ページ）をご覧ください。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください。

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷231 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ 事故のおそれがあります

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷279、280ページ）、ブレーキ警告灯（▷248ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

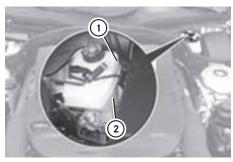
⚠ 事故のおそれがあります

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 火傷や火災のおそれがあります

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷279 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

左ハンドル車
① レベルインジケーター上限（MAX）
② レベルインジケーター下限（MIN）

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）①と下限（MIN）②の間にあれば正常です。

※ 右ハンドル車のブレーキ液リザーブタンクは、エンジンルームに向かって左側にあります。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、ブレーキ液が走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

i **ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

i ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

左ハンドル車

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ①を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ①を取り付けます。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷285 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷238 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりの侵入や水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧測定装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの保管について

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

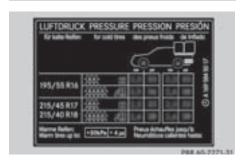
タイヤの清掃について

! 高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。損傷したタイヤは必ず交換してください。

タイヤの回転方向について

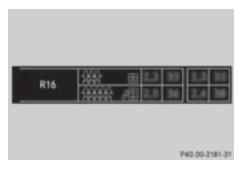
回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤ空気圧ラベルは、燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

装着されているタイヤのサイズや荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「kPa（100kPa=1bar）」と「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16“**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤサイズ表示の例

ホイール外径 ① はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

⚠ 事故のおそれがあります

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブにねじ込んで装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測器を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤの空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤの空気圧が低いときは、車の安全性に悪影響を及ぼし、事故につながるおそれがあります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 0.1bar 変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム *

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積んでいるとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ 事故のおそれがあります

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 突然の空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

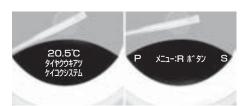
以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- タイヤやホイールを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷238 ページ）を参照して、すべてのタイヤが適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷134 ページ）。

▶ [△] または [▽] を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ﾒﾆｭｰ：R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝﾃﾞ ｼﾖｳｶﾉｳ" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ リセットボタンを押します。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更される場合があります。

▶ [+] を押して、"ﾊｲ" を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

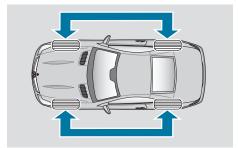
ℹ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されてから、[+] を押さずに約 15 秒間経過すると、再起動は中断されます。

タイヤローテーション

⚠ **事故のおそれがあります**

- タイヤローテーションは、前後輪が同サイズのウィンタータイヤを装着したときのみ行なってください。
- 標準タイヤ / ホイールは、サイズが前後で異なるため、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。
- ホイールボルトの締め付けトルクは 13kg-m（130Nm）です。タイヤローテーションを行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。

ℹ タイヤを入れ替えた後にタイヤ空気圧を調整してください。

ℹ タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時の注意

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

! ウインドウに付着した雪や氷を取り除くときは、ウインドウのシール部を損傷しないように注意してください。特にリアウインドウ左右の溝部分やシール部には注意してください。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップなどを損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウが凍結しているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアクォーターウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、ドアやシール部を損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、トランク、ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、バリオルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

⚠ 事故のおそれがあります

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® の効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システム * を再起動してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- ウィンタータイヤの溝の深さが 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両操縦性や走行安定性、制動性能が大きく低下しますので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、SBC ホールドやクルーズコントロール、ディストロニック * は使用しないでください。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

ℹ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪の両輪に装着してください。

! 前輪にはスノーチェーンを装着しないでください。ボディやフェンダーの内側またはサスペンション部品などに接触し、タイヤや車両を損傷するおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! 標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

! ABC 装備車にスノーチェーンを装着したときは、必ず車高をレベル 1 に設定して走行してください (▷180 ページ)。標準の車高では、チェーンがボディに接触してボディを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

i スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードを C モードに切り替えてください（▷121 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ **事故のおそれがあります**

滑りやすい路面を走行しているときは、低いギアレンジの選択やシフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択したり、シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ **事故のおそれがあります**

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ **事故のおそれがあります**

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

⚠ **火災のおそれがあります**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! SBC(センソトロニック・ブレーキ・コントロール)の点検・修理やブレーキパッドの交換などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。SBC にはブレーキ液を自動的に蓄圧する機能があるため、システムを解除してから作業しないと、ブレーキ液が漏れたり、ブレーキが自動的に作動してけがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

! ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。

i バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続してエンジンを始動したときに、マルチファンクションディスプレイに ABS や ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ABS 警告灯が点灯することがあります。

このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、故障 / 警告メッセージが消え、警告灯が消灯します。

i ブレーキペダルを踏んで SBC が起動した場合、ブレーキペダルの踏み始めは抵抗が軽く、踏みしろも通常より大きくなります。ブレーキペダルから足を放すと、通常の踏みしろに戻ります。

i ブレーキペダルに脈動が感じられたり、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。この音は SBC ポンプから発生しているもので異常ではありません。

i SBC は以下のときに自動的に解除されます。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してから約 20 秒後
- エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてから約 2 分後

i 長い急な下り坂では、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

i 高速道路を走行しているときなどブレーキをかけずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ブレーキ液の量が不足しています。安全な場所に停車して、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷278、279 ページ）をご覧ください。

AMG 強化ブレーキシステム * の注意事項

AMG 強化ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いが高くなります。

! AMG 強化ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤグリップについて

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

ⓘ **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキは効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

道路が冠水しているときや車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約 12cm です。

  波が立たないような速度で走行してください。また、周囲の車両が立てる波にも注意してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。

- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

車の周囲が雪で覆われているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、SBC ホールドやクルーズコントロール、ディストロニック * は使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 10 日前か約 1,000km 前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーター画面を消したいときは、リセットボタン（▷130 ページ）を押します。

手動表示

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ または を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX km"

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ !"

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

i "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。

i メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。

i ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上､以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねくださ い。

⚠ 中毒や火災のおそれがあります

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいため、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるため、早めに処理してください。
- 洗車をするときは、マフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ **事故のおそれがあります**

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が浸入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

⚠ **事故のおそれがあります**

自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

自動洗車機を使用するときは。必ずSBC ホールドを解除してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄や高温のワックス処理を行なう自動洗車機は使用しないでください。ドアやバリオルーフなどから水漏れを起こすおそれがあります。
- ノンブラシ式の自動洗車機を使用してください。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- ドアウインドウやリアクォーターウインドウが完全に閉じていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 余熱ヒーター・ベンチレーションが停止していることを確認してください。
- ワイパーを停止してください（▷107 ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 車の後部左側にあるアンテナの損傷を防ぐため、洗車機のローラーがアンテナに強く接触しないように洗車機のスイッチを操作するか、アンテナ部にテープを貼るなどして保護してください。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ウインドウの清掃

⚠ **事故のおそれがあります**

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウやリアウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします (▷311 ページ)。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ランプ類の清掃

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

センサーの清掃

パークトロニックやディストロニック * のセンサー ① を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! センサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! センサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーの手入れをすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車内

⚠ **けがのおそれがあります**

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ COMAND システムの電源をオフにします。

ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ **けがのおそれがあります**

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **爆発のおそれがあります**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れてパーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をダッシュボードの助手席側下部に備えています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

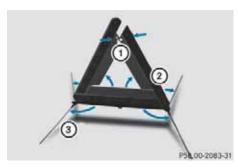
停止表示板はトランク内左側のカバー内部に収納されています。

停止表示板を取り出す

▶ ノブ ① を垂直の位置にまわします。

▶ 矢印の方向にカバーを開きます。

▶ 停止表示板ケースを取り出します。

停止表示板の組み立て

▶ 停止表示板ケースから停止表示板を取り出します。

▶ スタンド ③ を引き出して、地面に立てます。

▶ 反射板 ② を開いて三角形をつくり、頂点のフック ① をかみ合わせます。

※ 車種や仕様により、停止表示板の形状が異なる場合があります。

車載工具

車載工具はトランク内のトランクフロアボード下に収納されています。

⚠ けがのおそれがあります

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは、タイヤを交換するために車を一時的に持ち上げる目的のみのために設計されています。

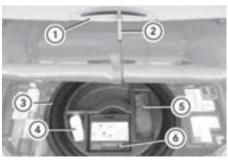
⚠ けがのおそれがあります

ジャッキはかたくてすべりにくい、水平な場所でのみ使用してください。パーキングブレーキを確実に効かせ、さらに輪止めを使用して、車が動き出してジャッキから外れることを防いでください。

⚠ 事故のおそれがあります

- 車の下で作業をするときは、必ずリジッドラックなどを使用してください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動しないでください。車が落下するおそれがあります。

ℹ ジャッキを使用するときは、"パンクしたとき"（▷312 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

① ハンドル
② フック
③ 応急用スペアタイヤ
④ タイヤ収納カバー
⑤ 車載工具
⑥ 電動エアポンプ

車載工具を取り出す

▶ バリオルーフがトランクに収納されていて、ルーフが下がっているときは、イージーパックスイッチを押してルーフを上昇させます（▷211 ページ）。

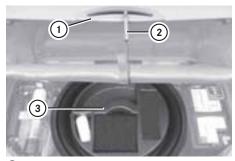
▶ ラゲッジカバーを開きます（▷198 ページ）。

▶ トランクフロアボードを引き上げ、トランクフロアボード裏側にあるフック ② をラゲッジカバーのハンドル ① にかけます。

▶ 車載工具 ⑤ を取り出します。

車載工具には以下のものが収納されています。

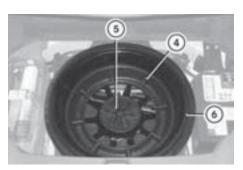
- ガイドボルト
- けん引フック
- 六角レンチ
- ヒューズ配置表（英文）
- 手袋

! トレイやジャッキ、応急用スペアタイヤなどを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

① ハンドル
② フック
③ トレイ

応急用スペアタイヤを取り出す

▶ バリオルーフを閉じます（▷201、204 ページ）。

▶ トランクフロアボードを引き上げ、トランクフロアボード裏側にあるフック ② をラゲッジカバーのハンドル ① にかけます。

▶ トレイ ③ を取り出します。

④ スペーサー *
⑤ スクリュー
⑥ 応急用スペアタイヤ

▶ SL 63 AMG は、トレイの下にあるスペーサー ④ も取り外します。

▶ スクリュー ⑤ を反時計回りにまわして取り外し、応急用スペアタイヤ ⑥ を取り出します。

! 応急用スペアタイヤを取り出すときは、周辺にあるバッテリーや補器類などを損傷しないように注意してください。

i SL 63 AMG パフォーマンスパッケージは、応急用スペアタイヤを取り出した後、ストラップ（▷320 ページ）を取り外します。

応急用スペアタイヤを取り出した状態
⑦ ジャッキ
⑧ ホイールレンチ

ジャッキ / ホイールレンチを取り出す

▶ 応急用スペアタイヤを取り出します（▷266 ページ）。

▶ ジャッキ ⑦ またはホイールレンチ ⑧ を取り出します。

i ジャッキを使用するときは、" パンクしたとき "（▷312 ページ）に記載されている安全に関する内容も必ずお読みください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤフィットが車載されている車種

① タイヤフィット
② 電動エアポンプ
③ 車載工具
④ バッテリー
⑤ ホイールレンチ
⑥ ジャッキ

▶ バリオルーフがトランクに収納されていて、ルーフが下がっているときは、イージーパックスイッチを押してルーフを上昇させます（▷211 ページ）。

▶ ラゲッジカバーを開きます（▷198 ページ）。

▶ トランクフロアボードを引き上げ、トランクフロアボード裏側にあるフックをラゲッジカバーのハンドルにかけます（▷266 ページ）。

▶ 車載工具、タイヤフィット、電動エアポンプ、ジャッキ、ホイールレンチを取り出します。

救急セット

左ハンドル車
① ノブ
② カバー

救急セットは助手席シート下部の小物入れに収納されています。

救急セットを取り出す

▶ ノブ ① を引きながら、カバー ② を矢印の方向に開きます。

▶ 救急セットを取り出します。

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

ℹ 走行するときは、カバーが確実に閉じていることを確認してください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

故障 / 警告メッセージ

⚠ 事故のおそれがあります

表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障 / 警告メッセージの表示機能は運転者を支援するシステムです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 事故のおそれがあります

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、走行速度や外気温度、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージなど走行状況に関する情報が把握できなくなります。車両操縦性などに悪影響をおよぼすおそれがあるため、状況に合わせた運転をしてください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの [⊟] または [⊡] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、"ｺｼｮｳ ｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ [△] または [▽] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高い故障 / 警告メッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが表示され続けます。一部の故障 / 警告メッセージは車両に記憶されます。

故障 / 警告メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの や スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ **事故やけがのおそれがあります**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

<table>
<tr><th colspan="2">ディスプレイ表示</th><th>考えられる原因および症状 / ▶ 対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ABC</td><td rowspan="2">ｺｼｮｳ
ﾃｲｼｬ！</td><td>ABC 装備車：
車高が下がりすぎている。
▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。
数秒後に車高調整が終わり、メッセージは消えます。</td></tr>
<tr><td>ABC 装備車：
メッセージがディスプレイに表示され続けるときは、ABC のシステムからオイルが漏れている。
▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。</td></tr>
</table>

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABC	ｺｼｮｳ ﾃｲｼｬ！	ABC 装備車： メッセージがディスプレイに表示され続けるときは、ABC に異常がある。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントのフェンダーやタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとフェンダーの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABC	ｼｬｺｳ ｼﾞｮｳｼｮｳ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	ABC 装備車： 停車時の車高が下がりすぎている。 ▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってください。 車高調整が完了します。
ABC	ｺｼｮｳ	ABC 装備車： ABC の機能が制限されている。車両操縦性に影響する可能性がある。 ▶ 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
DTR - - - km/h		ディストロニックの作動条件に合わない状態で、ディストロニックを作動させようとした。 ▶ 作動可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、ディストロニックを設定してください。 ▶ ディストロニックの作動条件を確認してください（▷163 ページ）。
DTR	ﾊﾟｯｼﾌﾞ	アクセルペダルを踏んで速度を上げたため、ディストロニックが走行速度の制御をしていない。 ▶ アクセルペダルから足を放して速度を下げてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	ｺｼｮｳ	ディストロニックに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ	ｹﾞﾝｻﾞｲ ｼﾖｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	以下のときは、ディストロニックの機能が解除され、一時的に作動を停止している。 • フロントグリルのディストロニックカバーが汚れている • 豪雨や雪、霧などのため、機能が解除されている • 付近にあるテレビ局やラジオ局、他の電磁波発信元から発せられる電磁波などにより、レーダーセンサーが一時的に作動しない状態になっている • レーダーセンサーが長時間、先行車や交通標識などの静止物を検知していなかった • システムが作動可能な温度範囲から外れている 以下のときは、再度ディストロニックを設定できるようになり、メッセージが消えます。 • 走行中に泥などの汚れが落ちたとき • センサーが再び完全に機能していることをシステムが検知したとき • システムが作動可能な温度範囲に入ったとき メッセージが表示され続けるとき： ▶ フロントグリルのディストロニックカバーを清掃してください。 ▶ エンジンを再始動してください。
P	ｾﾚｸﾀ ﾚﾊﾞｰ P ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	セレクターレバーが P 以外に入っているときに、キーレスゴースイッチでエンジンを停止し、運転席ドアを開いた。 または SBC ホールドが作動しているときに、以下のいずれかのことを行なった。 • 運転席ドアが開いているときに、運転席の乗員がシートベルトを外した • 運転席の乗員がシートベルトを着用していないときに、運転席ドアを開いた • エンジンを停止した • ボンネットのロックを解除した 状況によっては、ホーンが等間隔で鳴ったり、リモコン操作で施錠しようとするとホーンの音量が上がることがある（▷175 ページ）。また、エンジンが停止しているときは、エンジンを始動することができない。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 エンジンが停止しているときは、エンジンが始動できるようになります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であればタイヤを交換するか修理してください。（▷312 ページ）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷240 ページ）。
ﾀｲﾔｦﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。 ▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷240 ページ）。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ	ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SBC H	SBC ﾎｰﾙﾄﾞ ｵﾌ	SBC ホールドの機能が解除されている。ブレーキペダルを強く踏んだときに車が横滑りをしていたか、SBC ホールドの作動条件を満たしていなかった。 ▶ 後ほど、再度 SBC ホールドを作動させてください。
SBC H	SBC ﾎｰﾙﾄﾞ ｻﾄﾞｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	SBC ホールドの作動条件を満たしていない。 SBC ホールドの作動条件を確認してください（▷174 ページ）。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。 ▶ 運転席ドアを閉じてください。 ▶ エンジンを始動してください。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 ▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、SBC ホールドは作動できる状態になります。
SBC H	SBC ﾎｰﾙﾄﾞ ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	SBC ホールドが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	ディストロニックと可変スピードリミッターに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- - - km/h	ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください。

イラストメッセージ

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		トランクが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ トランクを閉じてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットとトランクが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットとトランクを確実に閉じてください。
		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを閉じてください。
	ﾄﾞｱ ｦ ｶｸﾆﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	ドアハンドルのキーレスゴースイッチを押して施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いている。 ▶ ドアを閉じてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • V ベルトが切れている • 電気システムの故障 ブレーキペダルを通常より非常に強い力で踏み込まなければならない。制動距離が通常よりも長くなる。必要なときは、ブレーキペダルを非常に強い力で踏んでください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		バッテリーを充電器で充電したか、他車のバッテリーを電源として、エンジンを始動した。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		バッテリーに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	バッテリーに異常がある。 SBC の作動には電力が必要なため、SBC の機能が制限されている。 ブレーキペダルを通常より非常に強い力で踏み込まなければならない。ブレーキペダルの踏みしろが大きくなり、制動距離が長くなる。必要なときは、ブレーキペダルを非常に強い力で踏んでください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｼｮｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ABS と ESP® が作動しない状態になっている。BAS とヒルスタートアシスト（SL 63 AMG のみ）の機能も解除されている。 システムの自己診断が完了していない可能性がある。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯している。 SBC は通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ わずかにステアリングを操作しながら、約 20km/h 以上の速度で、注意しながら少し走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は再び作動できる状態になります。
	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP® が作動しない状態になっている。BAS とヒルスタートアシスト（SL 63 AMG のみ）の機能も解除されている。 さらに、メーターパネルの と 、 も点灯している。 SBC は通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｼｮｳﾌｶﾉｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障が発生したか、または電源供給が断たれたため、ESP®が作動しない状態になっている。ヒルスタートアシスト（SL 63 AMG のみ）の機能も解除されている。ABS は作動する。 さらに、メーターパネルの と も点灯している。 SBC は通常通り作動するが、ESP® は作動しない。 ▶ ステアリングをいっぱいまでまわしたときに、タイヤが縁石などの障害物に接触しないことを確認してください。 ▶ 停車したまま、ステアリングを左右にいっぱいまでまわして、ESP® をリセットしてください。 数回リセット操作を行なっても、メッセージが消えないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。ヒルスタートアシスト（SL 63 AMG のみ）の機能も解除されている。ABS は作動する。 さらに、メーターパネルの と も点灯している。 SBC は通常通り作動するが ESP® は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!)	ブ゛レーキ オイル レヘ゛ル テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。 さらに、メーターパネルの (!) が点灯し、警告音が鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題が解消されることはありません。
(P)	ハ゜ーキング゛ブ゛レーキ カイジ゛ョ！	パーキングブレーキを解除しないで走行している。警告音が鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください（▷117 ページ）。
STOP	セイト゛ウリョク カ゛ ゲ゛ンショウ！ ブ゛レーキ ヲ ジ゛ュウブ゛ン フンデ゛クダ゛サイ！	⚠ **事故のおそれがあります** SBC がエマージェンシーモード（▷56 ページ）で作動している。 ブレーキペダルを通常より非常に強い力で踏み込まなければならない。制動距離が通常よりも長くなる。必要なときは、ブレーキペダルを非常に強い力で踏んでください。最高速度が 90km/h に制限される。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
(!)	ブ゛レーキ メンテナンス シテイノ コウジ゛ョウ デ゛ テンケン！	ブレーキシステムに故障がある。SBC は通常通り作動する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸ ｶﾞ ｹﾞﾝｼｮｳ！ ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ！	バッテリーの電圧低下のため、SBC に十分な電力が供給されていない。 ⚠ **中毒のおそれがあります** 閉めきった場所でエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスには一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸いこむと中毒を起こし、意識不明になったり、死亡するおそれがあります。 ▶ エンジンを始動してください。 メッセージが消えれば、SBC は通常通り作動します。
	ｾｲﾄﾞｳﾘｮｸ ｶﾞ ｹﾞﾝｼｮｳ！ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **事故のおそれがあります** SBC がエマージェンシーモード（▷56 ページ）で作動している。SBC は制限された機能でのみ作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｶﾞ ｶﾈﾂ ｼﾃｲﾏｽ！ ﾁｭｳｲ ｼﾃ ｿｳｺｳ！	過度の負荷によりブレーキシステムが非常に高温になっている。 ブレーキシステムへの負担を軽減してください。 ▶ 十分注意して走行し、不必要なブレーキ操作を避けてください。 ▶ 下り坂では、より低いギアを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。 ▶ ブレーキに風を送って冷却するために、注意しながら走行を続けてください。
	ｽｸﾞﾆﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ！	SBC ホールドの作動中に異常が発生した。 ホーンが等間隔で鳴っている。施錠しようとすると、ホーンの音量が上がる。 エンジンを始動することができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの表示が消えるまで、ただちにブレーキペダルを確実に踏んでください。 ▶ 車から離れるときは、車が動かないようにしてください。 エンジンを再始動できます。
	ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞｶﾊﾞｰｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ！	ラゲッジカバーが正しくセットされていない状態でバリオルーフを開閉しようとしている。 ▶ ラゲッジカバーを正しくセットしてください（▷198 ページ）。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[冷却水温警告表示]	レイキャクスイ テイシャ シテ エンジ゛ン ヲ テイシ	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪や泥、氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを再始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		Vベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを再始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[冷却水温警告表示]		ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンに大きな負荷をかけることを避けてください。
[冷却水量警告表示]	レイキャクスイ ホジ゛ュウ マニュアル ヲ サンショウ	冷却水量が不足している。 ▶ 補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷231 ページ）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｺﾝﾌｫｰﾄ ｴﾝﾄﾘ ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ ｿｳｺｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ！	ステアリングが記憶位置に動いている。 ▶ ステアリングが記憶位置に戻るまで待ってください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ [1]	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。 ▶ 電球を交換してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	アクティブライトシステムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーに異常がある。ランプが常時点灯モードになっている。 ▶ マルチファンクションディスプレイで、ランプを手動点灯に切り替えてください（▷147 ページ）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄ ﾗｲﾄ ｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	インテリジェントライトシステムに異常がある。インテリジェントライトシステム以外のランプは点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ！	ランプを点灯したまま車を離れようとした。警告音が鳴った。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
	ｾﾝﾀｰｺﾝｿｰﾙ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ！	アームレストの小物入れのカバーを開いている。 室内センサーが作動しない。 ▶ アームレストの小物入れのカバーを閉じてください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	エンジンオイル量が限界まで下がっている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であればエンジンオイルを補給してください（▷228 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンオイル漏れの点検を受けてください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ！	いくつかの電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を伝達できない。 エンジン冷却水温度計とタコメーターに異常がある可能性がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ﾉ ﾊﾞｯﾃﾘ ｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ（赤色のメッセージ）	車内にキーがない。 エンジンを停止したときに、施錠したり、エンジンを再始動することができない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ（赤色のメッセージ）	エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときに、電磁波などの影響によりキーが検知されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作してください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ（白色のメッセージ）	キーが検知されていない。 ▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。 それでもキーが検知されないとき： ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作してください。
	ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ	キーレスゴー操作で施錠するときに、キーが車内にあると検知されている。 ▶ キーを車外に出してください。
	ｷｰ ｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ！	エンジンスイッチにキーが差し込まれている。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーを交換しなければならない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
		燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｿｳｺｳ ｶﾉｳ ｷｮﾘ	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾛｰﾙﾊﾞｰ ｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ！ （赤色のメッセージ）	⚠ **けがのおそれがあります** ロールバーが故障している。 ▶ 手動でロールバーを上げてください（▷41 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾛｰﾙﾊﾞｰ ｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ！ （白色のメッセージ）	ロールバーが自動的に作動した後に、バリオルーフの開閉操作を行なおうとした。 ▶ ロールバーがかみ合う音が聞こえるまで、手動でロールバーを上げてください（▷41 ページ）。 ▶ バリオルーフを開閉してください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｿｳｻｶﾉｳ ﾃﾞｽ	走行中にバリオルーフを開閉しようとした。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、バリオルーフを操作してください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻｶﾞﾘﾏｽ！	バリオルーフが完全に開閉されていない。油圧装置の圧力が低下し、バリオルーフが倒れ込もうとしている。 ▶ バリオルーフを完全に開くか、完全に閉じてください。
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ	バリオルーフが正しくロックしていない状態で走行を開始した。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ バリオルーフが完全に開くか、完全に閉じるまで、バリオルーフを操作してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾊﾞﾘｵﾙｰﾌ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	電圧が低下している。 ▶ エンジンを始動してください。
		連続して、繰り返しバリオルーフを開閉した。安全のためにルーフの開閉機能が停止した。 約 10 分後に再度バリオルーフを開閉できるようになります。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**2** の位置にするかエンジンを始動してください。 ▶ バリオルーフを開閉してください。
	ｳｫｯｼｬ ｴｷ ﾎｼﾞｭｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ	リザーブタンク内のウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷234 ページ）。

トラブルの原因と対応

⚠ 事故やけがのおそれがあります

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの警告灯 / 表示灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
1 つまたはすべてのシートベンチレータースイッチの表示灯が点滅する。シートベンチレーターが自動的に停止する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、シートベンチレーターは自動的に作動します。
1 つまたはすべてのシートヒータースイッチの表示灯が点滅する。シートヒーターが自動的に停止する。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、シートヒーターは自動的に作動します。
エアスカーフが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 ▶ 再度エアスカーフのスイッチをオンにしてください。
エアコンディショナーの AC スイッチを押すと、表示灯が 3 回点滅する。 除湿 / 冷房された空気が送風されない。	故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅する。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。 ▶ 読書灯やルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されると、リアデフォッガーは自動的に作動します。
	バリオルーフが開いている。 ▶ バリオルーフを閉じてください。 リアデフォッガーが使用できるようになります。
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席にチャイルドセーフティシートを装着していない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 イグニッション位置を **2** にしたときに、メーターパネルの SRS が点灯したり、助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯しないことがある。 ▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • ノートブックパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード それでも助手席エアバッグオフ表示灯が点灯するとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
トランク内のイージーパックスイッチが点滅する。警告灯も鳴っている。	トランク内のルーフが完全に下がっていない状態でトランクを閉じようとしている。 ▶ ルーフを完全に下げてください（▷212 ページ）。

メーターパネルの警告灯 / 表示灯

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。ESP® と BAS、ヒルスタートアシスト（SL 63 AMG のみ）の機能も解除されている。 SBC は通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時には車輪がロックする可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS のコントロールユニットに異常があるときは、ナビゲーションやオートマチックトランスミッションなど、他のシステムにも異常がある可能性がある。 ⚠ **事故のおそれがあります** 電圧が低下している。電圧低下のため ABS の機能が解除されている。ESP® と BAS、ヒルスタートアシスト（SL 63 AMG のみ）の機能も解除されている。 SBC は通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時には車輪がロックする可能性がある。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すれば、ABS は作動できる状態になります。 警告灯が点灯し続けるとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、バッテリーとオルタネーターの点検を受けてください。
	走行中に白色の車間距離警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 設定した車間距離に比べて、先行車との車間距離が短すぎる。 ▶ 車間距離を十分に確保してください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[車間距離警告灯]	走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** 先行車に急激に近付いている。または、ディストロニックが走行線上に静止した障害物を検知した。 ▶ ただちにブレーキペダルを踏める準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なわなければならない可能性があります。
[ABS / ESP® 表示灯]	走行中に黄色の ABS / ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転またはロックし始めているため、ESP®、トラクションコントロールまたは ABS が作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニックが自動的に解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 道路と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行時を除く）。
OFF	エンジンがかかっているときに黄色の ABS / ESP® 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 道路と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、ESP® の点検を受けてください。
SPORT	SL 63 AMG： エンジンがかかっているときに黄色の ESP®/ スポーツハンドリングモード表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** スポーツハンドリングモードが設定されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに ESP® は制限された内容で作動するため、車両操作性や走行安定性の確保は限られたものになる。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、ESP® の点検を受けてください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[ESP表示灯] [ESP OFF表示灯]	エンジンがかかっているときに黄色の ABS / ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操作性や走行安定性を確保することができない。 SBC は通常通り作動するが、ESP® は作動しない。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!)	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴っている。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
(!)	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴っている。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクに十分な量のブレーキ液がない。 SBC が故障している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージ（▷279、280 ページ）に従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯する。	冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検し、補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 雪や泥、氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンに大きな負荷をかけることは避けてください。
	エンジンがかかっているときに冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯する。警告音も鳴っている。	冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。
	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料供給システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色のロールバー警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** ロールバーが作動できない状態になっている。 ▶ 手動でロールバーを上げてください（▷41 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
		⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に安全に収納してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴っている。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も鳴り止みます。
		⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に安全に収納してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も鳴り止みます。
	エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドアまたはトランクを開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアを開くか、ボンネットのロックを解除した。 盗難防止システムが待機状態のときに、グローブボックスやアームレストの小物入れ、シート後方の小物入れを開いた。 ▶ 盗難防止警報を停止してください（▷58 ページ）。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷270 ページ〜）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車幅灯を消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトを着用しない状態で走行し、速度が約25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。
ホーンが断続的に鳴った。	SBC ホールドが作動しているときに、エンジンを停止するか、運転席ドアを開いて運転席の乗員がシートベルトを外すか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ SBC ホールドを解除してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを再始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。

ブレーキ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ブレーキペダルの踏みごたえが通常よりも弱く、ブレーキペダルの踏みしろが大きい。	⚠ **事故のおそれがあります** • ブレーキペダルを踏むことにより、SBC が作動している • エンジンを始動した ▶ 再度ブレーキペダルを踏んでください。 通常の踏みごたえと踏みしろに戻ります。
	⚠ **事故のおそれがあります** SBC がエマージェンシーモード（▷56 ページ）で作動している。 ▶ マルチファンクションディスプレイに追加して表示される故障 / 警告メッセージに従ってください。
ブレーキペダルに脈動が伝わってくる。	⚠ **事故のおそれがあります** ブレーキペダルを踏んだときに SBC の油圧ポンプが作動している。 SBC に関する故障 / 警告メッセージに従ってください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを再始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで車を解錠して、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	燃料給油フラップは解錠されたが、開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。	SBC ホールドが作動している。 ▶ SBC ホールドを解除してください。 ▶ 再度エンジンを始動してください。
エンジンが始動しない。 スターターモーターの作動音は聞こえる。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 • エンジン始動用バッテリーの電圧が非常に低下しているか、充電されていない。 ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（▷114 ページ）。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 スターターモーターの音が聞こえない。	エンジン始動用バッテリーの電圧が非常に低下しているか、充電されていない。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷332 ページ）。 他車のバッテリーを電源としてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ 約 2 分間スターターモーターを冷やしてください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 それでもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムが故障している。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 燃焼していない燃料により、触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約 120℃を超えている。 冷却水量・冷却水温度警告灯が赤色に点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、注意事項に従いながら、冷却水を補給してください（▷230、231 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ その場合は、山道の走行や発進 / 停止を繰り返すなど、エンジンへの大きな負荷をかけることは避けてください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアにできる場合がある。 ▶ 停車してください。 ▶ エンジンを停止して、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動してください。 ▶ セレクターレバーを **D** に入れてください。 2 速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを **R** に入れてください。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	故障により、パークトロニックが停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷259 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	外部の電波や超音波により、問題が発生している。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷184 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が浸入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪などがワイパーの作動を妨げている。ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。	ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

バリオルーフ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
バリオルーフが開閉しない。	トランク内のラゲッジカバーが正しくセットされていない。 ▶ ラゲッジカバーを正しくセットしてください（▷198 ページ）。
	トランクが開いている。 ▶ トランクを閉じてください。
	電圧が低下している ▶ エンジンを始動してください。
	何度も連続してバリオルーフを開閉した。バリオルーフの開閉機能が自動的に停止した。 約 10 分後に、再度バリオルーフを開閉できるようになります。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**2** の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ 再度、開閉操作を行なってください。
	バリオルーフの開閉機能が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウが全閉しない。	障害物により、ドアウインドウが閉じなくなっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合： ▶ 挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じます（▷112 ページ）。

ドアミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ギアが噛み合う音が聞こえるまで、ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷89 ページ）を繰り返し押します。 ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ 至近距離でキーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、再度解錠 / 施錠操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ エマージェンシーキーで車を解錠 / 施錠してください（▷303､304 ページ）。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷308 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで車を解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	車が解錠されてから長時間経過したため、キーレスゴーの機能が解除された。 ▶ ドアハンドルを 2 回引き、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を解錠 / 施錠してください。至近距離でキーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、再度解錠 / 施錠操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を解錠 / 施錠してください。至近距離でキーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、再度解錠 / 施錠操作してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーを紛失した。	▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していた。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ エンジン始動用バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ エンジン始動用バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷332 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーレスゴー操作でエンジンが始動できない。キーは車内にある。	ドアが開いているため、キーが検知されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーが損傷する可能性がある。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

非常時の施錠 / 解錠

エマージェンシーキー

グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れを独立施錠する(▷207 ページ)ときやグローブボックスを解錠するときに使用します。

また、リモコン操作やキーレスゴー操作ができないときや、運転席ドアを解錠 / 施錠したり、トランクを解錠したり（▷305 ページ）、独立施錠する（▷76 ページ）ときに使用します。

車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアやトランク、グローブボックスを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

▶ キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す

▶ エンジンスイッチにキーを差し込む

▶ キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲またはトランク側アンテナの検知範囲にあるときは（▷67 ページ）、ドアハンドルに触れるかトランクのハンドルを引く

▶ キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲にあるときは、セレクターレバーのキーレスゴースイッチを押す

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランク、燃料給油フラップは解錠されません。

キーからエマージェンシーキーを取り外す

▶ ストッパー ② を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ① を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

運転席ドアの解錠

左ハンドル車

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 1 にまわします。

ロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

ℹ 左ハンドル車は反時計回りに、右ハンドル車は時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

ℹ 助手席ドアのドアハンドルにはキーシリンダーはありません。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとリアクォーターウインドウ、バリオルーフが閉じていることを確認してください。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れ、シート後方の小物入れは解錠 / 施錠されません。

車両の施錠

左ハンドル車

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドアとトランクを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ（施錠）（▷72 ページ）を押します。

▶ 助手席ドアのロックノブが下がっていることを確認します。

下がっていないときは、ロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷303 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを施錠の位置 1 にまわします。

運転席ドアのロックノブが下がり、運転席ドアが施錠されます。

ℹ 左ハンドル車は時計回りに、右ハンドル車は反時計回りにまわします。

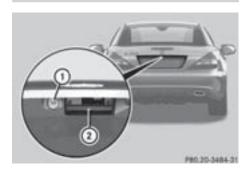
▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ 運転席ドアと助手席ドア、トランクが施錠されていることを確認します。

トランクが施錠されていないときは、トランクを独立施錠します（▷76 ページ）。

! エマージェンシーキーでドアを施錠したときは、グローブボックスやアームレストの小物入れ、シート後方の小物入れは施錠されません。エマージェンシーキーであらかじめ独立施錠してください（▷207 ページ）。

ただし、バッテリー電圧が低下しているときなどは、グローブボックスの独立施錠を行なっても、アームレストの小物入れとシート後方の小物入れは施錠されないことがあります。

トランクの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作によりトランクを開いたり、解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▷303 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、トランクのキーシリンダー ① に差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを反時計回りに止まるまでまわします。

▶ ハンドル ② を引いてトランクを開きます。

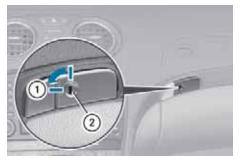
▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。また、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。

ⓘ エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドアや燃料給油フラップ、グローブボックス、アームレストの小物入れやシート後方の小物入れは解錠されません。

ⓘ エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

グローブボックスの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作でグローブボックスが解錠されないときは、以下の操作を行なってください。

左ハンドル車

▶ グローブボックスのキーシリンダー ② にエマージェンシーキーを差し込んで、グローブボックス解錠位置 ① にまわします。

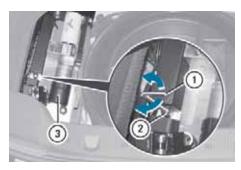
グローブボックスのみが解錠されます。

i エマージェンシーキーが ① の位置のときは、キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜くことはできません。

i グローブボックスを解錠してもアームレストの小物入れやシート後方の小物入れは解錠されません。

イージーパックで上昇させたルーフを手動で下げる

イージーパックで上昇させたルーフが下がらなくなった場合は、手動でルーフを下げます。

! 手動でルーフを下げる作業は、緊急の場合にのみ、行なってください。作業は大人 2 人で十分に注意しながら行なってください。

手動でルーフを下げる

▶ トランクマットを外します。

▶ 車載工具から六角レンチ ① を取り出します。

▶ 油圧ポンプ ③ のスクリュー ② に六角レンチ ① を差し込みます。

▶ もう 1 人の人がルーフを支えます。

▶ スクリュー ② を反時計回りにゆっくり約 1/8 回転ほどゆるめます。

▶ ラゲッジカバー両端のフックをホルダーにかけます。

▶ ルーフから手を放します。

ルーフがゆっくり下がります。

▶ ルーフが完全に下がったら、油圧ポンプのスクリューを時計回りにまわして確実に締めます。

! スクリューを締めすぎないように注意してください。

▶ トランクマットを元の位置に戻します。

▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けがのおそれがあります

- スクリューを一気にゆるめないでください。ルーフが急に下がるため、挟まれてけがをするおそれがあります。
- スクリューは約 1/8 回転以上ゆるめないでください。スクリューをゆるめ続けるとスクリューが損傷し、高圧のオイルが吹き出してけがをするおそれがあります。

キーの電池交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

中毒のおそれがあります

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環　境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

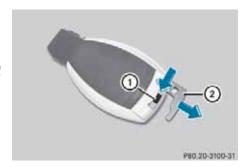
使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

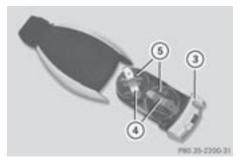
キーの電池を点検する

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーの表示灯が 1 回点滅すれば電池は正常です。

ℹ キーの電池が消耗したときは、エマージェンシーキーで解錠 / 施錠できます（▷303、304 ページ）。

電池の交換手順

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を矢印の方向に抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置にかけてロックを外しながら、電池ケース ③ を引きます。

▶ 電池 ⑤ を外し、新しい電池と交換します。

電池は 2 個ともプラス（＋）面を上にして、電極板 ④ の間に取り付けます。

▶ 電池ケース ③ を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ リモコンのすべての機能が作動することを確認します。

ℹ リチウム電池（CR2025）を 2 個使用しています。

ℹ 電池を交換するときは 2 個同時に交換してください。

ℹ 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格の電球と交換してください。交換したランプがすぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。油などが付着したときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷282 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

⚠ 火傷やけがのおそれがあります

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

⚠ けがのおそれがあります

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。その他の電球の交換についても、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

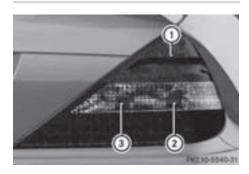
お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 電球の交換を行なうときは、実際に車両に装備されている電球の規格を確認してください。

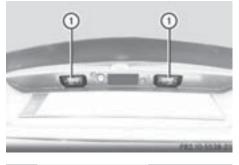
! 電球の周囲には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。電球の交換を行なうときは、けがをしないように十分注意してください。

ヘッドランプ

①	ヘッドランプ（上向き）	H7 55 W
②	コーナリングランプ	H7 55 W
③	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W

テールランプ

①	リアフォグランプ（右側のみ）	21W
②	リア方向指示灯	21W（黄色）
③	バックランプ	21W

ライセンスランプ

①	ライセンスランプ	5W

ワイパーブレードの交換

⚠ **事故のおそれがあります**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

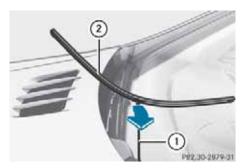
! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを ☰ の位置にして、ワイパーを作動させます。

▶ ワイパーが作動している途中で、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーを途中で停止させます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーを抜きます。

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

! ワイパーアームを起こすときにボンネットと接触するときは、ワイパーを停止する位置が不適切です。ボンネットを損傷するおそれがありますので、再度ワイパーを作動させ、適切な位置でワイパーを停止させてください。

▶ ワイパーブレード ② を図の位置にまわします。

▶ ワイパーブレード ② を矢印の方向に動かし、ワイパーアーム ① の固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、取り付けたときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。

ワイパーブレードが確実に差し込まれていることを確認してください。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 事故のおそれがあります

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろし、タイヤ交換の補助を行なう人以外の人をただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチでエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ 車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

! 車速感応ドアロック（▷73 ページ）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換やタイヤ修理をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行性能が大きく変化します。十分注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷312 ページ）。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ トランクフロアボードの下から、以下のものを取り出します。

- ガイドボルト
- 電動エアポンプ
- 応急用スペアタイヤ
- ジャッキ
- ホイールレンチ

▶ SL 63 AMG パフォーマンスパッケージは、応急用スペアタイヤのストラップを外します。

ℹ 外したストラップは車内に保管してください。応急用スペアタイヤをトランクに収納するときに必要になります。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

ℹ 輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の前後輪の下り側に輪止めをします。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

! ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキアップする

⚠ けがのおそれがあります

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- 車の下で作業をするときは、必ずリジッドラックなどを使用してください。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキに不具合や亀裂、損傷があるときは使用しないでください。
- 傾斜の急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

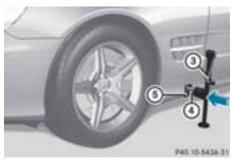
⚠ けがのおそれがあります

ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

▶ 交換するタイヤの近くのジャッキサポートのカバー ② のマークを押しながら、カバーを開きます。

▶ 車種や仕様により、図のようにジャッキサポートのカバー ② の下部にマークが記されている場合は、カバーの下部にドライバーなどを差し込んで、カバーを開きます。

ℹ ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部に計 4 カ所設けられています。

▶ ジャッキアーム ④ をジャッキサポート ⑤ に停止するまで差し込みます。

▶ その位置でジャッキを支えながら、ジャッキの下端が地面に着くまで、ジャッキハンドル ③ を時計回りにまわします。

▶ 側面から見て、ジャッキが車に対して直角になっていることを確認します。

! ジャッキアームがジャッキサポートに完全に差し込まれていることを確認してください（ジャッキアームが奥まで差し込まれていれば、ジャッキの下端は車の正面から見て、車の内側を向きます）。

▶ ジャッキが抜けてこないように、ジャッキを押し込むようにしながらジャッキハンドル ③ を矢印の方向にまわし、タイヤが地面から離れるまで、ジャッキアップします。

ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から 3cm 以内にしてください。

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ ホイールボルトを外したネジ穴に、車載工具内のガイドボルト ⑥ をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。ホイールボルトを取り付けたときに、ホイールボルトやホイールハブのネジ山を損傷するおそれがあります。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

応急用スペアタイヤの取り付けには、標準タイヤのホイールボルトを使用します。異なるホイールボルトを使用するとホイールを十分に固定することができず、走行中にホイールが外れるおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびホイールハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト ⑥ に合わせて応急用スペアタイヤ ⑦ を取り付けます。

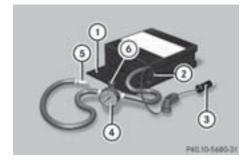
▶ 4 本のホイールボルトを取り付け、対角線の順番に軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外します。

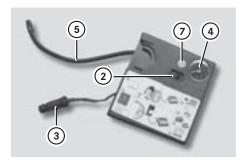
▶ 5 本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

電動エアポンプを準備する

車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

空気圧ゲージ別体型

▶ フラップ ① を開いて電源プラグ ③ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ 空気圧調整バルブ ⑥ が閉じていることを確認してください。

空気圧ゲージ一体型

▶ 電動エアポンプの裏側から電源プラグ ③ とエアホース ⑤ を取り出します。

応急用スペアタイヤに空気を入れる

⚠ **事故のおそれがあります**

必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ジャッキダウンしたときにホイールリムを損傷するおそれがあります。

⚠ **事故のおそれがあります**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

⚠ **けがのおそれがあります**

電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに記載されている取扱方法も参考にしてください。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース ⑤ を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ② を **0**（停止の位置）にします。

▶ ライターのソケット（▷215 ページ）か、トランクルーム内の 12V 電源ソケット（▷216 ページ）に、電源プラグ ③ を差し込みます。

! この車以外のライターソケットや電源ソケットなどには差し込まないでください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ② を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 規定の空気圧になったら電動エアポンプの電源スイッチ ② を **0**（停止の位置）にします。

ℹ 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに貼付されているラベルまたはタイヤに記載されています。

▶ 規定の空気圧を超えたときは、空気圧調整バルブ ⑥ をゆるめるか、空気圧調整ボタン ⑦ を押して空気を抜いて調整します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ ③ を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース ⑤ を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

! 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

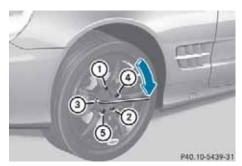
! 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

! 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。

! 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクは13 kg-m（130Nm）です。

⚠ **事故のおそれがあります**

ホイールを交換した後は、すみやかにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具などとともに元の位置に戻します。

▶ ジャッキサポートのカバーを取り付けます。

ℹ ジャッキサポートのカバーの突起部分を損傷しないように、またプラスチック製のストラップが挟まれないように注意してください。

▶ 外したタイヤはタイヤ収納カバー（▷266 ページ）に入れて、トランクルーム内に収納します。

このときは、バリオルーフを閉じてください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

  また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤの収納場所にパンクしたタイヤを収納することはできません。

! パンクしたタイヤをトランク内に収納して走行する場合は、速度を落とし十分注意して走行してください。収納したタイヤが動き、トランク内を損傷するおそれがあります。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システム * は正常に作動しません。

応急用スペアタイヤを元に戻す

応急用スペアタイヤを元の収納場所に戻すときは、以下の手順に従ってください。

この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

! 応急用スペアタイヤは、十分に乾燥させてからトランク内に収納してください。

▶ バルブキャップを取り外します。

▶ 以下の方法でタイヤ内の空気を抜きます。

- バルブ内中央にあるピンを押し込みます。

または

- バルブに電動エアポンプを取り付け、空気圧調整バルブをゆるめるか、空気圧調整ボタンを押します。

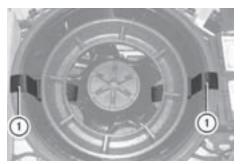
i 空気が完全に抜けるまでには、数分間かかります。

▶ バルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤ収納カバーに応急用スペアタイヤを収納します。

▶ トランクフロアボード下のスペースに応急用スペアタイヤを収納します。

▶ スクリュー（▷267 ページ）でタイヤ収納カバーを突き刺し、応急用スペアタイヤを固定します。

SL 63 AMG パフォーマンスパッケージ

① ストラップ

SL 63 AMG パフォーマンスパッケージでは、応急用スペアタイヤを元の収納場所に戻すときは、ストラップ ① を装着してタイヤを締め付け、タイヤの外周を小さくしてから収納してください。そのとき、ストラップ ① の位置が左右になるようにしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤフィットが車載されている車種

タイヤフィットが車載されている車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が約－ 20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷313 ページ）をご覧ください。

⚠ **事故のおそれがあります**

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ホイールに損傷がある場合
  - ◇タイヤの空気圧が非常に低い状態や空気が完全に抜けた状態で走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

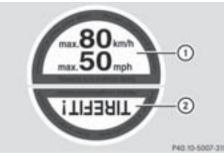
! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

タイヤフィットの準備

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> 使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギやネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属している最高速度表示のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼付します。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー②を貼付します。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。
>
> - 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
> - 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
> - アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
>
> タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。
>
> - 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分にすすぎ、水を大量に飲ませてください。
> - タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
> - タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ℹ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ ② を開きます。

▶ 電源プラグ ⑤ とエアホース ⑥ を取り出します。

▶ エアホース ⑥ をタイヤフィット ① のバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑦ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ③に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑨ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑨ に確実に取り付けます。

▶ 空気圧調整バルブ ⑩ が閉じていることを確認します。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ⑤ をライターソケット（▷215 ページ）またはトランクルーム内の 12V 電源ソケット（▷216 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット ① を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース ⑥ をタイヤのバルブ ⑨ に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ ⑤ を抜きます。

▶ タイヤのバルブ ⑨ からタイヤフィットのホース ⑧ を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース ⑥ を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ ⑪ でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 事故のおそれがあります

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ ⑪ の空気圧調整バルブ ⑩ を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理したときに走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

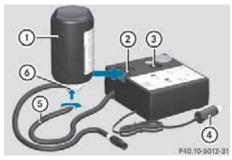
車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

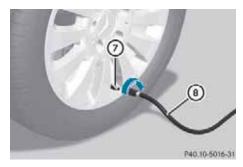
新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ ④ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ エアホース ⑤ をタイヤフィット ① のバルブ ⑥ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑥ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ② に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ ④ をライターソケット（▷215 ページ）またはトランクルーム内の 12V 電源ソケット（▷216 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり､火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット ① を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース ⑤ をタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **事故のおそれがあります**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています｡それ以上走行せず､メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグ ④ を抜きます。

▶ タイヤのバルブ ⑦ からタイヤフィットのホース ⑧ を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

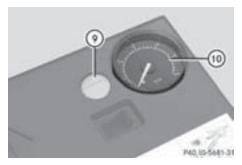
▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース ⑤ を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージ ⑩ でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 事故のおそれがあります

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達していない場合は、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えている場合は、空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧調整ボタン ⑨ を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 事故のおそれがあります

タイヤフィットでタイヤを修理したときに走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環　境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

短距離、短時間の走行が多いときや車を長期間使用しないときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花などを近付けたり、近くで喫煙しないでください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

⚠ けがや爆発のおそれがあります

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! バッテリー液が衣類や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。

! 指定のバッテリーを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! エンジンがかかっているときや始動するときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめないでください。

! 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。

! バッテリーを充電するときは車から取り外してください。

! バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i バッテリーあがりを防ぎ、バッテリーの寿命を延ばすために以下のことをお守りください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶときは、バッテリーケーブルの接続を外してください。
- バッテリーケーブルの接続を外しているときは少なくとも約 6 カ月に一度、バッテリーケーブルを接続しているときは少なくとも約 6 週間に一度、バッテリーを充電してください。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

i バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下の作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット
- ドアミラーのリセット

バッテリーの位置

以下のバッテリーが装備されています。

バッテリーの交換や充電は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジン始動用バッテリー

エンジンルームにあります。ブースターケーブルを接続して他車のバッテリーを電源として、エンジンを始動できます（▷332 ページ）。

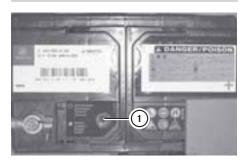
電気装備用バッテリー

トランクルームにあります。ブースターケーブルを接続することはできません。

> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> 電気装備用バッテリーは、ブースターケーブルを接続して他車のバッテリーを電源とするエンジン始動には使用できません。絶対にブースターケーブルなどを接続しないでください。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

エンジンルームにあるエンジン始動用バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ **けがのおそれがあります**

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ **爆発のおそれがあります**

- トランクルーム内に装備されている電気装備用バッテリーは、他車のバッテリーを電源とするエンジン始動には使用できません。絶対に他車のバッテリーを接続しないでください。また、電気装備用バッテリーの接続を外さないでください。
- 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、バッテリーからガスが発生するおそれがあります。火花を発生させないでください。また、裸火を近付けたり、近くで喫煙しないでください。バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリーを取り扱うときは、安全に関する注意事項を守ってください。

! バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアクォーターウインドウは下降しません。

このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアウインドウやリアクォーターウインドウ、ドアやシール部などを損傷するおそれがあります。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンと触媒が暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

i バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します（▷303 ページ）。

i バッテリーが凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

i 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

始動の方法

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

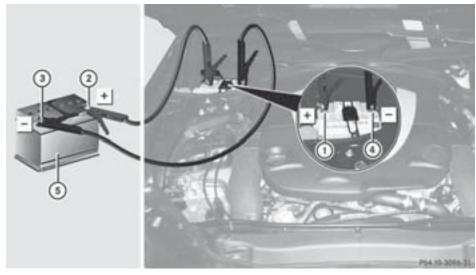
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します（イグニッション位置を **0** にします）。

▶ ボンネットを開きます。

左ハンドル車

▶ 自車の [+] 端子 ① カバーを取り外します。

▶ 自車のバッテリーの [+] 端子 ① に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー ⑤ の [+] 端子 ② に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリー ⑤ の [–] 端子 ③ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの [–] 端子 ④ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 黒色ブースターケーブルを両車の [–] 端子から外します。先に自車の [–] 端子 ④ から外します。

▶ 赤色ブースターケーブルを両車の [+] 端子から外します。先に自車の [+] 端子 ① から外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ **事故のおそれがあります**

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。必要であれば、ブレーキペダルを力いっぱい踏んでください。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。
- SBC ホールドが作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、SBC ホールドを解除してください。

⚠ **事故のおそれがあります**

バッテリーの電圧低下や電気システムの異常などで SBC が作動しないときは、SBC はエマージェンシーモードになります。

エマージェンシーモードでは、ブレーキペダルを通常よりも深く（奥に）、強く踏み込んでください。また、ブレーキペダルを踏むのに非常に大きな力が必要になり、制動距離も長くなります。

SBC が作動しないときは自走をできるだけ避けて、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車で移送してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。

! やむを得ず他車にけん引してもらうときは、以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引してください。

! オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼し、プロペラシャフトを外して、けん引してください。

! けん引する距離が長くなるときは、必ずリアをつり上げてください。

! けん引されるときは、以下の操作を行なってください。

- セレクターレバーを N に入れてください。
- けん引防止警報を解除してください（▷59 ページ）。
- 車速感応ドアロックを解除してください（▷150 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! けん引される前に、バッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。イグニッション位置を **2** にすることができないため、セレクターレバーを P から動かすことができなくなります。また、エンジンが停止していると、ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中はロープをたるませないように、前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

けん引フックの取り付け

取り付け位置

フロントの取り付け位置

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部を押して、カバー ① を外します。

リアの取り付け位置

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ カバー ① の上部を手前に引いて開きます。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状やマーク部の位置は異なります。

> ⚠ **火傷のおそれがあります**
>
> リア取り付け部のカバーを取り外すときはマフラーに注意してください。熱くなったマフラーに触れると、火傷をするおそれがあります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具からけん引フックを、応急用スペアタイヤの下部からホイールレンチを取り出します（▷266、267ページ）。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、停止するまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

フロントまたはリアをつり上げてけん引するとき

▶ セレクターレバーを **N** に入れます。

▶ イグニッション位置を **0** にします。

! 距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP® が作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

けん引フックを取り外す

▶ 車載工具（▷265 ページ）からホイールレンチを取り出します。

▶ ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ ホイールレンチを応急用スペアタイヤの下部に、けん引フックを車載工具に収納します。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを **N** に入れます。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズの交換

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

> ⚠ **火災のおそれがあります**
>
> 規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。電気回路に負担がかかり、火災の原因になります。
>
> ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

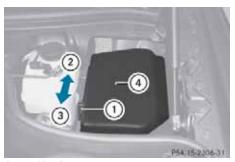
> ⚠ **事故のおそれがあります**
>
> バッテリーの電圧低下や電気システムの異常などで SBC が作動しないときは、SBC はエマージェンシーモードになります。
>
> エマージェンシーモードでは、ブレーキペダルを通常よりも深く（奥に）、強く踏み込んでください。また、ブレーキペダルを踏むのに非常に大きな力が必要になり、制動距離も長くなります。

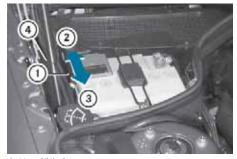
ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- エンジンルーム内運転席側
- エンジンルーム内助手席側
- 右側シート後方の小物入れ下部

ℹ トランク内の電気装備用バッテリーの前部にも、ヒューズがあります。

エンジンルーム内運転席側のヒューズボックス

左ハンドル車

エンジンルーム内助手席側のヒューズボックス

左ハンドル車

ヒューズボックスのカバーを外す

▶ 停車して、すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にします。

▶ ワイパーが停止位置になっていることを確認します。

> ⚠ **けがのおそれがあります**
>
> エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

▶ ボンネットを開きます。

▶ カバー ④ に水分や汚れが付着しているときは、布などで拭き取ります。

▶ ノブ ① を開く位置 ② に動かしてロックを解除します。

▶ カバー ④ を開きます。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ ヒューズボックスカバーのシール部が正しい位置にあることを確認します。

▶ カバー ④ をヒューズボックスに取り付けます。

▶ ノブ ① を閉じる位置 ③ に動かしてロックします。

▶ ボンネットを閉じます。

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入り、故障の原因になります。

右側シート後方の小物入れ下部のヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーを開く

▶ 小物入れ底面のノブ ⑤ を引きながらカバーを開きます。

ヒューズを交換する

▶ 停車します。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にします。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

エンジンルーム内運転席側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
1	20A	ワイパーリセスヒーター
2	—	未使用
3	15A	ステアリング調整
4	15A	ステアリング調整
5	40A	ワイパー
6	7.5A	SRS エアバッグ
7	5A	オプション
8	10A	オプション
9	40A	シート調整、シートヒーター、自動防眩ルームミラー、自動防眩ドアミラー、乗降用ライト、方向指示灯、ドアミラー、トランク開閉、セントラルロック、シートベンチレーター、リアクォーターウインドウ
10	—	未使用
11	30A	ライター、トランク内 12V 電源ソケット
12	7.5A	SRS エアバッグ
13	5A	ブレーキランプ
14	7.5A	ワイパーウォッシャーポンプ、ヘッドランプウォッシャーポンプ
15	10A	診断ソケット
16	5A	電話
17	5A	オプション
18	—	未使用
19	10A または 15A	オプション
20	7.5A	診断ソケット
21	5A	インストルメントパネル
22	5A	インストルメントパネル
23	10A	エアコンディショナー
24	15A	ABC

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
25	7.5A	盗難防止警報システム、リアデフォッガー
26	5A	チャイルドセーフティシート検知システム、セントラルロック、ディストロニック、非常点滅灯、パークトロニック、タイヤ空気圧警告システム
27	30A	シート調整、シートヒーター、シートベンチレーター、シートベルト、マルチコントロールシートバック

エンジンルーム内助手席側のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
28	15A	ホーン
29	—	未使用
30	—	未使用
31	—	未使用
32	40A	エンジンコントロールユニット
33	50A	ABS、ASR、BAS、ESP®、SBC
34	5A	ABS、ASR、BAS、ESP®、SBC
35	20A	エンジンファン、低温ポンプ
36	5A	ABS、ASR、BAS、ESP®、SBC
37	7.5A または 10A	トランスミッション
38	7.5A	自動防眩ルームミラー、自動防眩ドアミラー、セントラルロック、ドアミラー、ルームランプ、バニティミラー照明、ライト / レインセンサー、読書灯、バリオルーフ
39	40A	セントラルロック、乗降用ライト、自動防眩ドアミラー、方向指示灯、ドアミラー、シート調整、シートヒーター、シートベンチレーター、リアクォーターウインドウ
40	—	未使用
41	5A	トランスミッション
42	30A	チャイルドセーフティシート検知システム、シート調整、シートヒーター、シートベンチレーター、シートベルト、マルチコントロールシートバック
43	20A または 30A	エンジンコントロールユニット、エンジン緊急停止、燃料ポンプ
44	20A	エンジンコントロールユニット、エンジン緊急停止、エンジンファン
45	5A	ディストロニック
46	5A	ABC
47	10A	ヘッドランプ照射角度調整
48	10A	ヘッドランプ照射角度調整
49	5A	エアコンディショナー

右側シート後方の小物入れ下部のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
50	—	未使用
51	7.5A	低温ポンプ
52	30A	燃料ポンプ
53	30A	リアデフォッガー
54	20A	トランク開閉
55	25A	エアスカーフ
56	25A	エアスカーフ
57	5A	オプション
58	10A	キーレスゴー
59	25A	サウンドシステム
60	7.5A	エンジンコントロールユニット
61	30A	オプション
62	25A	ドアウインドウ、バリオルーフ
63	25A	ドアウインドウ、バリオルーフ
64	—	未使用
65	—	未使用

66	25A または 40A	サウンドシステム
67	5A	パークトロニック
68	25A	ロールバー
69	25A	バリオルーフ
70	5A	オプション
71	20A または 25A	COMAND システム
72	5A	COMAND システム
73	40A	バリオルーフ
74	5A	盗難防止警報システム、けん引防止警報機能、バリオルーフ
75	5A	TV チューナー
76	—	未使用
77	5A または 20A	オプション

トランク内のヒューズ

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
78	7.5A	ステアリング調整、エンジンコントロールユニット、エンジン緊急停止、マルチファンクションステアリング

(2007-07-26・A230 545 05 00)

ⓘ 仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

ⓘ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 事故のおそれがあります

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環　境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ 事故のおそれがあります

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の使用に対する適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- エアバッグ収納部
- シートベルト
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- ドア
- シート
- ピラー付近
- サイドシル付近

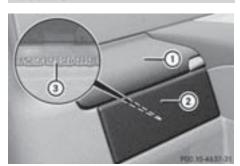
詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のドア開口部車体側に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

右側シート後方にある小物入れの下のフレームに、車台番号が打刻されています。

車台番号を確認する

▶ 右側シート後方の小物入れのカバー①を開きます（▷209 ページ）。

▶ パネル②の上部を手前に引いて、パネル②を取り外します。

車台番号③が確認できます。

オプションコードプレート

④ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート④が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロックの右側後方にエンジン番号が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ けがのおそれがあります

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環　境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ 爆発のおそれがあります

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ けがのおそれがあります

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量		約 80 ℓ
警告灯点灯時の残量	SL 350 SL 550	約 10 ℓ
	SL 63 AMG	約 14 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料やエンジンオイルの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環　境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2排出量を最小限に抑えることができます。

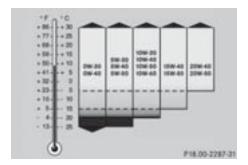
エンジンオイル

! 燃料やエンジンオイルの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
SL 350 SL 63 AMG	約 8.0 ℓ
SL 550	約 8.5 ℓ

i 容量は、オイルフィルター分を含む、交換時の数値です。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ **火災のおそれがあります**

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

! 不凍液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **事故のおそれがあります**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

⚠ **火災のおそれがあります**

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

エンジン始動用バッテリー

電圧	12V
容量	35Ah
装備位置	エンジンルーム内

電気装備用バッテリー

電圧	12V
容量	70Ah
装備位置	トランク内

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

車両データ

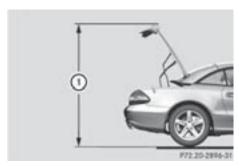
積載荷物の制限重量

車種	ルーフ	トランク
全車	75kg	100kg

ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

バリオルーフ操作時の全高

車種	全高
SL 350	約 1698mm
SL 550	約 1677mm
SL 63 AMG	約 1680mm

トランクを開いたときの高さ

① トランクを開いたときの高さ

トランクをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	1855 ～ 1878 mm

ℹ タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷238 ページ）。

ℹ 左右に必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

ℹ 標準タイヤとウィンタータイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

ℹ タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
全車	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 30mm 後輪 31mm

! 標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

! タイヤローテーションは行なわないでください。

オプション装着用タイヤ / ホイール

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
17 インチホイール	255 / 45R17	8.5J × 17	35mm
18 インチホイール	255 / 40R18	8.5J × 18	35mm
	前輪 255 / 40R18 後輪 285 / 35R18	前輪 8.5J × 18 後輪 9.5J × 18	前輪 35mm 後輪 40mm
19 インチホイール	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 35mm 後輪 40mm
	前輪 255 / 35R19 後輪 285 / 30R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 30mm 後輪 31mm

※ 車種や仕様により、選択できるオプション装着用タイヤ / ホイールは異なります。

! タイヤサイズ 285 / 35R18 または 285 / 30R19 のオプション装着用タイヤ / ホイールには、スノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

i 応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに黄色でペイントされています。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SL 350 Grand Edition SL 550 Grand Edition	185 / 60-17	6B × 17	25mm
SL 63 AMG	175 / 55-18	6B × 18	25mm
SL 63 AMG パフォーマンスパッケージ	175 / 50-19	6.5B × 19	14mm

ウィンタータイヤ

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

i スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
SL 350 Grand Edition SL 550 Grand Edition	255 / 45R17 M+S	8.5J × 17	35mm
	255 / 40R18 M+S	8.5J × 18	35mm
SL 63 AMG	255 / 40R18 M+S	8.5J × 18	30mm
	255 / 35R19 M+S	8.5J × 19	30mm
SL 63 AMG SL 63 AMG パフォーマンスパッケージ	前輪 255 / 35R19 M+S 後輪 285 / 30R19 M+S	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 30mm 後輪 31mm

! タイヤサイズ 285 / 30R19 M+S のウィンタータイヤを装着したときは、スノーチェーンを装着しないでください。

対象モデル

SL 350
SL 550
SL 63 AMG

※この取扱説明書の内容は、2011 年 7 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目９番９号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 30930-071100200 R
6515 3104 20 ÄJ2010/1b, 07/11